

2023年10月28日～11月4日

1. 10/28, 10/29: 第5回鶴ヶ島100kmウォーク（徒步139km）
2. 10/31, 11/1: 諏訪・伊那（徒步28km, 鉄道500km）
3. 11/2, 11/3, 11/4: 奥只見（自転車300km 4,800mUP, 鉄道720km）

Ex1. 11/12: 2023 明神祭（自転車90km 2,300mUP）

Ex2. 5/12: 南会津の温泉（自転車245km 3,948mUP, 車130km）



2023/11/7 AM1:00

序

本記事の題は「2023年10月28日～11月4日」としました。本編3部とおまけ2部の計5部で構成しました。本編で自転車が絡むのは奥只見を旅した記録である第3部のみであります、それを語るには数日前のエピソードである第1部及び第2部に言及する必要があります。単なる自転車記事にするなら題は「奥只見」でしょうが、3つの旅は私にとって同列なものでありこののような題としました。また、本記事では非常に濃密な1週間を過ごしたということを私自身のため記録したいので「行動ログ」のような形式で細かく起きた出来事を記述していきます。

これまでサークル会報にはいくつか記事を書いて私の旅を共有して来ましたが(全然読まれていないどころか存在すら知られていないみたいですね)、第3部に限らず今回の旅は面白い方だと思います。是非一部分でも読んで何でも良いので、最後のページに記載したリンクから感想なんかを貰えると書いた人も嬉しいですね。

事実だけでなく私の言いたいこと(主張)も記述されていますが、こういうものは記事全体に散らばっています。

記事のテーマ：私にとっての旅というもの、様々ある旅の交通手段について

旅に出たい

現在私は大学院の1年です。知っている人もいるでしょうが私は大学4年の冬、卒業前に1か月北海道に滞在して宿のヘルパーをやりつつ冬の北海道を旅するなんてことをやっていました。大学卒業後すぐに大学院へ入学、5・6月に2度自転車で遠出をした後、インターンに研究にと騒いでいたらあっという間に7月に。その時自転車旅に出ようと米坂線、羽越本線、陸羽西線のエリアを走るプランを作りましたが、結局忙しくて没になりました。夏はインターンで旅など出られないしダラダラしていると10月になってしまいます。自転車のシーズンもそろそろ終わってしまうし、明神祭しか行かないのは代わり映えせず面白くないと自転車旅を生やすことにしました。10月11月と言えば紅葉ですよね、丁度Twitterの投稿で奥只見を推している自転車乗りの方が居てその魅力が伝わってきたので奥只見へ行くことにしました。位置関係は後に説明しますが、後述する5月の旅では只見を自転車で走ってきました(おまけ第2部)。ネットで調べるに奥只見は11月1週目に訪れるのが良いらしい(年によって違います)のでその辺りで日程を確保しようとしますが、研究を始めとして他の予定が決定しないので10月の下旬になっても何も決まりませんでした。日帰りで行ける場所ではないので奥只見や只見のエリアで宿泊施設を調べますが、直前だというのとコロナが明けて観光客が完全に戻ってきており、更に3連休のせいで宿が全然空いていないのです。2人の宿泊プランなら1か所だけ空いていたりもしましたが2人分払うなど絶対に嫌でした。加えて10月の最終週から11月1週目にかけてはイベントが多く入っており、こんなので本当に自転車を走らせられるのか不安でした。時間だけが過ぎて行きます。

Contents~面白そうなワード~

1. 第5回鶴ヶ島100km ウォーク

- ・生活リズム矯正と試走のため山手線徒歩一周 RTA37km→泣くほど痛くて(泣いていない)リタイア
- ・皮膚保護クリームプロテクト J1
- ・100km を徒歩で行き、前半 50km グロス 7km/h
- ・足が痛すぎる、強烈な眼気、道路に寝転がる、幻、本当に辛い
- ・膝を壊して以降 2週間のイベントに影響
- ・1kmごとの区間タイム×100 本分のデータ=いっぱいあって見てて楽しい
- ・1日で12万歩
- ・完走した感想

2. 諏訪・伊那

- ・乗車券を安く上手く作る話
- ・18時間改札を出られない話
- ・iPadを使ってみどりの窓口で経路の説明、6枚目の切符で駅員さんが困惑
- ・上諏訪行き終電 10秒前滑り込み
- ・遠すぎる快活 CLUB
- ・諏訪大社スルー
- ・源泉 2°Cの温泉(冷泉)
- ・駅構内の足湯
- ・昆虫食をした話(イナゴ・ざざ虫)
- ・終電で東京へ、帰宅は午前1時、徹夜で自転車旅行の準備をして朝には再び電車に乗る

3. 奥只見

- ・国道352号の1年のうち半年走れない区間
- ・寝落ちしたら高崎のつもりが小山にいた話
- ・最低限の新幹線輪行で予定の普通列車を追い越して回復処理
- ・おすすめの快活 CLUB
- ・1時間寝坊して午前0時半過ぎに起床→1時出走
- ・濃霧で視界前後30m、曇るメガネ
- ・次のコンビニまで120km、次のセブンイレブンまで145km
- ・深夜+真っ暗+街灯0本+1車線+転落したら終わり+ヒルクライム
- ・同じくナイトヒルクライムで追いついてきた自転車勢2人
- ・無限足つき編
- ・「滝雲」～冬季閉鎖前のラストチャンス～、あと日の出
- ・(この間に自転車で枝折峠頂上にいるのはどう考えてもおかしい)、????「ファンキーだな！」
- ・枝折峠の「良いヘアピン」

- ・この狭い道で路駐やめろや、自転車か徒步で登ってこい(半分冗談)
- ・鬼バッ克
- ・雲海に自転車で突っ込む、「雲の中は寒かった」
- ・国道 352 号名物洗い越し～タイヤは乾くことがなく～
- ・グミ沢トンネルとかいう面白いトンネル
- ・大宮から来た夫婦に差し入れを貰う、車中で米を炊く
- ・周囲は雲に覆われていたものの、状況は急速に変化し 4 分後現れたのは……
- ・圧倒的、怖いぐらいの紅葉
- ・めっちゃ景色が良いのにその地の名前が「牛ノクソ沢」
- ・一面の紅葉を横一直線に切り裂く国道 352 号
- ・共に行く仲間が増えた、岐阜から来られたチャリダー
- ・インターネットの知り合いと会ってはいけません
- ・過去最高のキノコ汁、流石に大根を背負って峠は登れない
- ・埼玉からバイトで来ている何だろう、武士？
- ・自転車もバイクも県境で考えることは同じ
- ・カフェ「山ん中」←はい、流石に山ん中と堂々と名乗って良いです
- ・ハンガーノック、辛くてピーナッツを道にこぼすも回収できず
- ・積雪 5m
- ・一瞬で千切れでごめんなさい
- ・福島県檜枝岐村大根卸
- ・旬の裁ちそば、はっとう←うまい！
- ・ミニ尾瀬公園に行ったので尾瀬は行かなくて良いでしょ
- ・尾瀬檜枝岐温泉燧の湯
- ・再会そしてさようなら
- ・60km の虚無、眠気
- ・もうシェッドは走りたくありません……
- ・左膝が……？
- ・肉眼で見える天の川
- ・レベルの高い「かつ重」
- ・只見線の終電で売り上げ貢献
- ・ホテルをキャンセル→○○で寝るのが最も合理的
- ・寝させまいとする嫌がらせ行為
- ・深夜の駅というもの
- ・始発只見線で売り上げ貢献ではないんだよなこれが、レベルの高い紅葉、そして霧の田子倉湖
- ・会津のマッターホルン
- ・再発！100km ウォークで壊した左膝に走る激痛
- ・天然炭酸水(泥水)を口に含んで吐き出す
- ・天然炭酸水(井戸)を汲み上げてボトルホルダーへ

- ・膝が痛い！→温泉で騙す「大塩温泉」(眠すぎ)→ちょっとマシになる
- ・膝が痛い！→温泉で騙す「湯倉温泉」→ちょっとマシになる
- ・「カツカレー醤油ラーメンライス」
- ・宮下アーチ 3兄弟 +只見線通過シーン
- ・電話→出ない→時間をおいて→電話→出ない→もう知らない
- ・第1只見川橋梁、なるほどね
- ・絶対にもう二度と来るか「登りは登りで纏めてくれよ！」
- ・超温泉通のご夫婦、本当にありがとうございました
- ・「東京の銭湯で700円とか絶対に払いたくない」「分かる」
- ・膝が痛い！→温泉で騙す「？？温泉」→ちょっとマシになる やっぱりまた来たいです
- ・跡継ぎ問題
- ・会津若松ちょっと遠すぎる
- ・新幹線輪行
- ・時計が丸一日ズレていた……、いつから？？
- ・勘違いして返金失敗
- ・濃いグレープフルーツサイダー+お茶=?濃いグレープフルーツサイダー+三ツ矢サイダー=?

- ・感動
- ・写真
- ・記憶と記録
- ・なぜ国道標識を撮るのか
- ・北海道記事の供養

- ・国道352号樹海ラインという恐ろしいスペックを持った道路

Ex1. 明神祭

- ・明神祭で初めて行きに輪行をした話
- ・イノシシ？
- ・再再発！100km ウォークで壊した左膝に走る激痛
- ・明神祭？足柄祭？長尾祭？乙女祭？？
- ・長尾峠はおすすめです
- ・右足で走る平地、右足で登る明神峠
- ・左膝のご機嫌取り
- ・全員実質完走
- ・あまりの寒さ
- ・恐怖！街灯0+霧の明神ダウンヒル！
- ・膝が痛くても慣れたもので階段を登れる
- ・帰っても寝るわけには行かず……

Ex2. 南会津の温泉

- ・始発輪行が行き過ぎた結果の終電輪行
- ・鬼怒川温泉 温泉は入れないけれど
- ・最大の失敗
- ・真っ暗
- ・真夜中の小網ダムと川治ダム
- ・面白いヒヤリハット：野生動物と落石
- ・奇妙なことにトンネルのだけが明るいのだ
- ・夜中の国道 121 号は本当にやめておけ
- ・憧れの三連おにぎり
- ・手も足もいたいよ……、氷点下 3°C と体感気温氷点下 23°C
- ・解凍！痛——————い！凍傷？
- ・パンク
- ・木賊温泉での素晴らしい出会い
- ・ドライブ開始
- ・湯の花温泉の 4 湯
- ・石湯、弘法の湯、天神湯：この価格帯に慣れていたら東京の銭湯には金を渋りなくなる
- ・ライダーを含めて 3 人でお話
- ・古町温泉赤岩荘
- ・学校に火をつけて燃やした？
- ・初めての檜枝岐と裁ちそば、はっとう
- ・ドライブと国道標識撮影、寝落ち
- ・只見ダム、田子倉ダム
- ・旧田子倉駅
- ・今まで見たことがないタイプの道
- ・5 月の雪と桜、雪解け水
- ・田植えの季節、青空の下、南魚沼ストレート
- ・五十沢温泉
- ・上野鉱泉に入りたかったけれど
- ・清津峡
- ・国道 353 号清津峡トンネル旧道
- ・瀬戸溪谷と清津峡 / 瀬戸口隧道と清津峡溪谷トンネル
- ・星峰の棚田
- ・日本一うまいトコロテン

濃い 1~2 週間を過ごしたので本記事もまた「行動ログ」のような形式で書き進めていきます。細部まで書きすぎて要点が掴みにくくなるのが私の記事の欠点だと思いますが……、いや上に示すぐらいの内容があるから長くなっても仕方がないのでしょうか？3 部の奥只見は自転車乗りの方にぜひ読んで欲しいです。長い記事ですが奥只見の魅力をあなたに伝えたいのです。

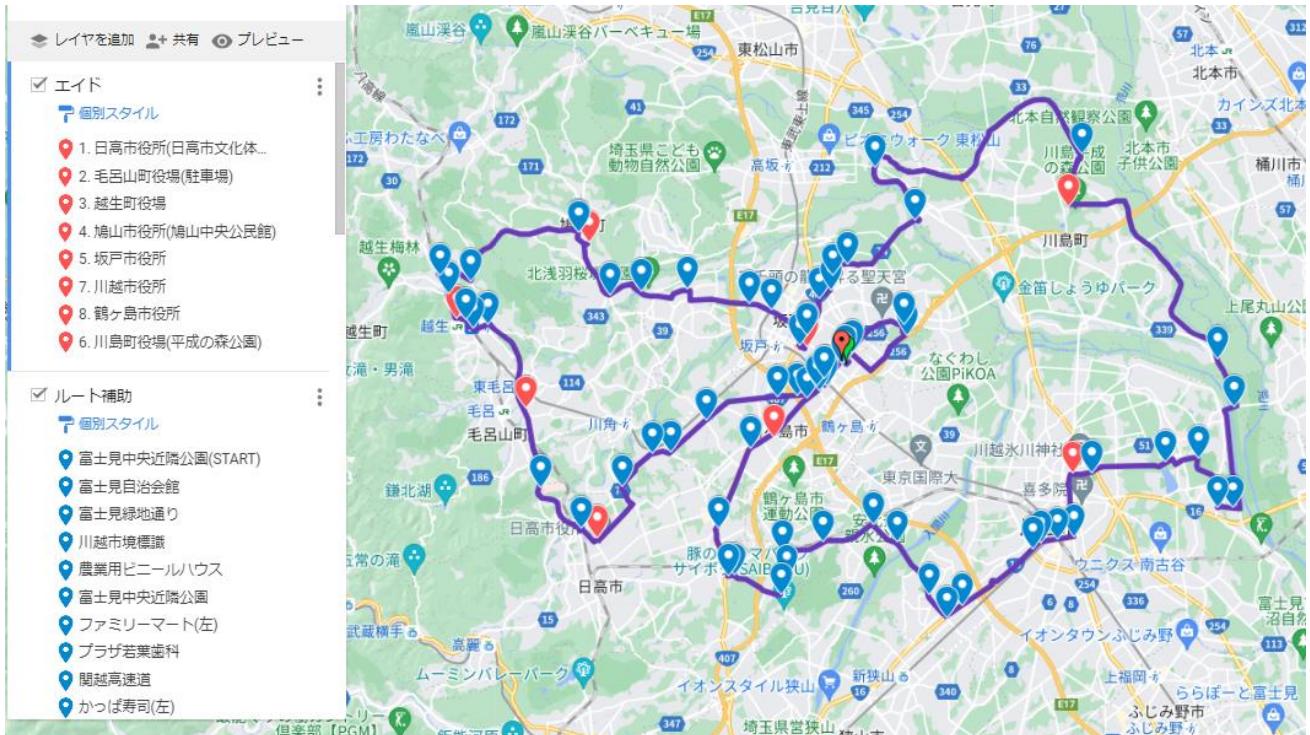
10/28, 10/29 : 第 5 回鶴ヶ島 100km ウォーク (徒歩 139km)

自転車のイベントとしてはブルベやヒルクライム大会など、ランニングにはマラソンなどがありますが、ウォーキングには 100km ウォークというものがあります。その名の通り 100km を歩こうという非常に過酷なイベント(エクストリームスポーツとも言う)であり、1 年通して全国でイベントが開催されています。私は昔から歩くのが好きであり、中学生の頃に先輩から存在を聞かされていてずっと出たかった 100km ウォークに今回初めて参加してきました。全国で行われる 100km のコース内でも難易度差があり、簡単なのは今回参加した埼玉県で行われる鶴ヶ島 100km ウォーク、最も過酷なのはアップダウンの多い富士山一周ウルトラウォーキング 125km でしょう。

・鶴ヶ島 100km ウォーク概要 (<https://tsruwalk.org/>)

埼玉県の秩父までは行かない西の方にある 4 市 4 町をグルっと 100km 歩くコースであり、アップダウンが殆どない平地で信号も少ないのでタイムも出やすいと思われます。2023 年秋で 5 回目の大会であり、コロナが明けたからか今年は定員が前年の倍の 500 名になりました。100km コースだけではなく 41.09km(良いウォーク)コースもあるのでこれぐらいなら誰でも挑戦できるのではないかでしょうか。大会中に聞いた話では来年から 65km コースも新設されるようです。参加費は 1 万円ちょっとですがこれでも安い方です。また、鶴ヶ島 100 の完歩率は高く 80%ほどだそうで初参加にはおすすめかも。

Google マイマップで自作したコースマップ兼キューシート(時計回りに歩く)



エイド一覧 : スタート(0.0km)—日高市役所(15.10km)—毛呂山町役場(20.08km)—越生町役場(24.16km)—鳩山市役所(31.07km)—坂戸市役所(39.90km)—川島町役場(58.39km)—川越市役所(76.52km)—鶴ヶ島市役所(97.43km)—ゴール(100.62km)

埼玉県の西の方は秩父を含めて全然行ったことがなく、エイドとなっている市や町の名前で知っていたのは川越のみでした。そして漢字すら読めないものも……、毛呂山：もろやま、越生：おごせ。少し南に行くと飯能だし定サイでこの辺行くのはありかもしれませんね。さて、100km ウォークですが参加費を払っている以上、どれほどの苦痛を味わおうと完歩は絶対にしたい所です。個人的に完歩に必須だと思うものが1つあります。それが「皮膚保護クリームプロテクトJ1」です。過去のウォーキング経験からして時速7kmを超えるペースで歩いていると3時間、20km過ぎで足の裏に水膨れができてしまい、これができるともう歩けなくなります(経験済み)。靴やソーターなど課金し始めるとキリがありませんが、とりあえずプロテクトJ1だけ持っていれば良いでしょう。

普段運動しておらず部屋や研究室に籠っているので時間が取れない中クリームのテスト、100kmの予行演習、生活リズムを強制的に戻すため、10/19に山手線一周(これで3回目)を行いました。内周縛りや外周縛りがありますが、距離としては大体42km~55kmぐらいでしょうか。過去に歩いた最高距離が65kmである中、どれくらいのペースで行けば足が潰れるのか検証するために(本番で歩く速度の上限を調べるために)最初から飛ばしていきます。

10/19 13:01:24 上野駅時計回りスタート



品川を過ぎた辺りの駅間が長く最初の方に処理したいので過去3回とも時計回りの挑戦となりました。私の普段歩くペースは時速7.4km~7.8kmなので長距離ならグロス7を目標としようと考えました。5駅目の東京駅が13:38:07、東京は信号が多くて本当に歩き辛く、せっかく稼いだスピードが信号で20秒停止するだけで一気に奪われていきます。信号停止を如何に減らすかがグロス維持の1つのコツと言えるでしょう。1時間経過で進んだ距離が7.44km、グロス7.44でした。更にスピードを上げて品川駅を過ぎた辺りで

2時間経過、グロス7.53でした(速すぎ)。本番はこの時点で残り85kmという事実に絶望しながら歩き水膨れができるがちな20kmを過ぎ、21.66km地点渋谷駅が15:56:28(経過2時間55分4秒)と好ペースでした。クリームの効果か水膨れはできませんでしたが、ここまで休みなしで飛ばしてきたせいかふくらはぎの痛みを発症しており足が動きません。3時間グロス7.5は維持できましたが、ここから露骨にペースを落として新宿で足がもう限界近く、足首、ふくらはぎ、太ももの全てが痛み普通の人と歩くペースが同じところまで落ちてしまいます。休んで歩きながら22駅目の目白駅が30.82kmで17:26:22。筋肉痛は我慢できるものだと思っていたのですが、これ無理、痛い痛い痛い。25駅目の巣鴨36.12kmで18:25:01、もう限界が来ていて完歩は無理だと悟りました。気力を振り絞って顔を歪めながら1駅歩きましたが、遂に26駅目の駒込であまりの痛みに耐えきれずリタイア、泣きそうなほど痛い。



18:38:59 リタイア、歩行37.11km、歩数42,732歩、グロス6.6でした。

たかが40kmを歩けなかった原因ですが、睡眠不足(徹夜状態)、食事不足、水分不足、無茶なペースが挙げられるでしょう。ペースに関して言えば、グロス7.5は持続させるには速すぎることが分かりました。ただ、保護した足の裏は全くの無傷でありクリームの効果は確認することができました。そして残すは1週間後の本番です。

大会本番

10/28 と 10/29 が大会本番ですが、なぜ 10/27 と 10/30 に授業の TA が入っているのか……。10/27 の TA を終えてからご飯を食べて早めの就寝とします(22時)。ところがそうすんなりと朝を迎えることはできません。23:53 に外からの騒音で目を覚します。泥棒? と最初は思いましたが、そうだ 0 時~4 時で停電工事を行うのだった……(なので充電は既に済ませています)。再び寝て 3 時前に停電は復旧、しかし何度も起こされて眠ることができず結局ルート確認などをして起きていることにしました(睡眠は 4 時間半)。

持ち物

[必須]

ヘッドライト(大会参加要件)、プロテクト J1(ほぼ必須、足の裏や股の保護)

[任意]

手袋(寒いのであった方が良い)、バッテリーやケーブル類(100km もつように)、替えの靴下(途中で履き替える)、財布、鎮痛剤、補給食(ブラックサンダーと羊羹)

コースマップについて、私は Google マイマップに RWS で引いた GPX を入れてピンをその上に打って行きましたが、本番に歩きながらマイマップを見るのは勧めません。ルート作成には良いのですが、地図を拡大してもきちんと表示されず使い物になりません。ここでお勧めなのが maps.me というアプリを使うことです。マイマップのデータをインポートすることができ、地図も余計な消すことのできないピンでゴチャゴチャした Google Maps と違い見やすいです(更に言うと路線図の表示が Google Maps は見にくすぎて路線図のみ Apple Maps を見ていました)。

ロキソニンですが錠剤タイプが摂取しやすくて良さそうです。私も買いたかったのですが近くの薬局で薬剤師不在を 2 回かまされて買えず、仕方なく貼って浸透するタイプ(7 枚入り)を購入しました。補給食について、エイドでも用意されていますが足りないらしいので自前でも用意していきます。大会は東武線の若葉駅(鶴ヶ島駅ではない)集合で、8:30~9:15 にゼッケンや記念品引き換えを含むエントリーを行います。家にいてもやる事がなく 8 時半に行こうと思っていたら平日休日ダイヤを間違えて遅刻する羽目に……、は乗り換えて走ったのでなりませんでした。

8:26 テンション上がるね

8:42 エントリー



若葉駅からスタート兼ゴール地点である富士見近隣公園へ向かうと全国から来た強そうな walker の方々と一緒にになりテンションが上がってきます。エントリーは 9:15 までに行えば良いのでコンビニに寄つてポカリ 500ml と菓子パン 1 おにぎり 1 を買って朝食とします。もちろんこの間にプロジェクト J1 を必要な部分に塗りたくっておきます。エントリーをするとゼッケンが 2 枚貰え、体やリュックのどこかに着ければ良いみたいです。ゼッケンの色には 2 種類あるのですが、緑が 100km コースの人でオレンジが 41.09km コースの人用、見た感じでは緑とオレンジが 7:3 ぐらい？

鶴ヶ島市長が「おはようございます。市長です。」と言って激励していたのが面白かったです。

開会式

開会の挨拶、太鼓の演奏、けが防止のため準備体操を行います。ウォークは10時にスタートなのですが開会式が予想以上に早く終わってしまい、主催側の方が突然歌いだして場をもたせ、参加者で最高齢(84歳だったか?)と最年少(小学生)の方に一言もらったりしましたが、なお時間が余るので10分ほど繰り上げてのスタートとなりました。

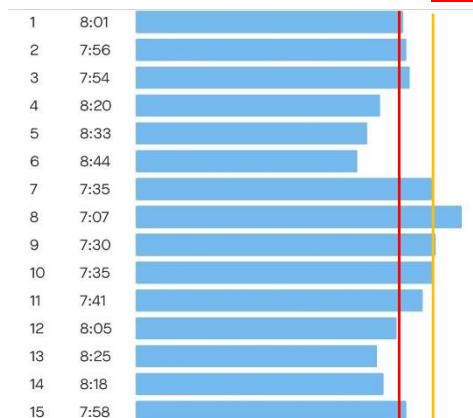
ウォーク開始



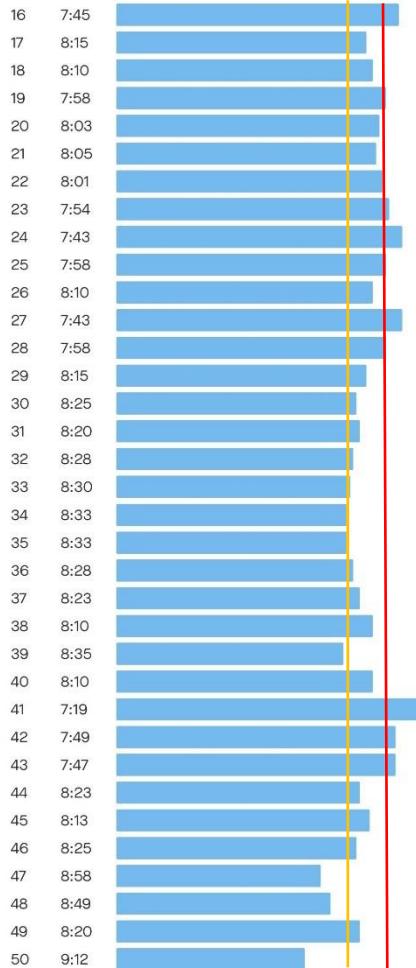
自分の足がどこまで通用するか試したいので、目標は高く14時間切り(グロス7.18)、それが無理なら14時間20分(グロス7)として、普段歩く速さぐらいで最初の3kmほど百人以上を抜いて3人の先頭集団を形成します(実は前に競歩の人が1人逃げていてこの人はダントツ1位でした)。100kmコース出場の60歳ぐらいのおじいさん、41km出場のお兄さん、100kmの私の集団が頭1つ抜けました。41kmの方はトレランをしている方で年間600の山に登るらしい(週末メインで1日に10とか言っていた)。この大会の参加者層は

人並みにしか運動していない人たちばかりだと思っていたのですが、実際は登山やマラソンなどで鍛えている経験豊富な人が多いようです(特に100km参加者)。

スタート～第1エイド[0km～15km]



5km の距離調整区間を終えて公園に戻ってきて地元の女の子から飲料を貰いますが、それ重いのだよ……(流石に断れない)。3人で話しながら歩きますがペースが遅め(7.2km/h ぐらい)だったので 6km ほどで私が集団から抜けて 8.0km/h(後から驚いている)でグロスを 7.5 へ回復させます。ここからはペースの速さから単独歩行が多くなり第1エイド日高市役所に着いたのが 2 時間 2 分後でグロス 7.43 でした。エイドではおにぎり 1 つ、塩分タブレット、飲料を貰い、時間が勿体ないので歩きながら食べます。



第1エイド～第4エイド[15km～31km]

第1エイドまでは飛ばしすぎた感があるので、以降はグロスの数値を見ながら速すぎたら速度を緩めて逆も同様に調節しながら歩きました。先は長いですからね。前半は要らないだろうと思うぐらいエイドが集中しており 15km の第1エイドに続いて 20km の第2エイド、24km の第3エイド、31km の第4エイドと続きます。100km ウォーカーとしては後半の 20km 間隔で訪れるエイドを何とかして欲しいですが。左図の通り第4エイドまでは大体 7.5km/h(赤のライン)近くの 7.4km/h 程度を維持して歩けました。

第2エイド毛呂山町役場 2時間44分グロス 7.38(*)

こここのエイドに補給として置いてあった 0kcal のフルーツゼリーは笑いました。ゴミも面倒ですし丁重にお断りさせて頂きました。

(*)徒歩だとエイドで 1 分停止するだけでグロスが落ちてしまうのが辛い所です。
第3エイド越生町役場 3時間 17 分グロス 7.36, 3位
越生を過ぎた所で先ほど先頭集団を形成していたうちの 41km の方が前に突然現れました(どっから出てきたのだ)。抜かれたくないので足の回転を上げて 7km 先のエイ

ドを目指していると前の人を捉えました。どうも競歩の人以外にもう 1 人逃げていたみたいです。第4エイド直前でその人を抜いて全体 2 位に浮上します。

今回は泣く泣くスルーしたのですが、第2エイド手前のラーメンショップと第3エイドを出て間もなくの豆腐屋さん「藤屋」は本当に寄りたかったです。徒歩だと 1 分の停止も痛すぎる。

第4エイド鳩山町役場 4時間 14 分グロス 7.34, 2位

ここまででは良かった。

第4エイド～第5エイド～50km[31km～50km]

第4エイドを出てからというものペースが上がりません。データから見ても 7.1km/h 程しか出ていません。エイドで貰った補給食のパンがネチョネチョして食べるのに本当に 30 分かかったというのもあります。疲労でストライドが小さくなってきているのでしょうか。まだ痛みは出てきていませんが、タ



イム狙いから地を這った完歩狙いに変えることになる予感はしました。

第5エイド手前で 41km の方に追いつかれ、この先のアドバイスを貰いながら一緒にエイドまで歩きました。やはりロキソニンは必須らしいのと、20分などと休憩しすぎると筋肉が固まって歩けなくなるそうです。

←第5エイド坂戸市役所 5時間 30 分グロス 7.23, 2位

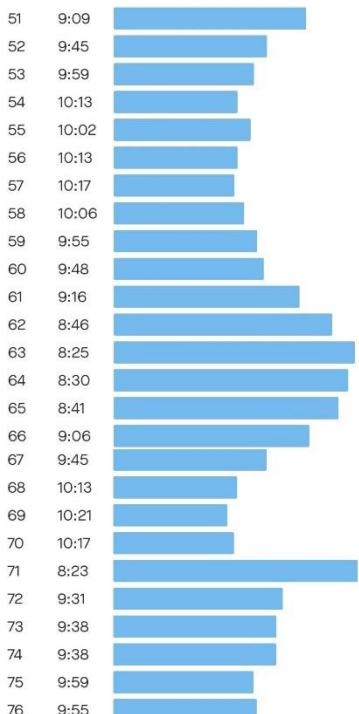
第5エイドでプロテクトJ1の塗りなおしを行うため靴下を脱いでいると100kmの後続が1人到着してしまい3位になります。急いで出発してこの人がコースを間違えている間に抜き去りますがすぐに追いつかれしばらくは共に歩みます。しかし私のペースが落ちているせいでじきに離され、ついに太もも裏の痛みがでてきたので停止して貼るロキソニンを2枚使用しました。結構即効性があって痛みは引いたのでやはりロキソニンは持つべきですね。

17:14 足やばくて休憩



今考えるとここは失敗でした。40kmの第5エイドを過ぎるとエイドが58km、76km、97kmと20km間隔になり、しかもコンビニも自販機も70km地点までコース上に存在しないのです！おかげで訳の分からぬCR上でエネルギー切れになり50km地点にてグロス7.06、グロス7が陥落してしまいました。この時点で時刻は17時であり満月が昇ってきました。暗くなる前に第6エイドに到着したかったのですが、後半50kmは暗闇の中歩くことを強いられます(多くの人は60~65km)。

50km～第7エイド[50km～76.5km]



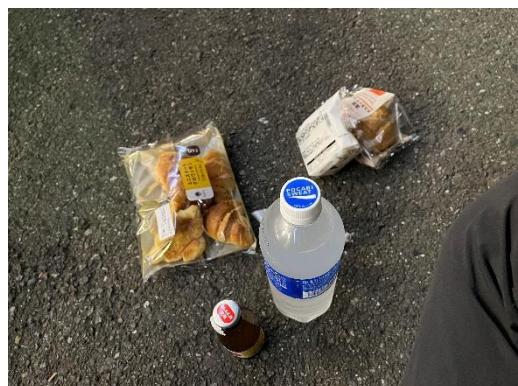
-0 苦しかった区間を挙げるとすれば、50km～58kmはその1つと言えるでしょう(まあこの先に更なる苦しみがありますが)。足が痛かった……のか？記憶が曖昧だけとにかく歩き続けるということができませんでした。ハンガーノックのような状態にもかかわらず補給が得られない、水も尽きました、辺りは真っ暗。道中の多くが街灯0のCRで人も殆ど通らないから体を道に投げ出して空を眺めてしまったよ。水をくれ。景色が変わらないからあまり覚えていないのだけど、コンビニをモチベに気合で第6エイドに到着しました。
-4 第6エイド川島町役場8時間35分グロス6.78、5位
-0 ふと空を見上げると、妙に黄色い星がたくさん浮かんでいます。聞いた所、これは星ではなく祭りで灯籠を空に浮かべているそう。だから騒がしかったのか。

第6エイドの近くにコンビニがありますがコースから外れる必要があるようです。同じ参加者的人にコンビニはこの先コース上にないのかと聞いたら結構先、川を渡らないとないと言われましたが、コースを外れてしまうとメンタルがもたない自信があったので無補給で12km先のコンビニを目指すこととしました。18:39第6エイド出発。第6エイド～第7エイドの20km弱ですが大半が真っ暗なCRであり補給も簡単にはできないので心が折れる人も出るとか。私はと言えば左上のペースグラフを見ると分かる通り、59km～67kmで6km/h～7.13km/hと比較的ペースが回復しています。

68km～70km

第2の苦しい区間でした。68km地点で入間大橋という橋で川を渡るのですが、ここを目標にして歩いており橋を渡ればコンビニがあると思っていた所、あと3kmCRを歩かねばならないようです。橋に着いた時点で座り込んでしまった私は、先ほど第5エイド手前でアドバイスを貰った通り筋肉が動かなくなってしまい、再始動するのが苦しかったです。つまりいきなりトップスピードには乗せられず、体は機械になって暖機運転をしているような気分でした。休んで緊張がとけたからかふくらはぎを中心とした痛みが襲い掛かって辛い。首や上体をまっすぐ維持することにエネルギーを回せずゾンビみたいに歩くこと3kmでようやくコンビニに到着！いつぶりだ。

20:40 ファミマ 20分休憩



もう外面など気にしていられずコンビニの前に座り込み地面に食べ物を並べます。シュークリームなんか買っちゃった。足を休ませてしまったのでまた暖機運転でスピードを戻しますが、もはや出ても6.3km/hでグロスを削っていきます。

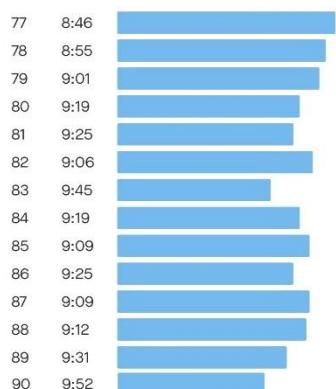
そして21:54

第7エイド川越町役場 12時間3分グロス6.35
エイドで女性のトップにも抜かれました。

第7エイド～90km[76.5km～90km]

プロジェクトJ1を再度塗り直して22:07出発。川越は昼間なら観光できたのですがね。さて、最後の区間が最も距離が大きく第8エイドは97.3km地点であり川越から約21kmもあります。コンビニがコース上にいくつかあるのが救いか。トップはそろそろゴールかなと考えながら重い腰を上げて。

私には「前に進む」以外の選択肢がないのです。あと24km。



夜なので特筆すべきものもなく、6.5km/hほどの川越手前からは上昇したペースで残り距離を食いつぶしていきます。82km地点で女性の2番手の方と一緒に暫し歩きましたが88km地点ぐらいで私の心が折れて見送りました。頑張れば16時間をギリギリ切れた可能性があったのですが、自分に負けてしまいました(いや無理だったのかなあ)。なおこの方は登山をしているそうで鶴ヶ島100の出場も3回目だそうです。



←24時を回る前に撮ったヘルスケアアプリのスクショ

何回見ても唐突な87.7kmが面白い。

過去の24時間最高距離は65kmで歩数が74,000歩だったので大幅更新ですね。

最も苦しい区間へ

90km～第8エイド～100.62km[90km～100.62km]

88km 地点からは一人旅になっており前に追いつこうと思っても足が回らず距離が縮まりません。そんな中、ゴールは目前なのに「強烈な眠気」が完歩を阻むように襲い掛かってきます。前日の睡眠が4時間半で起きてから既に22時間は経過しています。加えて足の痛みも再び激しくなってきました。川越からも15km 弱歩んでおりお腹も空いて来ます。さらに加えて、気温が下がってきて70km 地点からずっと停止したら体が寒いのです。残り10kmですが第8エイドが97km過ぎにあるので10kmを7kmと3kmに区切ると残りの7kmを耐えられるかの勝負になると言えます。

0時も回って誰も見ていないのだからちょっとぐらいう道に寝転んでも良いじゃないかと悪魔が囁きます。心から、後先考えず今すぐ道に寝転んで楽になりたかったのですが、最後に気力を振り絞って確実に斜め前へ進んで行きます。記憶では、寝ないようにするために袖をまくって体を更に冷やし腕をつなぎ、誰も見ていませんでしたし訳の分からないことを叫んだり)奇声を上げたりしながら前へ前へと歩みました。



5 ちょっと言葉のチョイスが違うかもしれません、幻みた
1 いなものをどこかで見たはずです。目の前を同じ100km
1 ウォークのwalkerが曲がっていったように見えたのです
-6 が、誰もそこには居ませんでした。
-2 -3 左団のように足も相当痛いですから最後10kmは時速6km
-2 すら割るようになっています。これ程肉体的精神的に苦しいのは初めてのような気がします。序盤と違って残り距離

が1km減る速度が全く違っており第8エイド手前の3km続く直線は永遠にも感じられました。そんなこんなで1:48 第8エイド到着。

第8エイド鶴ヶ島市役所 15時間56分グロス6.09

エイドに椅子があったので座って運営の人と少し話をしました。この時の気温は14°Cぐらいで寒さが辛かったので雑談もほどほどにゴールへ向かいます。最初はグロス7目標だった所、グロス6が陥落する所まで来ています。流石にグロス6は割りたくないしここでも自分に負けるのは勘弁。

2:24 残り少し！



ゴールまで残り600mという所まで来ましたが、グロス6には数分余裕があるのでセブンに寄ります。ビールを買うのです！
同じ料理だったとしても盛り付け方や誰と食べるかなどでその味は変わりますよね。ならば、疲れた後に飲むのが美味しいビールは100km歩いた後だとどんな味がするのでしょうか？



残り1kmを切ったからと言って感情が高ぶる訳ではありませんでした。それほどまでに疲弊しており、前に足を動かすだけのロボットと成り果てています。

今、選手は16時間半ぶりに富士見近隣公園に戻ってきました。

AM2:32 ゴール！！



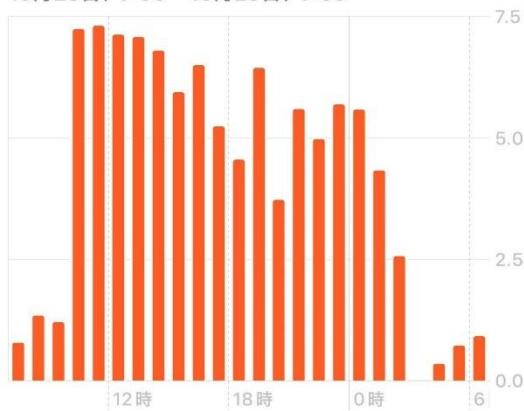
ゴール後に貰えるコーヒーの美味しいこと



合計

102km

10月28日、7:00 – 10月29日、7:00



合計

124,591歩

10月28日、7:00 – 10月29日、7:00



距離

100.67 km

歩数

117,836

タイム

15時間 16分



終わった直後はさほど達成感を感じず、やっと終わってホッとする気持ちが大きかったです。とりあえず運営の方にはサポートに対する感謝の気持ちを伝えました。ゴールすると公園に野ざらしのパイプ椅子が用意されており既にゴールした人たちが団らんしていました。私はというととにかく寝たかったので仮眠できるテントへ。テントへ向かおうと立ち上がる足が痛くて動かない！筋肉の硬直に加えてゴールした安心感からか忘れていた痛みが押し寄せます。

左膝が痛い……？(これ、2部と3部とおまけに関わってきます。)

100km ウォーク中にはあまり痛みを感じなかった左膝が猛烈に痛んで、さっきまで 100km 歩いていたというのに歩くのに支障をきたしています。「イタイイタイイタイイタイ」 と呻きながらゾンビ歩きでテントへ。もう本当に痛くて座るときに「ぐわあああ」なんて言っていたし貼るロキソニンも膝に使用しました(なぜか膝にだけは効きませんでしたが)。

4時過ぎだったでしょうか、私はテントで休んでいましたが雨が降ってきてまだ歩いている大半の人はしんどそうだなと思いました。コンディションが良くてもただでさえ厳しいイベントなのに雨は過酷過ぎますね。歩く前は完歩した後に観光して帰ろうかなとか考えていましたが、そんな余裕はありません。やがて始発の時間になって walker たちに別れを告げて駅へとゾンビのように歩きます。段差を越えるのも一苦労だし左足が歩くのにまともに使えず時速 2.5km……。特に膝が痛くて帰るのも辛かったけれど何とか帰宅しました。以上が第 5 回鶴ヶ島 100km ウォークに参加したよという話でした。

完歩してみて

・自信はつくかも

別に何かを求めてこのイベントに出た訳ではなく、ただ単に前から興味があっただけでした。でも今時車など便利なものが普及して 20km も歩か(け)ない人が多い中、100km を歩き切るというのは相当なことであり自信がついた気がします。20km を体力的に歩けるのは当然として、いつでも当然のように 20km 歩き始めることができる心を持って生きたいなと思います。

・自転車で得る苦痛と徒步で得る苦痛はやはり程度が違う

もしかしたら早歩きによる苦痛かもしれません(普通の人の歩くスピードは 4~5km/h のようです)。自転車で今まで辛かったものを思い出してみると↓

1 位：2023 年 5 月体感気温-10°C以下の南会津(寒さ)

1 位：2021 年明神祭の三国峠(補給不可、吐き気)

1 位：2021 年 10 月峠ラン最後の上日川峠(補給不可、吐き気)

4 位：2021 年餃子ラン前ラン、雪の細尾峠越え(足元が悪く徒步よりスピードが出ない)

でもこれらは一過性のものであり 1 時間もしないうちに苦痛は消えます。私に限った話かもしれませんが自転車に乗っていて筋肉痛にはあまりなりませんし、なったとしても走っているとその痛みは消えていきます。24 時間自転車に乗ったこと(2022 明神祭全自走)も 17 時間歩いたこともあります、前者はあまり疲れなかつたし後者は足という足に痛みをもたらし、それが継続しています。100km ウォークに相当する自転車でやることって何なのだろう。

・来年も出ます

90km 台では本気で二度と出るかと思いましたが、家に帰ってみるともう一度出たいなあという気持ちを持っています。不思議。

・歩ける(体力的そして歩いても良いという心の持ちよう)とできることが増える

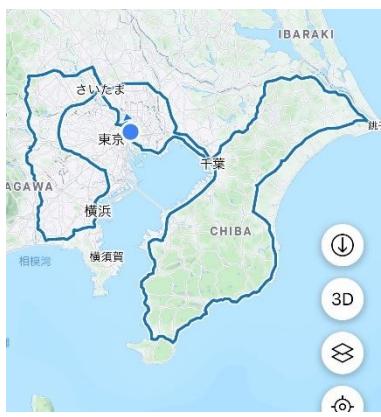
旅行とか特にそうで普通の人は考えもしないような選択が可能になります。

本日 11/7 に大会結果が出ました (https://tsruwalk.org/20231027_5th_tsruwalk_result/)。

記録は 100.62km を 16:38:36.81 のグロス 6.046 でした。100km コースは出走 257 人の時間内完歩 207 人(制限時間 26 時間)で完歩率は 8 割、グロス 7 以上は 2 人、グロス 6 以上は 22 人という結果でした。41.09km コースに出ていたら優勝していたのだけどなあ。

10/31, 11/1：諏訪・伊那（徒步 28km, 鉄道 500km）

10/29 朝に 100km ウォークから帰ってきて風呂に入ったらもちろんすぐに寝るわけです。部屋の中を移動するのも主に膝のせいで辛いので食べ物やビールを布団の横にまとめて動かなくて済むように。(ビールをテントの中で飲むのは憚られて完歩直後には飲めませんでした。来年こそ完歩後にビールを。) 11 時間ぐらい寝て 19 時起床。まだ計画も何も作っていませんが自転車旅行のことを考えると睡眠時間の調整が重要になってきます。が、晩飯を作つてもう一度寝られそうだったので翌朝まで睡眠。10/30 は午後に TA が入っていたので簡単に資料に目を通して大学へ。昨日よりはマシになったもののやはり歩くのが辛い。さて、1 日飛ばして 11/1 には長野県の方で用事があり鉄道で行くのですが、安い切符を作りたかったため奥只見へ行こうとする自転車旅行(第 3 部)と共に計画を考えます。



4月頃から長距離片道乗車券にハマっており上手く経路を作ろうと旅行の度に試行錯誤しています(まだまだ素人ですが)。上手くやると乗車券を安く作ることができるので長くなるのでここでは記述せず興味があれば調べてほしいのですが、片道乗車券の経路を作るためのルールとしてループする経路を作るとそこで切符が打ち切りになるというものがあります。このルールの範囲内だと左のような経路(オリジナル)を 150 円で乗れちゃうのですね。ただし 18 時間 1 度も改札を出ることはできません。あとトラブルの元になりかねないので位置ログを記録したら説明がしやすいでしょう。

どうして長距離の切符だと安くなるかは下の JR 東日本旅客営業規則第 77 条に書いています。下表を見ると 300km 以下と 600km 以上では 1km 当たりの値段が半額以下になっていることから距離は増やすだけ割安だと言えるでしょう。

300キロメートル以下の営業キロ (第1地帯)	1キロメートルにつ き	16円20銭
300キロメートルを超える営業キロ (第2地帯)	1キロメートルにつ き	12円85銭
600キロメートルを超える営業キロ (第3地帯)	1キロメートルにつ き	7円05銭

https://www.jreast.co.jp/ryokaku/02_hen/03_syo/02_setsu/index.html

切符には有効期限がありますが、これは旅客営業規則第 154 条で規定されています。

https://www.jreast.co.jp/ryokaku/02_hen/04_syo/02_setsu/

片道乗車券は営業キロが 100km なら 1 日、200km までなら 2 日、そこからは 200km 増えるごとに 1 日が加算されます。

これらを上手く使ってお得な切符を作ろうという話です(試行錯誤の過程は省略)。

そもそも、切符を作った時点で奥只見へ行くということが確定するのです(流石に切符を買っておいて捨てるのは嫌なので)。しかし鶴ヶ島で膝を壊しているし睡眠時間もめちゃくちゃ、奥只見はそんなにぬるい場所ではないのです。10/30 夜から 10/31 朝はダラダラ調べ物をしたり行くか行かないか考えたり、そろそろ決断しないといけません。

よし、行くぞ。

行くと決めたからには切符作成の手間などを考えて計画や必要な切符などの洗い出しをします(朝 6 時から 30 分で作って Word1 枚に纏めました)。この辺の話は 3 部の奥只見編で記述しようと思います。

奥只見もいいけれど翌日に迫った長野での用事の準備をせねばなりません。荷物の準備や Y's Road での消耗品補給をやっていると 10/31 の夕方になりました。用事のために前泊をしようと考えており、特急を使う気などさらさらないので奥只見の分を含めた切符の発券のため急いで東京駅に向かいます。車内では駅員さんへ経路を説明するための資料を作っていました。

説明の様子

18:45



上手く経験豊富そうな方に当たってラッキーでした。でも忙しい時にややこしいのを含めて 6 枚も発券させて申し訳ない。右図は 6 枚目の切符で「なんで山手が入るんだ?」とよく分からぬ経路が印字されて裏に確認を行った様子。おかげで電車の時間が危なかった。長野方面へ行くには東京駅から中央線でひたすら行きますが、私がこの日中に行こうとしていた上諏訪への普通列車最終が 18 時 51 分発でした。切符を受け取ってダッシュして何とか終電に飛び乗りましたが、あと 10 秒遅ければ乗り遅れており甲府止まりにしていたでしょう。

23:04 上諏訪駅で途中下車



奥只見の都合上、午前 0 時前に起床する生活リズムがベストであり、そのためには午後 4 時に寝る必要がありました。そのために東京ー上諏訪はできるだけ寝ようと心がけました(あまり寝られず)。どうして上諏訪かというと行きたい温泉がそこにあったというのが 1 つ、もう 1 つは店舗にもありますが 1,200 円～2,000 円で寝られる快活 CLUB がそこにあるからです。上諏訪の快活はこれまで泊まった中では最も駅から遠い 3.7km でした。旭川は 2.5km だったけどこれは遠すぎ。

2023/11/08 AM1:13 今日出張が入っているので一旦筆を置く。

2023/11/9 PM:0:04 終わったので再開する。

23:46 快活 CLUB に到着

先ほど書いた通り、奥只見への睡眠調整のため理想的にはこれから翌日 16 時まで寝られないのですがそれは無理なので少しだけ眠ることに。結局、2 時半頃まではゲームをして 3 時間寝たのち長野での用事の準備をしました。

7:45 快活 CLUB 出発

快活 CLUB の何が良いのかというと、その安さが全てでしょう。店舗によってサービスも値段も若干違いますが、20 時以降の入店で適用されるナイト 8 時間パックは 1,500 円ぐらいしかかからないし、学生なら 2 割引で今回かかったのはたった 1,240 円でした。昔よりサービスは悪くなっているようですが、シャワー、ドリンクバー、アイスも付いているので個人的には文句はありません。いや、やはり駅から遠いのは文句が言いたくなります。そもそも快活 CLUB は宿でも寝る場所でもありませんし、ブースだと電気が消えない上変な音楽が流れているので無理な人は多いかもしれません。個室は空調の一括管理が気に入らないのと寝過ごしてしまいそうなのでブースばかり利用しています。

上諏訪に早入りした目的は 1 つであり、とある温泉、ではなく冷泉に浸かること。用事の前に行くのか用事を済ませてから行くのかは悩みましたが、結局前者にしました。とある冷泉の最寄りは 1 駅西の下諏訪駅。現在いるのは上諏訪なので昨日と同じ 3.7km を歩いて、途中下車した上諏訪駅で再入場して下諏訪駅で下車します。冷泉は駅から 2~3km、その前半はいつの日か歩いた道を行きます。

道中、諏訪大社四社の 1 つである下社春宮を通ります。歴史背景を知らないから「ふーん」としか言えないのですが、前来た時は 8 月で今回の 10 月末は少し紅葉していてまた違った姿を楽しむことができました。なお上社の 2 つと下社の 2 つは結構距離が離れているので注意(私は鉄道と駅からの徒歩で全て訪れました)。それこそ自転車は有利ですね。



今回は諏訪大社が目的ではないのですぐに通り過ぎて、私が歩みを進めるのは諏訪大社脇の信じられない傾斜の道路。本当にここを上がるの?と驚いたもん。冷泉の日帰り入浴が 10 時からなので壊した膝をいたわりつつ少し急ぎ目で 1km ぐらい。背後には諏訪湖にかかるチ雲海が見えました。最後にまた大変な傾斜を上って、同じく温泉目当てであろう車を急いで追い越してようやく到着。

毒沢鉱泉神の湯

今回の目的は「毒沢鉱泉」、「ぶすざわこうせん」だと思っていたのですが「どくさわこうせん」と読むようです。湯に浸かれる施設は現在 2 か所、宮の湯と神の湯です(2014 年に沢の湯は閉業)。私は温泉全般が好きなのですが、最近のマイブームが「冷泉」です。去年の轍記事のやまと天目山温泉で書きましたが、25°C以上のものが温泉でそれより下が冷泉と言えます。25~35°Cぐらいの「ぬる湯」もいつまでも入っていられて好きですが、25°Cを下回るようなぬるいを通り越して冷たいのも好きです。問題は冷泉を提供している施設がそんなに数がないこと。そんな中、この毒沢鉱泉はなんと源泉温度が 2°Cなのです(気温にもよりますが)。そりゃあ冷泉好きとしては行かないわけにはね。

営業時間は大体 10 時~21 時ですが、不定休なので HP で確認してから行きましょう。

浴室の様子(一番乗りなので)



写真の中で右の浴槽には源泉を加温した湯が、左の 1 人しか入れない小さな浴槽には冷たい源泉が注がれています。右は循環させているので飲用不可(ちょっと含んだけど)であり、源泉の方は紙コップも置いてあり飲むことができます。ただ、飲みすぎは良くないらしく何かで見た情報では 1 日 200mL までとか。加温浴槽の方は程よい温かさ(ぬるくはない)で自分好み。源泉の方は過去入った冷泉より一段と冷たく感じ、入る時は声が漏れるほどでしたが入ってジッとしていれば大丈夫。後から考

えるとこの時浸かった冷泉は 2°C よりは高かったでしょうが(10°C は割っていたと思う)、それでも指一本たりとも動かしたくなく春の北海道の海で泳ぐのは無理なのだなと思いました。冷泉に 2~3 分浸かって冷え切った体を加温浴槽で急激に温めるというのが気持ちよく、何周かしました。飲泉についても結構行いました。不味いという人も多いだろうけれどレモン味が効いていて私は好きでした。源泉なのですが、お茶やサイダーと混ぜると面白い反応が起きると聞いていたので少し拌借して持って帰りました。

ところで旅行中は怖いもの知らずになるのですが、私が入ってすぐにいらした先ほどの車の 3 人組、[.] {10,15} 普通に話していましたね。八王子から車でやってきたそう。

私は冷泉だと入浴時間が長くなる傾向にあり、着いたのが 10 時の開店時間、風呂を出たのが 11 時 20 分でした。最後は加温浴槽で体を温め、風呂外にある神社を散策します。これが結構良い雰囲気。



神の湯では宿泊もやっており少しだけ館内も散策しました。この神の湯は JR の駅から徒歩 3km と近いのですが森の中にあって秘湯感は思ったよりありました。あとデザインには詳しくないので、雰囲気? 世界観? を大事にして空間を作っているように感じました。さて、入浴料は「1,000 円」 + タオル 200 円と温泉のくせに非常に高いですが、もうろろ含めて妥当かなと感じました。毒沢鉱泉神の湯、次があるならぜひ宿泊したいと思います。

晴れ渡る空、眼下の諏訪湖



あとは鉱泉から駅までの復路 3km を電車に間に合うよう歩くのみですが、帰りに少し面白いことがありました。朝は寒かったものの昼近くになり気温も心地よいほどに上がってきた中、温泉の帰りに住宅街を歩いていた時のことです。おばあさんから前に鹿がいると急に言われます。確かに前方、家の前にカモシカがおり、こいつは道路を横切って反対側の畠へ向かってしまいます。クラクションを鳴らして追い払おうとするのですが鹿は知らん顔で畠の野菜(大根の葉?)を食べてしまいます。近くに山があるのでそこから来たのでしょう。おばあさんによると頻繁に鹿がでてきて畠が荒らされるのだとか。自分が追い払おうかと思ったけど下手に刺激したくなかったのでやめておきました。

私の旅ではこういった予想もしない出来事に巻き込まれることが多いと思っているのですが、「歩いているから」ではないかと思います。車ではスピードが速すぎるのですね。これが、私が徒歩を選択する理由の 1 つ。

上諏訪駅の足湯

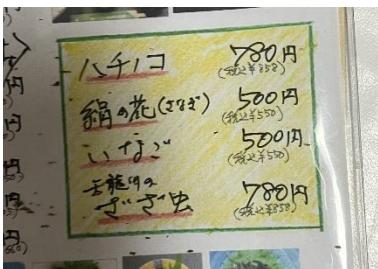


書き忘れていました。毒沢鉱泉の最寄りは下諏訪駅ですが、先ほどいた上諏訪駅には駅構内に足湯があります。上諏訪駅で降りたのは少なくともこれで 4 回目なのですが、毎度足湯の営業時間が合わなかった中、今回初めて入ることができました。足湯に浸かりながら目の前に特急が入線して人々が歩いていくのは面白かったです。足湯のほかにも温泉卵を駅構内で作れますし面白い駅です。

再び下諏訪駅に戻りましょう。長湯をしたせいで飲食店に入る時間がなく、駅で売っていた弁当をホーム内のベンチで食べます。ここで旅は中断して用事を済ませるために更に列車に揺られて飯田線へ、とある駅で下車をしました。

用事

用事が済んだらもう辺りは暗くなつており現地で晩飯を済ませていくことにしました。疲れていたので伊那地方のご当地グルメ「ソースカツ丼」を無言でかきこんだ後、一息ついてメニューを見ると無理な人も多いであろう面白いメニューがありました。昆虫食です。



左のメニューの中であなたならどれを食べますか？

1. ハチノコ
2. 絹の花(さなぎ)
3. いなご
4. 天龍川のざざ虫

無難というか王道というか、1と3は昆虫食としてはよくあると思います。昆虫食とは縁遠い都会に暮らす私からすると失礼ながら明らかにヤバそうのが2と4で4は名前が面白いから興味がありました。昆虫食は初めてだと思っていたのでまずはいなごを頼んでみました。個人的には見た目が結構可愛くて味の方も外側だけパリッとしたいかなごみたいで結構美味しかったです。連れと仲良く半分こしました。これに自信をつけた私は天龍川のざざ虫を頂くことに。ざざ虫とはトンボの幼虫(という認識で良いのかな?)の伊那谷における呼称だそう。食べてみると、身がいなごより少なく食感は好みではないかも。味はよく分からなくて先ほどのいなごとは違ったのだけれど、食べるのを放棄した連れの分まで食べているといなごの味に漸近していました。貴重なタンパク源(これは本当)ですから残すなどありません。店員さんの1人は伊那地方出身ではなくてこういった昆虫は食べたことがなかったそうで、○○みたいななんて言っていました(笑)。

ソースカツ丼 うまい



いなご かわいい うまい



ざざ虫 まあまあ



あとは上手に作った乗車券で東京まで帰るのみです。現在19時で特急を使うつもりはないで帰宅できるのは翌午前1時頃になります。飯田線が遅いしそもそも諏訪は東京から結構遠い。翌日には奥只見旅へ向けて東京を発っていますから、ここでも睡眠調整(午前0時に起きるリズム)のために帰りの列車ではできるだけ寝るようにしました。

ところで、私は位置情報ゲームの1つである駅メモというのを遊んでいます。ゲームは簡単で、全国各地の駅に行ってゲーム内ボタンを押すことでチェックインができるというもの。無料ユーザーは1日に12駅までしか取得できないので適宜アイテムを使うなり課金するなりする必要があります。只見線は乗ったことがなく、只見以東の20~30駅は未取得であるため無課金だと駅を取り切れないのです。何か手段はないか探した結果某駅に行くとアイテムが貰えるそうだったので某駅まで行ってから終電で帰宅しました。

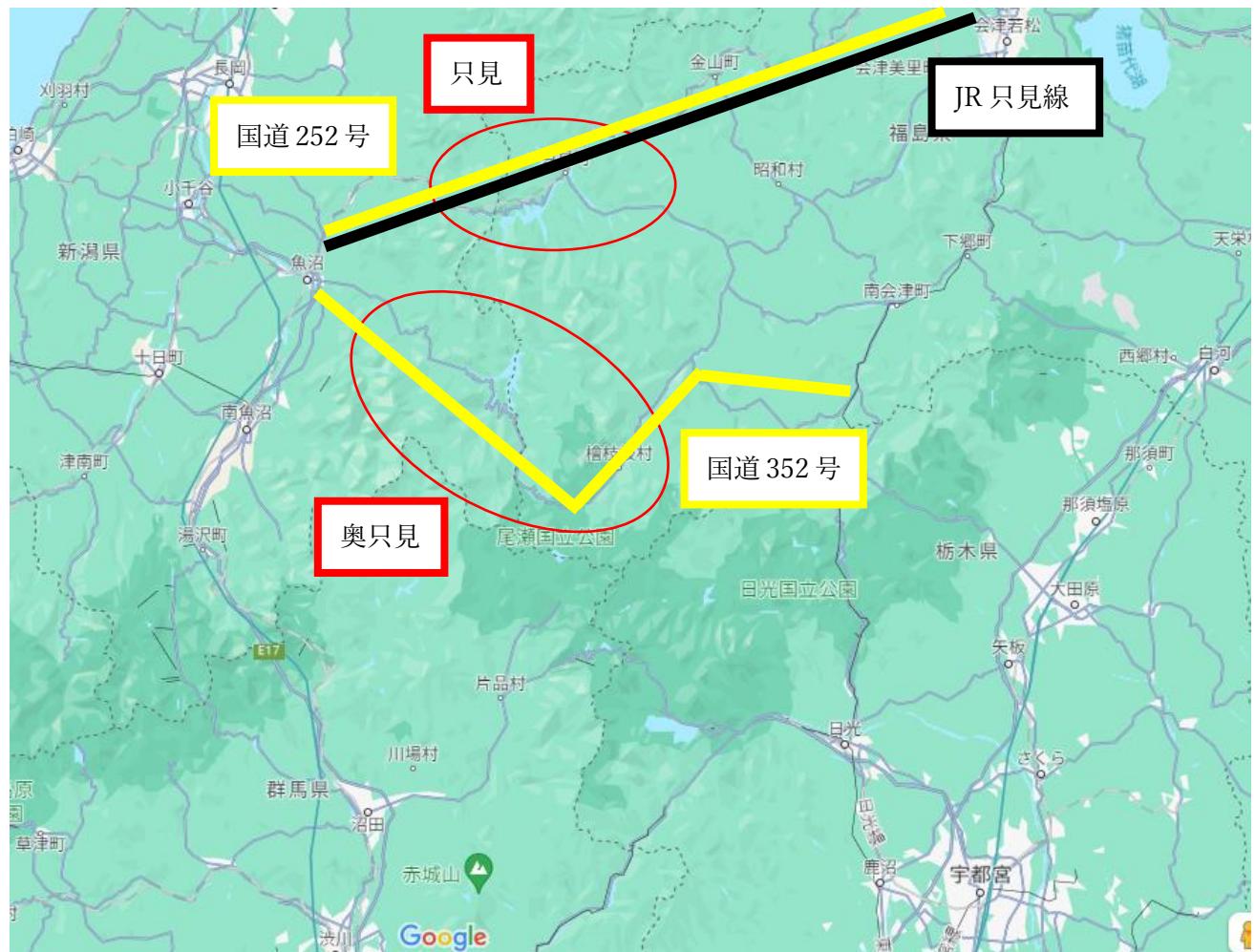
翌日は体を動かすのでエネルギーになるものを食べました。

11/2, 11/3, 11/4 : 奥只見 (自転車 300km 4,800mUP, 鉄道 720km)

初めに言っておくと、奥只見をおすすめしたい。そして奥只見にはぜひ自転車で行って欲しいです。ただ、碌に準備せずに行くと山に飲まれるし、楽しむことはできないかもしれません(走力のある人はその限りではありません)。以降で詳しく書いていきます。

最初に行程や発券した切符、コースの特徴や制約について書きます。

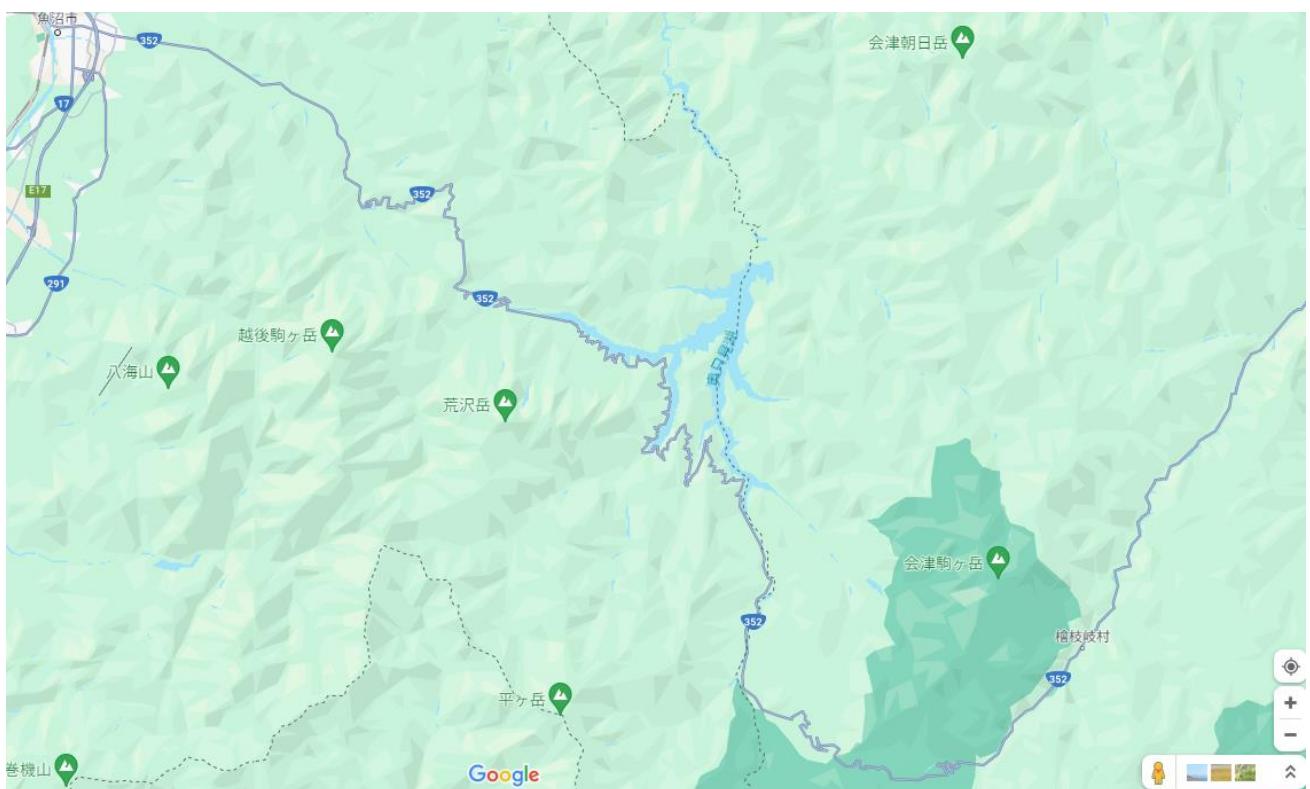
ざっくり只見・奥只見ってどの辺?



福島県の西の端で個人的には新潟の端っこも只見・奥只見エリアと呼びたいです。只見と奥只見は山で南北が完全に分断されており車での行き来が容易ではありません。只見エリアには国道 252 号と並行して新潟県の魚沼市から福島県の会津若松市へ至る JR 只見線が通っています。只見線は 2011 年の豪雨から一部区間がバス代行輸送となっており、全線運転再開はなんと 11 年後の 2022 年 10 月 1 日でした。只見線は立派な橋梁が有名で写真を撮る人たちには人気みたいですね。只見も険しい場所だけど奥只見に比べればまだ良いのです。問題なのは奥只見を通る「[国道 352 号](#)」、今回の旅の主目的の 1 つです。

国道 352 号(酷道 352 号)

国道 352 号は日本海(新潟県柏崎市)から長岡、魚沼を通って南会津、日光の方面へ行く道路であり、魚沼～南会津の区間が険しい道(酷道)として知られています。しかしこの区間は四輪とそれ以外で通れる道の選択肢が異なります。四輪は奥只見シルバーライン(県道 50 号)という 20km ほどトンネルが続く道路を通過ますが、二輪は通行禁止なのです。国道 352 号は魚沼から標高を上げて 1,065m の枝折峠(しおりとうげ)を通って奥只見湖南湖畔へ降りますが、車だと枝折峠を避けることができます。奥只見湖南湖畔は地図の通りグネグネした道が 30km ほど続き、最後には標高 1,520m の御池ロッジまで登り、あとは下り基調が続きます。一部区間では電波もないエリアが続きますが、自転車で行くとしたら一番の難点は 100km 以上補給が期待できないことでしょう。檜枝岐村中心部にはコンビニがありませんから、魚沼のラストコンビニからは 120km でローカルコンビニ、セブンイレブンに至っては 145km 山を走る必要があります。そのため私のような一般チャリダーは準備が必要なのです。



国道 352 号に関して旅の制約としてのしかかるのが、「冬季閉鎖」です。下にこれまでの国道 352 号枝折峠(駒の湯一銀山平)と銀山平船着場一県境の冬季閉鎖について纏めます。これほど長期間閉鎖される国道を他に知らないのですが(工事をしている国道 458 号は除く)。ソースは Twitter など。

年	冬季閉鎖解除	冬季閉鎖開始
2019	6/21	11/11
2020	6/12	11/9
2021	6/30	11/9
2022	9/16	11/9
2023	6/23	11/6 午前 9 時

今回奥只見に行こうと思ったきっかけは紅葉であり、それも終わり間際の朽ちかけの紅葉を狙っていました。Twitterで奥只見の様子をチェックして良い時期を狙っていたのですが、結局11/4と11/5に雨が降るとの予報で11/6には冬季閉鎖ですから奥只見の核心部を11/3にぶつける以外の選択肢はありませんでした。11/3に奥只見を走るには11/2の前泊が必要であり11/1は長野で用事がありましたから、長野から帰ってすぐに福島方面へ行くという無茶をする以外にありませんでした。奥只見へ東の会津若松から入る、西の魚沼から入る、という選択肢がありましたが、色々検討した結果西の魚沼から入ることになりました。前泊をしたとしても奥只見を1日で通り抜けて都合の良い駅に行くには200km以上走る必要があったので1泊入れることに決めて宿を探します。

滝雲問題

調べていると枝折峠に早朝に行けば「滝雲」という現象を運が良ければ見られるということを知り、せっかく行くのだから是非見たいと行程に組み込むことにします。そのためには真っ暗な中峠を上るというのを加味して、日の出が午前6時だから余裕を持って朝3時に上り始めたい、それを実現するような宿を探します。

前泊の宿をどこにするか

国道352号の上り口に近いほど当日の負担が減ります。そして午前1時など非常識な時間にチェックアウトできる宿を只見線の端っこである「小出駅」近辺から探していきます。主にネットカフェを探しますが、本当に見つからず困りました。魚沼、南魚沼、十日町、小千谷と見ていくも数年前に潰れた店舗ばかり引っ掛かります。結局、気は進まないものの小出から約40km離れた長岡の快活CLUBへ泊まることにしました。始発の列車でも小出の出走が6時頃になって滝雲に間に合わないので暗い中40km走る、つまり2時間かかるのが少ししんどいです。でもこれより良い選択肢が見つからなかった。

2日目の宿をどこにするか

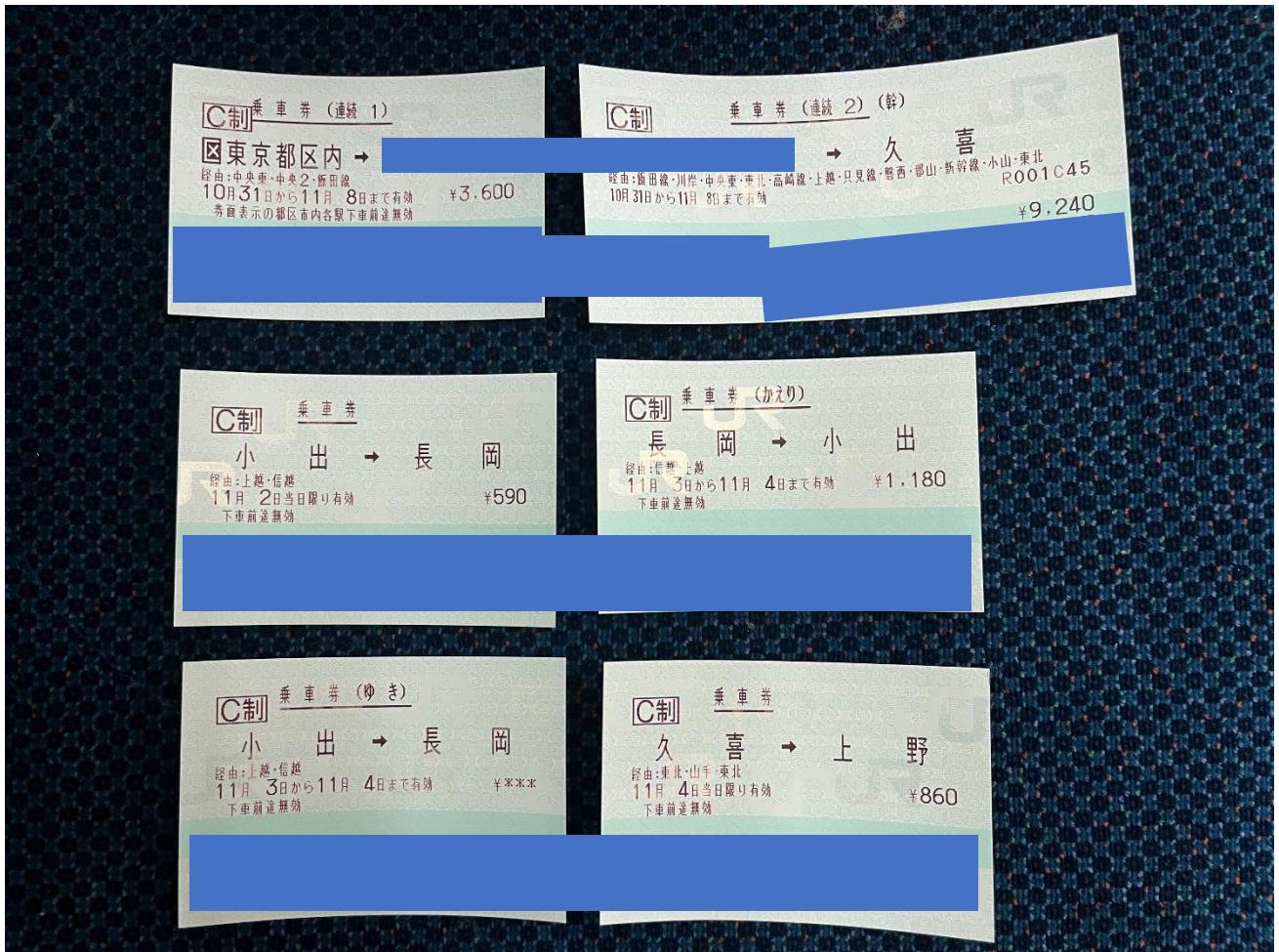
11/3に枝折峠などを通って檜枝岐へ抜けたとして、泊まるなら檜枝岐かひと山越えた木賊(とくさ)もしくはふた山越えた湯の花エリアかと考えました。とりあえずじゃらんで11/3の宿泊を調べるのですが、やはりコロナ明け+祝日+3連休1日目+道路閉鎖3日前ということで空きはありません。じゃらんに乗っていないような所も調べますがやはり空いていないようです。1か所だけ2人なら泊まれるという宿はありますが、立地と金額で却下。範囲を広げて只見まで見ても同様でした。結局また長岡しかないと判断して、檜枝岐から更に60km只見駅まで走って輪行で長岡まで抜けるという計画にしました。長岡のビジネスホテルを予約～。(ここは最終的に泊まっていませんが後ほど。)

2日目の行程

先ほど書いた通り11/4は雨予報なので、雨が降ってきて嫌になったら撤退できるように只見線沿線の散策を行うことにしました。長岡で朝まで寝て只見駅に午前10時の列車で戻ってきて、只見駅から線路沿いに東へ、温泉を楽しみながら可能であれば会津若松まで抜けるという計画を立てました。作成する切符の関係もあって只見線沿いを行くのが好都合なのです。帰りですが、只見線で輪行する場合郡山から新幹線に乗らねばその日中に東京まで帰れません。

作成した切符

長野での用事分と一緒に東京駅で作って貰った切符がこれです。



- ・1枚目と2枚目は連続乗車券で作っているけれど、別にその必要はなく気分でやった
- ・2枚目の経由は以下
「飯田線・川岸・中央東・東北・高崎線・上越・只見線・磐西・郡山・新幹線・小山・東北」
- ・2枚目を久喜(大宮のちょっと北)で止めているのは大宮でループを形成するのを防ぐため。本当は大宮の1駅隣である土呂駅までにすれば良かったけれどミスした(追記: 規則上大宮まで買ってOKだということに後で気付きました)
- ・東北新幹線はまだ乗るか分からなかったので直前に予約することにしていた
- ・有効期間が10/31~11/8と過剰(900km以上あったはずだから仕方ない)
- ・小出と長岡の行き来については3枚目が前泊分、4枚目と5枚目は往復で買っており5枚目が只見から輪行して長岡へ行くための分、4枚目が11/4に長岡から只見へ行くための分
- ・駅員さん「これ小出一長岡(3枚目)の帰りはどうするの?」私「自転車です。」
- ・11/3分「只見一小出」は六十里越峠を自転車で走る可能性があったためまだ購入しなかった
- ・6枚目の切符を発券する際に駅員さんが裏に確認に行ったのは「東北・山手・東北」でなぜ山手が入るのか確認したから

説明はこれぐらいにして時間を11/2午前1時から進めましょう。

旅行の計画を作ったのは良いとして荷物の準備や自転車のメンテナンスは一切行っていないのでダラダラその辺をやります。前に長距離を乗ったのが6月の上日川祭であり、以来自転車は輪行状態だったので組み立ててチューブ交換と油差しを行いました。何回やってもタイヤを外すのに時間がかかる上たまに手を怪我してしまうし、タイヤをはめるのも下手くそです。そんなこんなで寝ずに夜が明けて出発の時刻になりました。もう生活リズムがめちゃくちゃです。

9:50 輪行するのも久々



午前0時に起床する生活リズムのために長岡15時到着を狙って普通列車に乗り込みます。

落ち着いたから眠気が……！

起きたら小山でした。



目を開けたら妙に乗客が少なくて違和感があったんですよ、それでアナウンスを聞いたら「まもなく小山です」なんて言いやがる。やらかしたやらかした。最初は大宮で電車が分離して前は東北本線へ、後ろは高崎線へ行ったのかと思いましたが、写真から推測するに乗る列車を間違えたようです。ホームは合っていたのですが乗った列車は大宮から東北本線へ、正解の列車はその4分後の大宮から高崎線へ行く列車でした。睡眠不足だと注意力が鈍りますね。

東北本線をそのまま行くのは乗車券もあるし論外であり、とりあえず小山で下車します。

Welcome to OYAMA (虚無の心)



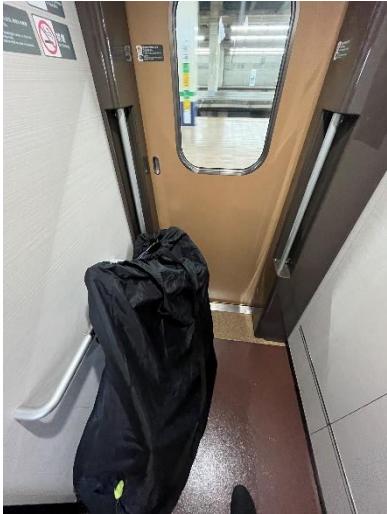
故意ではないので取り敢えず大宮まで戻るしかなく、逆向きの電車に乘ります。予定していたダイヤに追いつくためには新幹線を使うしかないようですが(上越線の水上からが1日5本しかないため)。新幹線輪行は確定として極力お金を払いたくないので調べた結果大宮一越後湯沢のみ新幹線輪行をすることで予定の普通列車を追い越せることが分かりました。でも上越新幹線は特大荷物専用スペースがないので気が乗らないんですよね。

12:37 大宮駅ホームの駅そばにて「佐野ラーメン」

新幹線の切符(自由席)を買ったり、作った連続乗車券の2枚目が自動改札機を通せないことが判明したり、色々ありました。昼飯は駅そばを調べて有名らしい佐野ラーメンというのを食べました。普通の味、リピートはなし。

13:05 大宮—13:56 越後湯沢 新幹線乗車





とき 321 号での輸行でしたが、自由席が混雑していたのでドアの所に立って 1 時間を過ごすことにしました。基本的に進行方向左のドアが開くはずですから邪魔にならないように進行方向右のドア前に陣取りました。

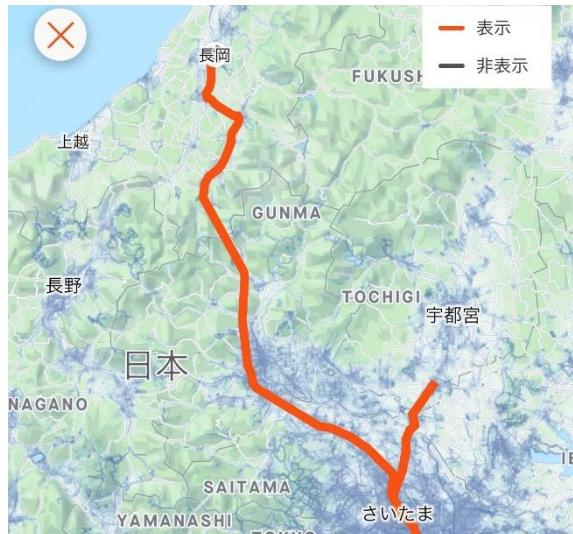
立ちっぱなしだったので越後湯沢から行き過ぎることもなく、無事乗る予定だった普通列車に合流して長岡駅に到着しました。

15:58 長岡駅にて→



郵便局でおろしてから快活 CLUB 長岡川崎店へ。

11/2 の移動 長野行ったり新潟行ったり



長岡に快活は 2 店舗ありますが、長岡川崎店は結構良かったです。自転車で行くならさほど遠くないし、何より嬉しいのは目の前に 24 時間の巨大スーパーがあること。他にも飲食店が近くに充実している好立地です。スーパーでは補給を買いますが、100km の山岳区間を無補給で走れるぐらい必要です。でもそれってどれぐらいかよく分からない。晩飯も含めて弁当、おにぎり 3、パン 2、麦チョコ、ピーナッツ 3 と買ったけれど、食べ物より飲み物の方が枯渇しそう。0 時出走なのですぐに寝るべきなのにダラダラしていて寝たのは 19 時過ぎでした。目覚ましを 23 時にセット。

0:44



またやらかした。起きたら 0 時回ってる。もう雲海見れないんじゃないかな? と思ったけれど元の予定は余裕を持ったものだから 1 時間ならギリギリ大丈夫。これがもう 1 時間遅かったら終わっていました。10 分で支度をして退店、ナイトパック適用外なので料金がちょっと高かったです。(写真を見返すと 23 時丁度に撮ってるんだけど起きた覚えがない……。)

1:05 出走

最初に目指すは枝折峠で長岡からは 61km、チェックポイントとして小出までは 38km なので小出 3 時と枝折峠 5 時目標で行くことにしました。そして日の出は 6:09！

1:11 国道 17 号長岡東バイパス



小出に着いてからの話ですが、枝折峠までは街灯が 1 本もない 1~1.5 車線の道路を真夜中にヒルクライムするという結構ヤバいことをするので不安でした。

さて、快活を出て真夜中の国道 17 号長岡東バイパスを快走します。そんなに車がないですが VOLT200 の省エネモードで路面が見えにくく集中して走行します。ちなみにこのまま真っすぐ 200~300km ぐらい走れば本郷キャンパスまで行けます。

最初は快調に飛ばしていた所、18km 地点小千谷を過ぎた辺りで状況が変わります。

濃霧 前後 30m ぐらいしか見えない



2:18 亂反射して光線がよく見える

眼鏡をかけている人に濃霧は厄介ですぐに視界が曇ってしまいます。2022 年 9 月、北海道の落石と同じく 9 月渋峠ダウンヒル以来の濃霧です。後ろから轢かれないように注意すること。いくら走れど霧は晴れず、ついには 3:00 小出駅到着！(グロス 20)



只見線の末端駅である小出駅に到着しました。こんな時間でも駅の自動ドアが開いてホームに入ることができました(伏線)。余裕のない身ですから山岳区間がスタートする前の最後の補給地点、セブンイレブン魚沼湯之谷店へさっさと向かいます。



3:13 ラスト補給地点到着

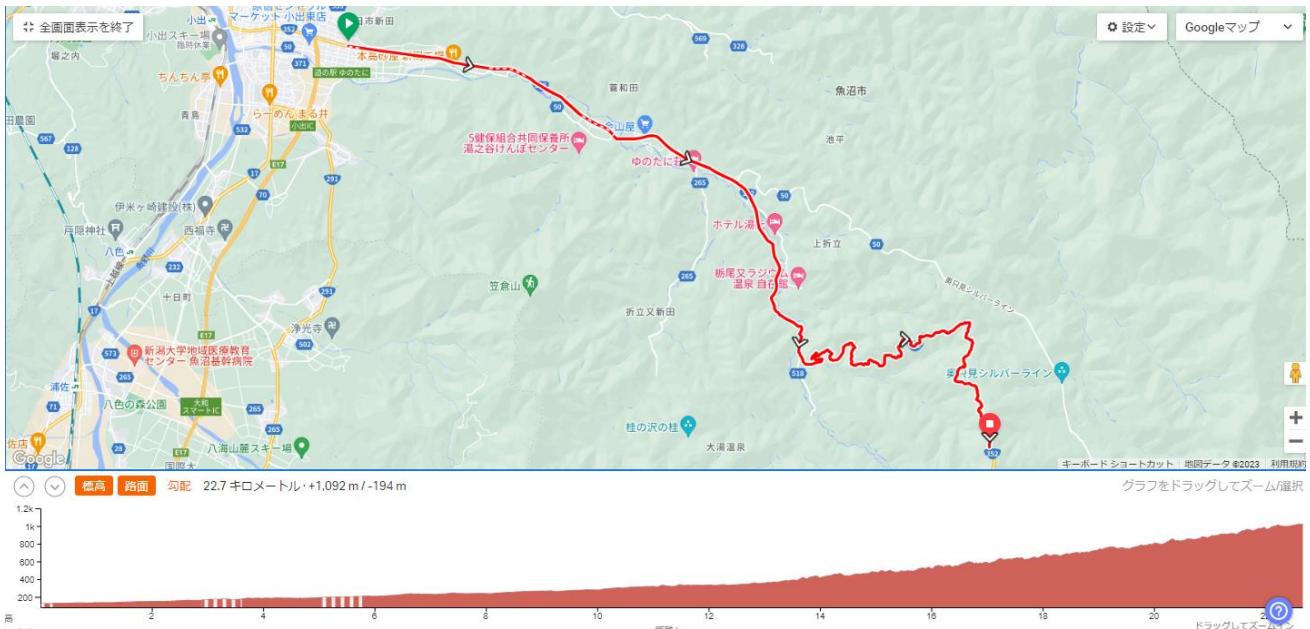
長岡では寝坊してもう一度スーパーに行くことができなかったので、ここでようやく飲料を買います。ポカリ 1L とお茶 600mL、あとメロンパン(今考えると飲料足りないでしょ)。

100km ウォークの膝の痛みは今の所治まっておりこの先上の峰でどうなることか。

3:26 コンビニ出発 枝折峠まで 23km

自転車で行く枝折峠

走っていた時は気にしていなかった坂スペック。コンビニからシルバーライン分岐の 8km はほぼ平坦で、温泉街を抜けた 12.5km 地点からが本番。後半は 10km で約 700mUP とそこそこの峰に見えますが、緩い区間と急な区間に分かれており最後には「魔女の三段腹」と呼ばれる 15% が連発する区間が襲い掛かります。この枝折峠では毎年ヒルクライム大会が行われているそうです(コロナ期間は中止?)。



4:09 距離を半分削って温泉街へ



4:24 一車線に そして真っ暗（ここ分岐です）



コンビニを出て走る中で後ろから追い越してくる車が結構いましたが、彼らはやはり雲海を狙っていたのでしょうか？でも同じぐらいの数来る対向車はこんな時間に何をしているのか全くもって理解できませんでした。温泉街までは少ないながら街灯があるのですが、温泉街を抜けるとすぐに国道のくせし1車線になり鬱蒼とした森の中に入っています。左上の画像ではiPhoneが補正するせいで空が青みがかっていますが実際は漆黒ですし、右の画像は対向車+後続車が来ている所を撮ったから明るいだけ

であって実際は本当に暗かったです。この狭い道から外れると崖下に転落して多分助からないので夜ヒルクラでは落ちないように注意せねばなりません（そもそも夜ヒルクラって誰がするのか）。

4:48 シェッド

最初は森の中ですがしばらく行くと視界が開けて満月が照らすので案外ライトなしでも登れました。VOLT200が切れたので400にチェンジ！



4:55 枝折峠 6km



枝折峠で雲海を見るのを目的にしているのであろう車やバイクが後ろから断続的に現れます。うねる峠道であることを加味しても彼らのスピードは自転車で登る私と比べれば速く、これから行く道を照らし遂には谷を挟んだ反対側、はるか上空へ。これはこれで面白いし、明るい時間帯なら一面の紅葉の中に山肌を削るこれから先の道が見えたのでしょうか。1車線の狭い道でバスにも抜かされますが、雲海ツアーとして「うおぬま滝雲シャトルバス」が先ほど通りすぎたシルバーライン分岐の辺りから出ており、車が無くとも雲海を見に行くことができます。

始発便は午前3時40分発車なので早起きは必須です。

予定では枝折峠頂上へ暗い時間帯に到着して星空を見上げたいなと思っていたのですが、寝坊したことによる1時間ロスが響いており日の出までに到着するのが精一杯という所まで追い込まれています。暗くて斜度が目で見て感じられないのですが思ったよりスピードが出ず足つきもたまにしてしまいます。疲労を加味しても5%のような標準的な上り坂でなかったのは確かでしょう。

5:13 目標にしていたシェッド



対岸へ渡る道が折り返して進行方向が変わる所にシェッドがあります(頂上まで約4km)。ここを小目標にしていたので足をつくと後ろからライトが2つ迫ってきます。最初はバイク2台かなと思ったのですが、なんと自転車2台でした。自分がやっていることは棚に上げて、「よくこんな時間にこんな場所を走るな」と思いました。足を止めてばかりでペースが落ちていたのでお2人と共に登ることにしました。私と同じく雲海を見に来たようで、仕事の合間に縫つて群馬から来られたそうです。枝折峠に登るのは5回目、

1週間前にも行ったそうだけど天気が悪く見られなかっただとか。私は初めてだったけれど直感で見れりと思っていたので「今日はきっと見れますよ」と。まあ走っている途中に雲が自分を包んでいたし、きっとね。ある程度着いて行きましたがブルベに出ていそうな方たちには着いて行けず10分で千切れました。「先行ってて下さい！」



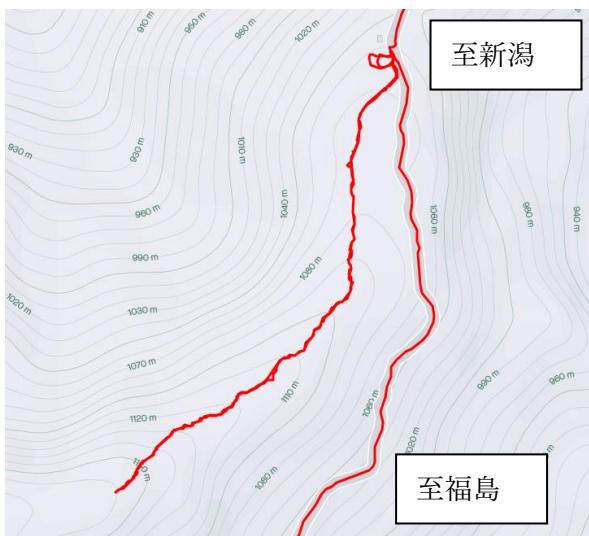
5:50 日の出直前には空が急激に明るくなるものです。まだ頂上には到着していませんが、これまで一度たりともその色を現さなかっただ木々が、次第に本当の姿を見せます。散っているものもありますが紅葉はしっかりと残っているようです。

この日で唯一残念なのは枝折峠の核心部を明るい時間に通過できなかったこと。まあ夜ヒルクラも面白かったので悔いではありませんがね。ここは1度で楽しみ尽くせる道ではないのです。

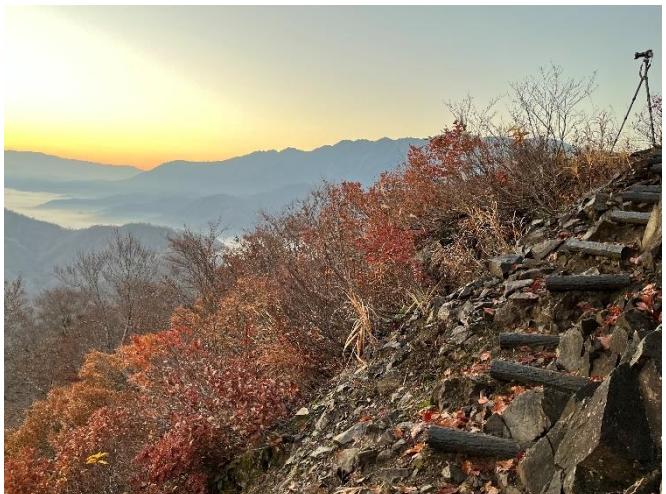
5:59 枝折峠頂上 1,065m に到着！



この狭い道で路駐している車が見えだすとゴールはもうすぐ、何とか日の出 6:09 より早くに登り切りました！やはり駐車場は満車で、登山の格好をした方が多くバスで来たと思われる比較的軽装の方もいました。どうやら雲海は枝折峠頂上からは見えないらしくどちらに進むべきか少し迷いながらも自転車を停めて必要なものを持った上で更に高い所へ歩きます（登山道）。左下の移動ログに示す通り、最終的には 1,065m から 1,160m まで登りました。



6:04 道中　日の出まで 5 分



自転車を担ぎ上げたいなと思っていたのですが道はこれまでより遙かに狭くて急ですし、人の目があつたので早々に無理だと悟りました。登り始めてすぐの所では道がドロドロになっていました。

6:08 滞在場所探索中　日の出 1 分前



歩いているとすぐに雲海が見えてね、ああやはり直感 + α 通りだったな。

どこで日の出と滝雲を見届けるか場所を探して先へ進んで行きますが、良い場所は大きな三脚を立てた年季の入った写真屋さんや若いフォトグラファーに占拠されていました。そのため更に高い所へ、更に遠くへと足を進めます。

綺麗に見える写真はよく SNS に流れてきますがその景色から左右に目を向けてみると人で一杯だというのを実感しました。

去年 9 月に草津合宿に行った際、お昼頃に国道最高地点渋峠で雲海を見たのですが、綺麗だなどすらも何も感じずあまり強い期待はしていませんでした。果たして少しの苦しみを越えた後に運を伴って枝折峠から見る雲海はどんな感情を呼び起こしてくれるのだろうか。（次ページ、横向きでごめんなさい……。）



2023/11/03 6:23 新潟県魚沼市枝折峠より眺む「滝雲」と朝日のコラボレーション

一見しても目の前に滞留する白いものが雲なのか水なのか判断が付かなかった。雲海という呼称があるが、個人的には海があるなら陸もあってこそより
魅力的だと思う。あれ？だったらこれは雲湖……、うん k(略)。

視覚だけではない全感覚器官で目の前の「現象」を感じよう。この「景色」ではなく「体験」はこれまでで4番目ぐらいには入るかなと結論付けた。

感想

前ページで少し書きましたが、結構良い体験でした。去年見た渋峠の雲海は天辺の眺望ポイントから物理的に距離が離れていた一方、今回は間近に存在していたので迫力がありました。目の前の雲が湖面だと言われても信じてしまいそうな美しい溜まり方、これだけでも満足でしたがメインは滞留した雲が山を越えて滝のように流れ出す滝雲です。もちろんしっかり動画に収めています。右下には雲海へ突っ込む国道 352 号について路駐の車を捉えており、左下の黒いものは背の高い三脚と足場を立てていた前の人人が操るカメラの先っぽです。今時的人は「ふおとしょっぷ」とかいうので反射的に消してしまうのだと想像していますが(それ以前にフレームに入れないでしょうが)、私はこの映り込みを許容します。あまり過度に現実の構成要素(この場合周りに人がいること)から目を背けた切り取り行為はしたくありません。他人のカメラが映り込んでも許容できる心持ちです。

雲海を見たい人へ

公式ページ：<https://www.iine-uonuma.jp/osusume/7070/>

まず行き方ですが交通手段によって通れる道路の選択肢は異なります。

A. 自転車・バイク

小出の駅前に宿があるのでそこに泊まるのが良いでしょう。相当早くに出る必要があり私と同じことをせねばなりません(夜ヒルクラなど)。通れる道はただ一本国道 352 号のみです。銀山平に宿泊する場合を除いて反対の福島県側から行くのは現実的ではありません。

B. 徒歩

新潟側からだとシャトルバス発車位置が小出駅から遠いので大湯温泉など近隣の宿泊施設に泊まって早起きするのが良いです。もしくは福島県側の銀山平に泊まってシャトルバス。

C. 車

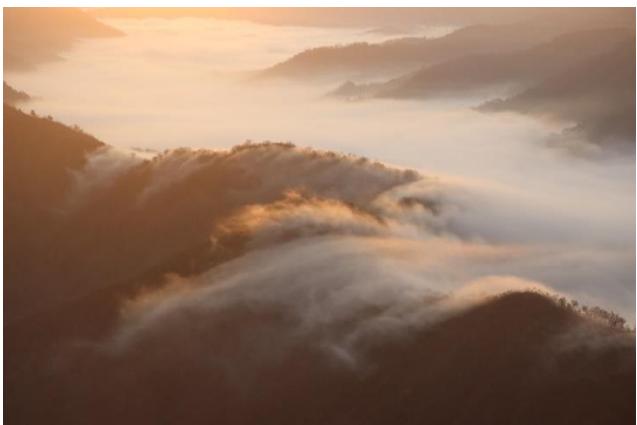
私は車に詳しくはないのですが、国道 352 号を新潟県側から登るのはやめておくことを勧めます。暗闇の中対向車が来ても知りませんよ。車なら奥只見シルバーラインで銀山平に抜けて福島県側から枝折峠に登った方が良いんじゃないかなと思います。こちらもまた道は狭いですが。

滝雲を見られる条件

1. 早朝
2. 晴れの日
3. 前日からの気温差が大きい
4. 適度な風がある日
5. 運

基本的なことは先述のリンク先によく纏まっているのでそちらを参照して下さい。実際行った者として一点だけ挙げるなら天気予報を参考に気温を想定して寒さ対策をしておくことです。私が行った時は最低 3°C でした。

6:27 流れている部分をズームアップ



残念なこともあります。一眼カメラと望遠レンズそして三脚を持って行ったのですが、私の腕が悪く上手く目の前の光景を映せなかったのです。加えて三脚を使おうとしたのですが自分の持つ三脚が他の人のものよりずっと小さいことに気付きました。私の三脚では茂みがフレームに入ってしまうのです。写真家の人がどうやって撮っているのかが少し分かり勉強になりました。今の自分が一眼を握って滝雲に向き合ってもきちんと撮れないと思ったから

iPhoneで日の出付近の動画を撮っていました。少し悔しい思いをしたのでこれからはしっかり景色に向き合って写真の練習をしようかなとか思います。レタッチに関してはいちいち RAWで撮ったらサイズが大きいし、私は今のところ体験重視ですからそっち[.]{}{1,10}に時間を使いたくありません。

6:59 撤退ライン



この後の道のりもまだ長いですから7時には撤退して下山を始めようと決めました。この頃になるとカメラを構えていた人たちを含め多くが散ってそれぞれの道のりを歩み始めました。左の写真は自分がいた証拠を残したかったので近くにおられた方にお願いして撮って頂きました。ヒルクライムで使った分の補填として麦チョコとピーナッツを食べ、飲料に関してはこの時点で残り 600ml と想定以上に消費しています。補給が確実にできるのは 65～70km 先なのですが……。

7:25 何十人と並ぶバス待ちの人、1台の自転車



出発準備をしていると後ろを歩いていたカメラ持ちのおじさんが自転車で来ていることに驚き、「ファンキーだな！」と言って自転車の写真を撮っていました。富士山に自転車で登っている人は多く驚く人は少ないでしょうが、「枝折峠に、しかもこの時間に自転車が存在している」というのは皆道中を知っているはずですから驚くことなのでしょう。実際に午前 7 時時点で自転車は私しかいませんでしたし。そう言えば追い抜かれた2人の自転車乗りを見かけているけれど峠を通り過ぎてしまった？いや5回目と言っていたし私が相当遅かったのでしょうか。

もう一方に声を掛けられました。彼は途中通ってきた温泉街に宿を取っており今日はシャトルバスで枝折峠まで登って来たそう。話を聞くに彼も自転車を持ってきているようで翌日に只見で宿を予約していると聞きました。彼はシャトルバスで宿まで下って自転車で再び枝折峠に上がり、私と同じように檜枝岐まで抜けようとしているみたいですが時間が厳しく日が落ちてしまうので困難だという方向に纏りました。今枝折峠にいる私でも油断できない時間ですし、数の限られたシャトルバスに何十人と並んでいるため温泉街まで下りるのも時間がかかるというのもありました。檜枝岐周辺でキャンプ場、コテージなどを探していたみたいですがちょっと難しいんじゃないかと伝えました。私も檜枝岐エリアの宿泊を最初は検討していたため民宿以外にもキャンプ場なども見ており、結果として泊まれる場所が1つもないとの結論に至ったのです。あるキャンプ場は10月下旬で営業を終えているし(これが最も多い)、またあるキャンプ場は10/31で営業終了どころか閉業していました。お互いに「気を付けて」と言って私は檜枝岐を目指して、彼は真逆の小出へ向けて出発します。

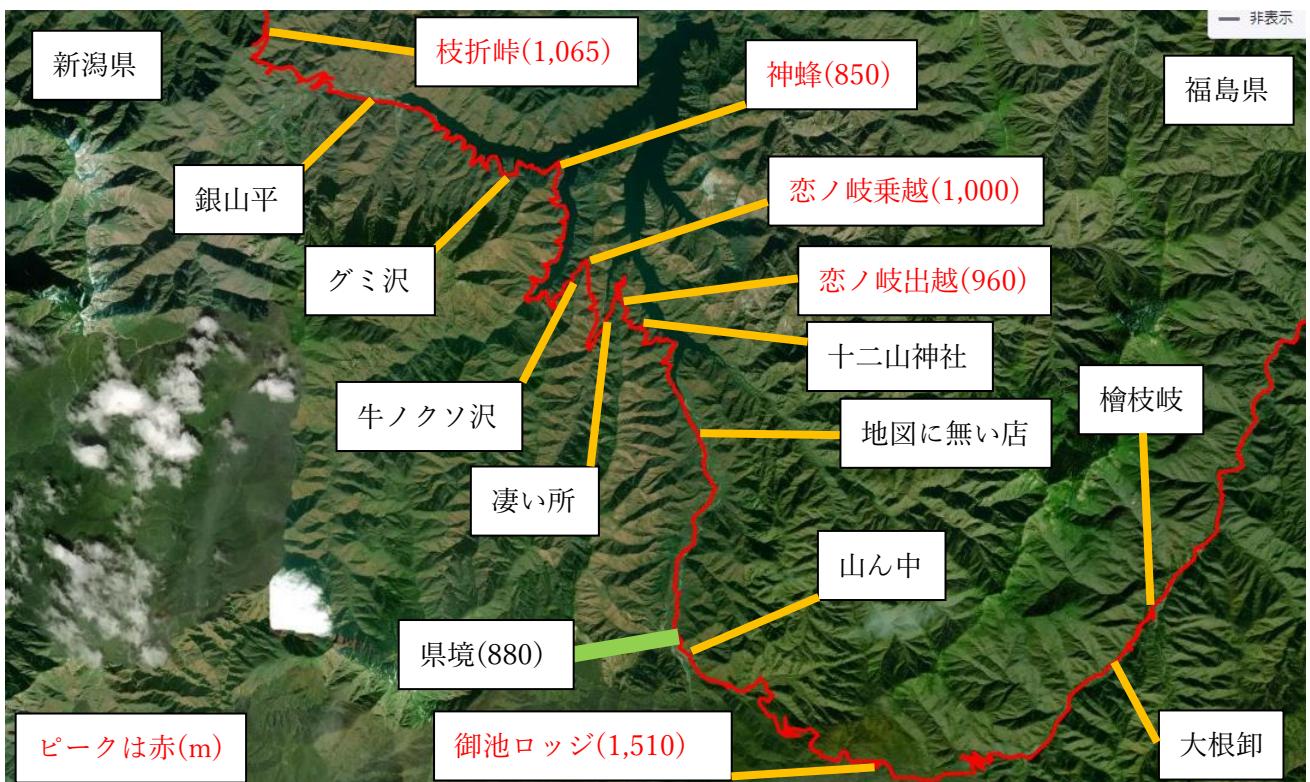
滝雲に関して1点。その場にいた人の会話を盗み聞きするに、この日の滝雲はあまり雲が流れていなかったそう。後にHPの写真を見てみると確かにその通りで、まだまだ上の景色が存在しているようです。やはりここにはもう一度来たいです。

7:30 枝折峠出発

辺りは既に明るくここからは目的としていた紅葉を楽しむ時間です。

ここからは凄い景色が続きますから画像サイズが大きくなりがちです。

枝折峠～檜枝岐村マップ(約65km)



枝折峠を越えたとて小ピークが3つと大ピークが1つ残っている中々ハードなコースです。

枝折峠～銀山平～グミ沢

標高 1,065m の枝折峠からは稼いだ標高を銀山平まで消費し続けます。銀山平の標高が大体 760m なので 300mDOWN です。しかしこの日この時間に関してはただのダウンヒルではない！

7:32



下り始めてすぐに現れるのは新潟や長野など豪雪地帯に見られるスノーシェッド(ロックシェッドだったらごめんなさい)。これでも国道だと折れながらも主張する標識と一緒に一枚に収めてみました。シェッドの窓となっている規則的なバツ印が土木構造物として美しいし、シェッドがカラフルに染まった山を横一直線に削っているのがまた良いです。紅葉していない緑もあるけれど、赤に黄色に様々な色が入り乱れているのであまり気になりません。明るい時間に枝折峠新潟側も見たかったなあ！



歩いていた女性 2 人組もやはり自転車に驚いていました。

道路上には沢の名前を示す看板がいちいち立っており最寄りのチェックポイントまでの距離が書いてあります。ここは明神沢と言い、尾瀬 53km、銀山平 5.5km だそうです。写真撮影もほどほどに更に下ると「良いヘアピン」、そして雲海へ体を沈めることになります。

7:45 良いヘアピン+雲海



枝折峠の福島県側、シェッドを抜けて少し行った場所も雲海のビュースポットとして知られており、先ほど枝折峠+100m の位置から見下ろしていた滞留する雲海を目の前に眺める形となります。更に眺望ポイントは続き、今度は個人的に好きな線形をしているヘアピンカーブ地点です。本記事の 1 枚目を飾った写真はここで撮っており、被写体が強いため何を撮ってもそこそこ良い写真になります。

写真撮影はほどほどに。朝早くに枝折峠を登ることで透き通った雲上の世界から雲中へとダイブするという体験ができます。まあ言葉ではそんな風に飾る事ができますが、雲海の中を走るというのは個人的にはそこまで好むものではありません。実際の所、想像通り視界が若干ぼやける程度で意外性はないし、動画を撮っている GoPro に水滴がついて視界が曇り、路面は濡れているしメガネも曇って雲量によっては下るのが怖いです。渋峠ダウンヒルは視界が曇って怖かったけれど、それより今朝の濃霧の印象が強烈でした。道路に関してヘアピン区間は片側 1 車線ありますがすぐに道幅が半分ほどになりこれまでと同じような狭い峠道となります。下っている最中に対向からシャトルバスがやってきて自転車の私は端に寄り後続の車たちは待避所まで鬼バッックを強いられていました。それこそ 1 車線の醍醐味かも？雲海の中であっても紅葉はそこそこ綺麗でした。

7:56 下りきって銀山平入り



8:06 「急カーブ連続 24km」←こんなの初めて



下りきった銀山平では雲が晴れて視界がクリアになると思っていたのですがこの標高にも雲が存在しています。左上の写真の T 字路では右から下ってきて手前へと走ります。奥へ行けば宿泊施設が 3 軒ほどと銀山平温泉があります。

ここから奥只見湖畔のワインディング区間まではほぼ平坦で宿泊施設、奥只見シルバーラインの入口、遊覧船船着き場と通り過ぎます。途中の宿泊施設前に自販機があって休憩と荷物整理を兼ねて止まつたのですがよく見るとテープでコイン投入口などが塞がれており使えないみたい……。また、ここから車でシルバーラインに入るとすぐ分岐があり左へ行けば小出方面へ、右へ行けば行き止まりの奥只見湖北部へ行くことができます。奥只見湖の北側に何とか自転車で辿り着けないかと調べたのですが廃道も何もなく不可能だという結論に至りました。シルバーラインは殆どトンネルなので奥只見湖北部は孤立しているのです。車を持っていないのなら遊覧船に乗ることで行けますが、車を持たずにどうやってこの山奥に体を存在させられるのでしょうか。やはり徒步は全てを解決する……？まあ半分冗談で本数の少ないバスが浦佐から銀山平、奥只見湖まで出ているので。奥只見湖と言えば 2023/11/5 に湖北に位置する奥只見レイクハウスが長年の営業に幕を閉じるという知らせがありました。行けなくて残念。

遊覧船乗り場には大きな船が停泊していましたが船の足元が見えない……、写真がないのですが雲の上に船が浮いていました。船着き場を抜けると地図にあったグネグネグネグネした道が永遠に続きます。



8:22 退屈な景色

雲のせいで路面が常に濡れているし光が射さないせいで紅葉の輝きが見られず、「雲が晴れてくれないな……、このままずっと雲の中なのか？」と気分は沈みます。ところでこうやって移動している時には基本的に前方を向いていますがたまには振り返って後方を見てみると良いです。案外見えるものが違っていて面白いですよ。なので同じコースでも逆から行ったらまた違う楽しみを見つけることがあります。

8:26 国道 352 号名物洗い越し



洗い越しは路上河川とも言い橋や暗渠を作るのでなく道に流してしまうというものです。国道 352 号奥只見エリアでは沢水が道路と交差するように洗い越す場所が何十とあります。右上の写真において横一直線に水が溜まっている(僅かに流れている)ものがそうで、この先もっと激しく流れている洗い越しも登場します。おかげでタイヤが乾くことはあまりなくブレーキが効きにくいので注意して走行します。

グミ沢～神蜂～牛ノクソ沢～恋ノ岐乗越

8:32 グミ沢に到着



まずグミ沢という名前が面白いです。ここには国道 352 号魚沼～檜枝岐区間で唯一のトンネル「グミ沢トンネル」が存在しており国道のくせにトンネル内に一切照明がないことが特徴です。また、名前とその暗さに意識が行ってあまり知られていない気がしますが、グミ沢トンネルには旧道「旧グミ沢トンネル」が存在します。

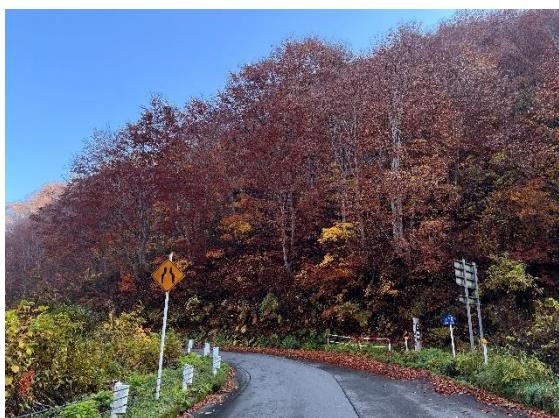
8:35 301m の真っ暗トンネル



8:47 所沢から来られた夫妻



トンネル手前(新潟側)には駐車場があって車が 1 台停まっていました。自転車を停めて写真を撮っていると声を掛けられて少し話すことに。前日からこのエリアに来ていたそうで、前日夕方過ぎには枝折峠頂上で月の出でない時間帯に肉眼で天の川を見られたそう。私が上っていた時は星が見えないわけではなかったけれど月明かりで走れるほどには明るかったので本来見えるものも見えなかつたのでしょうか。車中では貰ったという新潟県産コシヒカリを蒸らしている途中で暖かいお茶も入っており、こういうのも悪くないなと思いました。いや、普通に羨ましい。補給に困っていた私にお菓子を少し恵んでくれて良い方でした。普段は釣り(というか海の生き物を獲ること)をよくやっているそうで写真を沢山見せていただいたのですが、大きいカニを何十も獲ってカニフルコースにしていたのは笑いました。まだまだ自分は世界が狭く、話を聞いてみると面白い人はいるものですね。(色々見せてもらったけれど割愛)



8:54 雲が晴れてきた！？

埼玉夫婦に別れを告げて真っ暗なグミ沢トンネルの反対側へ。旧トンネルはこの季節でも現道から視認することはできず藪に分け入りますが足が濡れるので途中で撤退しました。そしてトンネルのあちらとこちらで雲の様相が異なることに気付きます。空が青いぞ！
後方から自転車が1台來たので何となく逃げて先へ進むとそこに見えたのは……。(少しづつスクロールして！)

9:01



9:05



もう凄いの一言ですね。着いた時には上の写真の雲のラインと目の前一面を染める朽ちかけの輝きに感嘆して写真を撮っていたのですが、僅か 4 分で視界は激変して雲が綺麗さっぱり流れて行きました。改めて目隠しのなくなった目の前の山を見てみると、上の方は既に落葉している木も多いですが落葉から朽ちかけの赤、盛りの黄色と標高差によるグラデーションが面白いです。尾根に沿って緑が連なっているのは何なのでしょうね。埼玉の夫婦と長話ををしていなければ雲に文句を垂れつつ通り過ぎていたのではないか、枝折峠を早く登りすぎても同様、偶然にもベストタイミングでこの位置に来られました。今思ったのですが、国道 352 号の魅力の 1 つとして「迂回路がない」というのがあると思います。自転車で来る以上シルバーラインすら使はずただ目の前に続く 1 本の頼りない道とどこまでも向き合う必要があります(余計なものに目がいかない)。そして志を同じくする車やバイク、自転車の人と抜かし抜かされ時に言葉を交わしつつ 1 本道の先にあるはずのゴールを目指す。走っている時は基本孤独ですが 1 本道のどこかに(時には谷を挟んだ対岸に)仲間がいるのだと考えると勇気が湧いてきます。

9:09 神峰(かんばち)



小ピーク 3 つのうち 1 つ目かつ最弱の神峰です。看板には銀山平から 8.7km で県境まで 26.7km と書いています。ここには駐車場があって眺めが良く奥只見湖が峡谷のように見えます。なぜか私はここで写真を撮らずスルーしてしまい、神峰を下ってから後悔していました。下る途中に「ここは携帯電話圏外」と主張する看板があるのですが、それ以前も圏外だったような。1 本だけ立っていた気もしますが尾瀬手前まで SNS を見られなかったのは事実です。

9:16 実際こう見えます



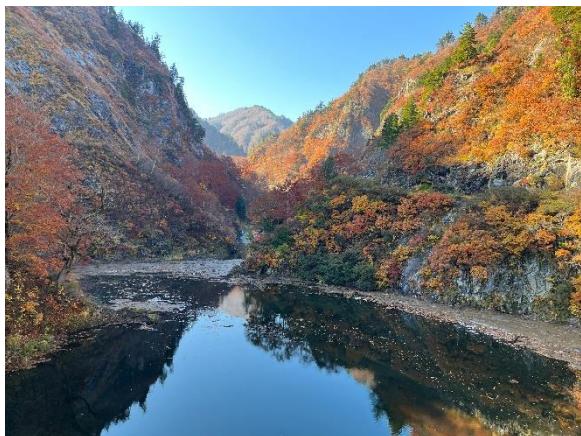
9:20 光の当たり方でこうも違って見える



これまでのランで見てきた紅葉と比べて一段と綺麗な景色が飽きるほど続けます。体験ではなく景色として比較するなら、今まで奥多摩、日光などで見てきた紅葉とはレベルが違います。この先も紅葉を見に出かけることはあるでしょうが、奥只見を知ってしまった以上少し冷めてしまいします。

NC の先輩で数年前の同じ日に奥只見へ行かれた方を見つけて少し写真を覗かせて頂いたのですが、この年ほど赤く染まっておらずまだ黄色や緑が多い写真でした。今回は運が良かったと思いますが、自然の機嫌次第でこうも見えるものが変わるものかと驚きました。

9:28 中ノ岐川



地図を見ると分かるのですがこの辺りは山肌に沿って道が続くのでこの先走るのであろう道が見えるのです。対岸へ渡るために標高 760m まで下り、中ノ岐川を渡って 1,000m の恋ノ岐越えへと標高を上げ始めます。左が橋から撮った写真ですが、この渓谷 1 つでも(このクソ山奥に無ければ)十分観光地になりそうですし、自分の中では何回も見てきた奥多摩の渓谷に勝っています。この標高では紅葉もカラフルで盛りという感じですね。こんな景色が当たり前のようにあるのが奥只見。

9:33 流石に腹減った



橋を渡ってから上り始めということでスパン長めの九十九折りがありますが、ここで休憩。枝折峠からほぼ飲まず食わずで近いうちに走れなくなる予感がしました。昨日買っておいたおにぎり 3 つのうち 2 つとお茶を流し込みます。

上って写真を撮ってを繰り返し 30 分後の標高約 900m 地点では下のような素晴らしい眺めがありました。

10:02 [奥只見湖と唯一の道、国道 352 号]

間髪入れずに現れたのは……。





何も文句のない景色である。朽ちかけの緋色、鏡となる奥只見湖、山肌を削る唯一つの道、地味に映り込む月。
しかしこの地、名を「牛ノクソ沢」と言う。

後ろから車が来ましたが道が狭くて停車ができないので走り去っていきます。小回りが効きいつでもどこでも停止できるのは確実に自転車の魅力の1つです。おかげでスタート地点とゴール地点を結ぶ道中にある全てのものに自由に向き合うことができます。そういった楽しみ方は自転車と徒步以外ではできないと思っています。それってバイクも同じなのでは?と思われるかもしれません。はい、しかし今回に限らず彼らバイク乗りが私の停止している、道中の綺麗な景色があるポイントをスルーするのを数えきれないほど見てきました。普段出すスピードが違うと感性も異なってくるのでしょうかね?この辺に関しては後で少し書こうかな。

基本的にガードロープが設置してあるのですが牛ノクソ沢だけロープが途切れポールが立つのみです。これはおそらく先述の「洗い越し」となっており今は水が流れていません。沢のおかげで視界が開けており、良い写真を撮ろうとグラつくポールに自転車を立てかけますがこれが結構怖い。下を覗いてみるとかなりの急傾斜で自転車や物を落としてしまうと回収不可能でしょう。怖いのでさっさと済ませます。

国道352号のストリートビューは緑の季節なので比較すると面白いです。↓牛ノクソ沢の夏

https://www.google.co.jp/maps/@37.0942378,139.2175564,3a,75y,305.78h,79.61t/data=!3m6!1e1!3m4!1so33xIe1_hpKInkzo_EcO0A!2e0!7i16384!8i8192?hl=ja&entry=ttu



自転車だからこそこういう発見がある。

10:11 2つ目の小ピーク「恋ノ岐乗越」標高1,000mに到着



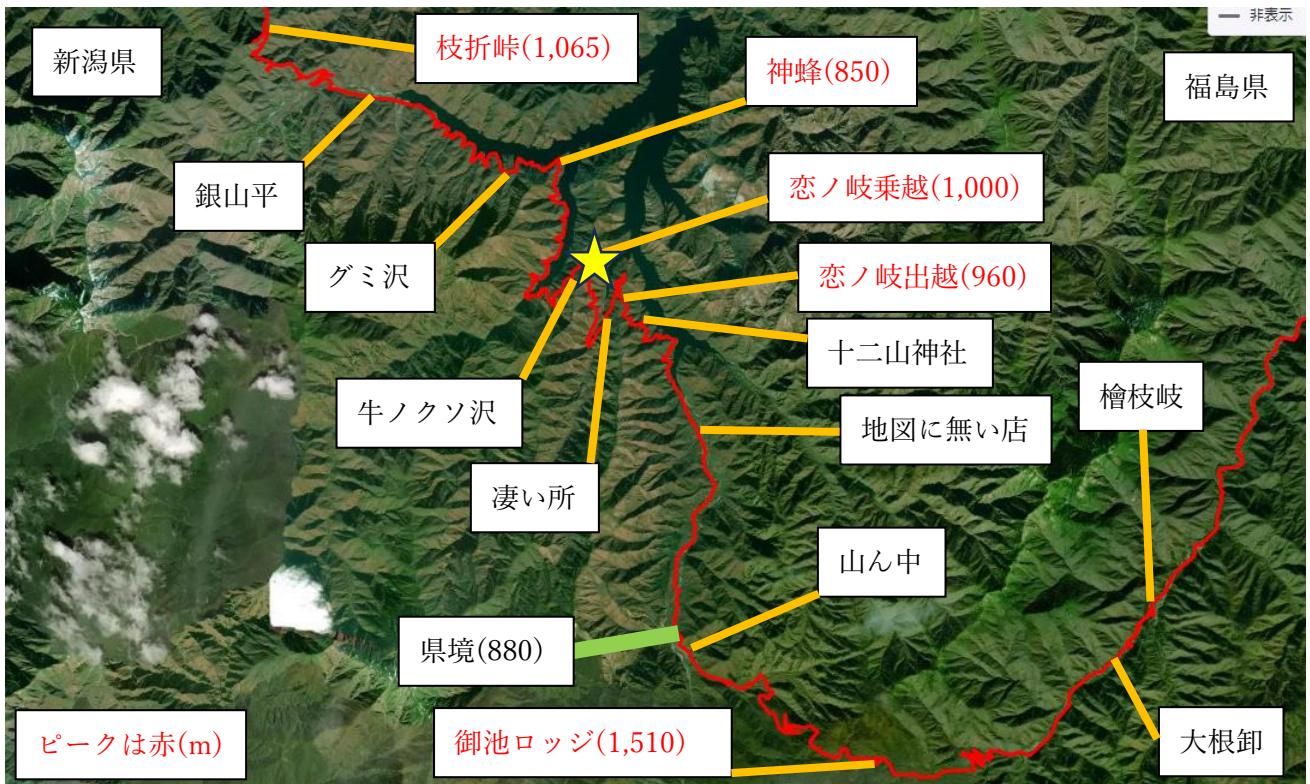
看板によると銀山平 18.4km、県境 17kmとのことで県境までまだ半分です。そしていつまで経っても見えてこない尾瀬への分岐……。

牛ノクソ沢で写真を撮っていたら後ろ(新潟側)からチャリダーが来て軽く挨拶だけしました。名を「たま」さんと言います(伏線)。

人つながりで書きそびれた話ですが、グミ沢トンネルで出会った埼玉夫婦にはトンネルを出て暫く行った所で抜かされました(伏線)。

恋ノ岐乗越～凄い所～恋ノ岐出越～十二山神社～地図に無い店

枝折峠～檜枝岐村マップ(約 65km)再掲



前に地図を掲載してからページが開いてしまったので再掲します。現在地は星の地点です。

10:13 携帯電話通話可能(ドコモ)5km 先 10:24



わざわざ看板が立っているということはこれまでの区間では電話がかけられなかったのかな。

恋ノ岐乗越(1,000m)からは恋ノ岐川を渡った対岸へ行くために再び下って標高 820m へ、そこから上つて小ピーク 3 つ目である恋ノ岐出越(960m)を目指します。

その前に、「凄い所」へ。(横向きごめんなさい)



国道 352 号でも屈指の絶景区間

2023/11/3 10:38

個人的にはこの「凄い所」と勝手に言っている場所が最も良い景色だと思います。この写真では太陽光が対岸の紅葉の壁面に当たっていますが方角からして午前中にしか見られない光の具合だと思います。であるならば、この景色は長岡を朝の1時ぐらいに出ないと見られなかつたわけです。

それにしても対岸の天辺にすら紅葉が残っており、年ごとに比較した色づき具合は除いてタイミングとしてはこの1年でベストな時期に来たのではないでしょうか。

私が写真を撮る前に一人のチャリダーがここで写真を撮っていました。ウェアが緑だったので記事では緑の人と呼ばせて頂きます。彼は私とは真逆である檜枝岐側からやってきたようで、残り距離を考えて内心「早くない？」と思いました。私の方からは長岡を朝の1時に出てやってきたと伝え、彼は只見駅を朝3時に出て今ここにいるそう。このまま枝折峠を越えて今度は国道252号六十里越峠を通って只見駅に戻るらしい。只見駅からここまで大体100kmだからまあ普通のペースか、でも六十里越まで越えようというのは凄い。私も考えたけれどある程度の時間内に走り切れる自信がありませんでした。まあ5月に六十里越は走っているからと言い訳をしておこう（紅葉だとまた違った姿だろうけれど）。



左の写真は望遠レンズで対岸を見たものであり、よく見ると坂を上っている緑の人が映っています。1本道だからこそこの写真に新しい意味が生まれるように感じます。

眺望の観点ではメインと言っても良い区間なのでしばらく撮影を行います。狭い道なので望遠レンズが使いにくく頑張って道の際まで寄ったなあ。



10:40 携帯電話通話可能



10:45 送電線



景色は良いのだけどそろそろ同じような紅葉にも飽きてきました。奥只見ダムと繋がっていそうな送電線を通り過ぎたら最後の小ピークである恋ノ岐出越まではもうすぐです！



ご丁寧に設置された携帯電話通話可能区間終了の看板を通り過ぎて、10:48 に標高 960m の恋ノ岐出越へ到着しました。

記憶では景色が良いのはここまでですが、奥只見前半区間でハーデルが上がっているのは否めず決してこの先の景色が悪いというわけではありません。

標高 960m から 200m ほど下って最後の山場である尾瀬の大ピークを目指します。

下りの途中に十二山神社という場所があり寄っていきます。位置は看板によると銀山平から 26.0km、県境まで 9.4km だそうです。

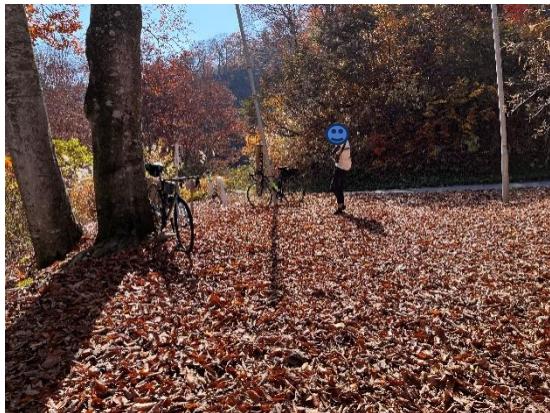
10:53 十二山神社



歴史背景を知らない上、現地にあった説明看板を撮り損ねたのでネットをソースとして少し書いてみます。石碑をよく見ると「大福銀山十二山神社」と書かれています。江戸時代の話です。丁度今いる場所を流れるのは只見川、銀が発見されたことで越後の高田藩と会津の会津藩で争いが起きますが只見川中央が藩の境と定められました。越後側では上田銀山が、会津側では白峯(しらぶ)銀山が開かれ合わせて大福銀山と呼ばれました(先ほどの恋ノ岐川流域も銀山だった)。ダムを作る前は奥只見湖ではなく銀山湖と呼ばれており、ダム建設にはありがちな話ですが集落が沈んでしまいました。江戸時代の越後国高田藩が銀山開発に着手した明暦 3 年(1657 年)に作られた十二山神社がダムに沈むことになったため現在の位置に移されたというわけです。銀山開発の際に誤って只見川の河床を掘りぬいてしまうなどの水没事故で上田銀山は再起不能に、その 100 年後のダム建設で銀山の坑道の多くは沈んでしまったそうですが、水没を免れた間歩(まぶってこう書くのか！) が少し残っているそう。それが上の写真から下った所にあったのに……、あったのに！！！



私が十二山神社に着くとそこには自転車を停めた先客が一人いました。先ほどちらっと触れた「たま」さんです。



関東かなと思っていたら何と彼ははるばる岐阜から車で來たそうで驚きました。この日彼は檜枝岐に宿を取っているようで私と行き先が同じだったので一緒に走って頂くことになりました。この場で改めてお礼申し上げます。まだ後ろ(新潟側)にいる知り合い 2 人と走ると伺い岐阜の友達と来たのかなと思ったのですが、Twitter の知り合いだそうです。インターネットの知り合いと会ってはいけませんが(笑)、そういうのも楽しそうで良いなー。

彼は軽装な荷物で背中にカメラをかけるというスタイルで走っており、速度なんかは気にせずちょくちょく止まっては写真を撮るという走り方をしているよう。そして「鄙びた旅館」が好きだと聞いた瞬間「これは話が通じるな」と勝手に喜んでいました。檜峰や紀伊の国道 425 号も走られていたし。

10:59 話していると……？



2 人で話していると福島側から 1 台の車がやってきて窓を開きます。ああさっきの！！埼玉夫婦が窓から顔を出して、「もう少しできのこ汁が食べられるよ」と教えてくれました。さっき書いたけど 1 本道って面白いよね。本日 3 回目の埼玉夫婦でした。

食べ物はピーナッツがあるものの飲料が枯渇してずっと飲んでおらず予想外の補給チャンスがやってきました。それに奥只見のきのこ汁に期待が高まっていました。

11:13 地図に無い店到着



たまさんもきのこ汁を食べることにして、十二山神社から洗い越しをいくつも越えて下り続けます。きのこ汁を食べることは確定していたのですが、何と言えばいいのか、武士の格好をしたおじさんに「こっちこっち」と自転車を誘導されます。彼はお店の客寄せパンダみたいな存在なのかなあ。

300 円のきのこ汁と安かったから赤ダイコン 150 円を頼みました。



このきのこ汁は過去一番美味しいくて、食レポは不得手なのだけど具沢山できのこが分厚く噛み応えがあってとにかく美味しかったです。



ここで補給情報。テーブルの後ろでは水がパイプから豊富に出ており野菜か何かを洗っていたので、一声かけてペットボトルに汲ませて頂きました。思ったけれどここに水道って来ているのかな。水道が来ていてもそうでなくとも、あの豊富な水は川か沢から引いていると思います。ストリートビューを見ると電気は来ていると分かります。山での暮らしなど、その辺のお話を聞けばよかったな(普段なら絶対に聞いていたんだけど疲れていたのかな)。

夏の地図に無い店(やはり水は豊富に出てる)

<https://www.google.co.jp/maps/@37.0613642,139.2519335,3a,49.1y,281.03h,89.48t/data=!3m6!1e1!3m4!1smbFdHVOXdLW57lCS1CqCoQ!2e0!7i16384!8i8192?hl=ja&entry=ttu>

11:32 武士さんとたまと写真



私「自転車に関して速度はどうでも良くて自分の旅行をどれだけ面白くできるかしか考えていない。」

この良い意味で雑な感じ、ルールに縛られていない感じが幸せ。机の上にあるものは食べて良いよと言われたので適当につまみながらきのこ汁を啜りました。なお、注文していた赤ダイコンは漬物のことだと思っていたのですが大根丸1本だったのでキャンセルしました。流石に大根背負って走るのはしんどいからね。車で来た2人組と相席しましたが何を話したのか忘れました。国道が閉鎖されるとこのお店には行きようがないのであと2、3日で閉めるのでしょうか。話を聞くに、冬場は5mの積雪があるそうで一晩で1m積もることもあるのだとか。正直国道352号の冬季閉鎖について、閉めすぎだろと思っていたのですがこれほどの豪雪地帯なら仕方ありません。左の写真はこのお店のメニュー。いかにも山の幸というメニューですねえ、まあこの山奥でマグロとか並んでたら意味が分かりませんが。

武士さんは埼玉からバイト？ボランティア？で来ているそう。本当に面白い人が多いですね。写真はお店の80を超えたおばあちゃんに撮ってもらいました。刀の持ち方を教えてもらって、はいチーズ！

銀山平からの長い無人地帯を抜けてこの地図に無い店を過ぎるとポツポツとキャンプ場やカフェ、家？倉庫？など人の痕跡が現れます。只見川に沿って会話をしながら県境へ、残りはたったの5kmです。

地図に無い店～県境～山ん中～御池ロッジ

かつての高田藩と会津藩の境だった只見川を渡れば、やっと新潟県から福島県に入ります。

11:51 新潟県の看板



11:52 ここだけ上高地みたい



11:53 福島県の看板



丁度対向からバイクがやってきて私と同じように写真を撮り始めます。ここでは自転車もバイクも考えることは同じですね。福島県側の看板は自転車 2 台で撮りました。さて、ここからは 880m まで下げた標高を尾瀬分岐に向けて一気に 1,540m まで上げる苦痛が始まります。

県境～御池ロッジの大ピーク

上り坂は地図に無い店の辺りから既に始まっていますが県境まで 100mUP でまだ肩慣らし程度。御池ロッジは標高 1,510m で最高地点のように思われますが、実際のピークはロッジ手前にある 1,540m 地点です。県境からピークまでは 11.4km 722mUP 平均 5.8%ですが平均斜度というものは往々にして詐欺であり、県境から 2.3km の平均斜度は 2.9% であるのに対して実際の所は次の 7km が 7.1%、最後の 2.1km が 3.5% となっています。あまりに斜度が厳しいというわけではありませんが枝折峠 + 小ピーク 3 つ + 乏しい補給で体力が削られている中上るには侮れる坂ではないでしょう。

11:55 山ん中



県境からすぐにポツンと立っているカフェ「山ん中」が現れます。電波も入らないしアクセスが悪すぎて「これは山ん中だわ」と思いました。この立地と環境は堂々と山の中と名乗っていい。営業中の看板が「もういいよ」となっているのも面白く、次に来た時は入りたいです。メニューは少ないものの定食などを食べられるので補給ポイントとしても期待して良いみたいです。ラストコンビニより 70km 弱。

御池ロッジ新潟側の上りではこれまでのように視界は開けず木々の中をひたすら行く道となっています。ただ「鬱蒼とした」というほどではなく光も射すのでテンションは下がりません。こういう区間もあった方が変化に富んで良いなと個人的には思います。

上りですが記憶にあるのはしんどかったことばかりです。早々にたまさん(12km/h ぐらい)から千切れてしまい序盤から 10km/h も出ないこともありました。序盤で千切れてしまい頂上に着く時間差が結構大きいだろうなと思い、「無視して下っちゃっても良いですよ」と言えなかったことを上りながら悔やんでいました(言おうとしたけれど声の届く距離じゃなかった)。

12:10 標高 1,020m 地点 何回も標高を見てた。まだ着かないのかな……って。

12:17 休憩しないと無理だ……



休憩しようにも自転車を立てかける場所がなく自転車と折れ曲がった上体を支えながらサドルバックを手探り柿ピーの袋を開けて食べていましたが自転車が暴れだしてこぼしてしまいました。水を飲んでいたらまた同様にペットボトルが坂を下り出し。普段なら拾い集めて食べているけれどこの時は拾う余裕もありませんでした。しばらく後、再び停まっておにぎり 1 で補給。

12:49 標高 1,300m 地点 停まって標高を見てまた走って。



←13:05

13:14→
ピーク手前



ピークを越えて下りが始まるので GoPro を回しようやく御池ロッジに到着しました。結構待たせているだろうからたまさんは先に行っているだろうと思ったのですが、待って下さっていました。

御池ロッジ



ありがとう、遅くなってごめんなさい。普段は殆ど運動をしておらず、たまに 100km ウォークや 200km ライドといった激しいワークアウトをするという生活なのですが、普段から体を動かすのに留まらず筋トレとかした方が良いのかな。あと彼のバイクとは機材差があるようです。デュラエースのパーツが所々見られたしビンディングとフラペの違い、あと私の過積載もあるか。これまで自転車に対して前にさえ進めば良いと思ってきたので少しこそ機材を選んでみても良いのかも(言い訳じゃないよ)。

一応小出のラストコンビニから檜枝岐まで無補給で走る想定でいたのですが、御池ロッジは補給ポイントとして期待して良さそうです。山に行く人の拠点にもなっているはずなので自販機にトイレに食べ物に色々揃っています。そう言えばトイレを見るのは枝折峠頂上の仮設トイレ以来か。好きなコカアだけ飲みました。

13:46 重機で塞がれる尾瀬分岐



13:49 謎バス停看板



御池ロッジから尾瀬への分岐があるのですが、今の時代にこの道を自転車で上っていいのかがイマイチ分かりません。調べると警備の人に声を掛けて上ったなどと書かれた記事がありました。群馬・福島県道 1 号沼田檜枝岐線は尾瀬に車両不通区間を抱えており行き来はできません。自転車を担いで尾瀬の木道を通って県境越えができるかと何回か考えましたが、今の生きづらい時代では無理でしょう(すぐ SNS に動画上げられるし嫌な時代)。そういうえば富士山に自転車を担ぎ上げたいのですがこれもまた今の時代では不可能でしょうね。

食わず嫌いだけど尾瀬にはあまり興味が湧きません(時間が経てばまた思いも変わるのでしょう)。所詮は水溜まりだろうと思うし、植生は興味深いけれど私は北海道の霧多布湿原、標津湿原、名も無き湿原に魅了されてしまったので(釧路湿原は微妙)。まあそのうち行くでしょう。

檜枝岐に行くなら裁ちそばは外せず、たまさんがお店を調べて下さっていたので 15 時閉店(ラストオーダーは大体 30 分前)のお店に向けてダウンヒルします。ここからは只見駅まで下り坂しかないので楽に距離が稼げます。



(左 : 13:56 良い水の流れ、右 : 14:02 道中)
(下 : 14:08 尾瀬国立公園で記念撮影)





私もたまさんも走りながら気になるものがあればその都度停まって写真を撮るという走り方をするのですが、走っていると面白い地名を発見します。

「見て、だいこんおろし。」

「よく見つけますね。」

14:16 福島県南会津郡檜枝岐村大根卸



バンガロー＆キャンプからまつさんのブログによると、読み方は想像通り「だいこんおろし」であり何でその様な地名なのかは定かではないとのこと。

地図に無い店を抜けてから檜枝岐村ではここが一番面白かったな。こんな標識 1 つも私にとっては観光対象であり常に周りに注意して走っていて良かったです。後ろの終わりかけの紅葉と鎧具合が良い味を出しています。

下っている途中にミニ尾瀬公園がありましたが、そば屋の営業時間を鑑みて食事を優先しました。大した距離ではないし時間があれば後で戻って来よう。檜枝岐村中心部に辿り着き入ったお店は「お食事処開山」、14 時半ギリギリに滑り込みました。14 時半の数分後に入ってきた方は追い返されていたので本当にギリギリセーフ！盛りそばしかないけど良い？と聞かれたけどもちろん OK。そばを味わいたいので具は余計でしょ。別の店ですが裁ちそばとはっとうは 5 月の自転車旅行で来た際、温泉で知り合った JR 東日本の社員さんに奢って頂き美味しさを知っていたので、たまさんの分もはっとうを注文。檜枝岐に来たのなら絶対に両方食べるべき。

14:36 旬の裁ちそば！



14:38 はっとう！！



檜枝岐村は標高の高い寒冷地であり稲作ができなかった中、栽培できるそばが昔から工夫して食べられてきました。檜枝岐のそばにはつなぎが入っていないため切れやすいのが特徴であり、裁ちそばという名はそばの切り方に由来するそう。

<http://www.naf.co.jp/maruyashinkan/soba.stm>

「はっとう」はそば粉ともち米をよく練って延ばし、ひし形に切ったものをゆでてじゅうねん(えごまの福島での呼び方)やきな粉につけたものです。これが上品な甘さで美味しいんですよ。

そばは檜枝岐の他にも先ほど通った大根卸の辺りでも作られているそう。今回来たのは11月上旬と新そばの時期にドンピシャで当たりました！

(あー、そばと言えば幌加内にもう一度、今度は収穫の季節に行きたいなー。)

色々机上で調べていると檜枝岐という小さな村に興味が湧いてきました。やはりもう一度、今度は檜枝岐の宿泊込みで行きたいな。

そばをお腹につめて先ほど通り過ぎたミニ尾瀬公園へ。

14:57 ミニ尾瀬公園到着



尾瀬の代替として捉えていたこの公園は結構気に入りました。コンセプトとしては尾瀬の季節を一足早く、気軽に体験できる公園として平成11年にオープンしたものです。

結構広くてニッコウキスゲを始めとした草花が咲く山里・山野草エリア、湿原エリア、ロックガーデンの他にも展示施設など楽しめる空間となっています。

紅葉は標高の高い所から終わっていくという認識ですが比較的標高の低い檜枝岐で上部は散っています(標高 950m でした、全然低くないです)。自然は難しい。

これまで枝折峠を始めとして「マクロに見た紅葉」つまり紅葉した木群を俯瞰してきましたが、このミニ尾瀬公園では紅葉している木1本や葉っぱ1枚に注目して行きましょう。思えば今日、木1本葉っぱ1枚に注目するのはこれが初めてです。



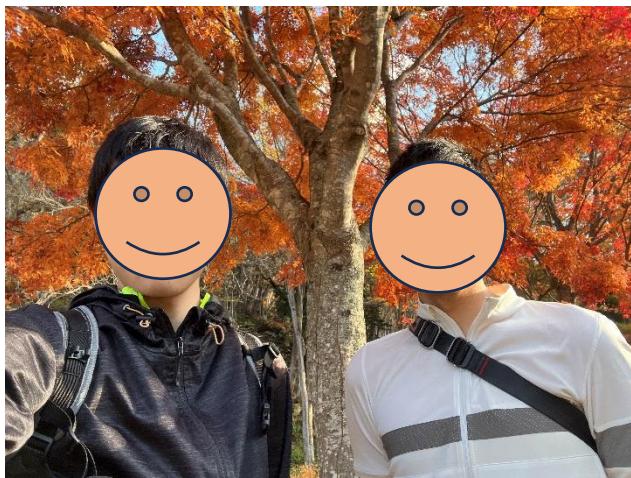
逆光が葉っぱを照らしてとても綺麗ですね。ミニ尾瀬公園は気に入りました。



2023/11/3 15:06

良い景色の連続で語彙が売り切ってしまったのだけど、これもまた素敵な空間でした。

15:12



十二山神社から行動を共にしてくれたたまさんともお別れの時間です。先述の通り彼は檜枝岐に宿を取っているので、最後に 1 枚写真を撮りました。
楽しかったです！ありがとう！



檜枝岐から只見までは残す所 60km であり下り基調です。只見線は本数が少ないことで知られ普段は 1 日 3 本、この時期は増便していたようです。只見駅発小出方面行の時刻表は、「9:30 小出行、16:31 小出行、20:03 小出行」でありこのうち 16:31 の列車に乗ろうとしていたのですが、景色が良く想定より時間がかかったので朝の段階で 20 時の列車に乗る事に決めていました。4 時間の余裕が生まれたのでんびり写真を撮ったりゆっくり坂を上ったりしていました。列車までは 5 時間弱あるということで去年 5 月には入れなかった尾瀬檜枝岐温泉「燧の湯」で体を休めることとします。本当は秘湯を守る会の旅館ひのえまたの風呂に入りたかったのですが、コロナの影響か何かで日帰り入浴をやっていませんでした。

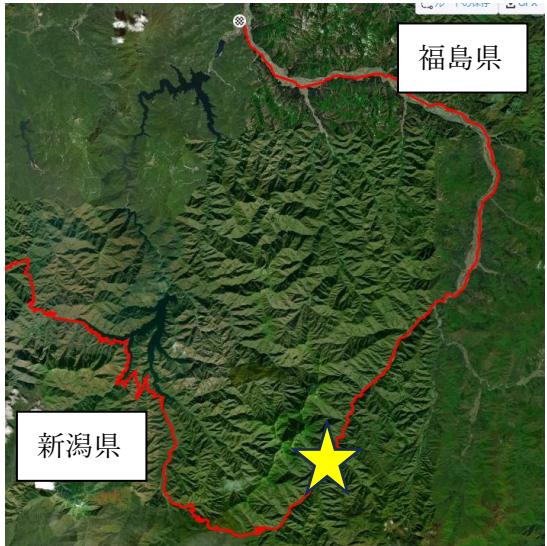
さて、燧の湯ですが入浴料は 1,000 円(高いけどこれまで頑張ったのだからということで抵抗はなかった)で単純硫黄泉、内湯が 1 つと露天風呂が 1 つあります。(もちろん個人の)感想としては 1,000 円には見合わないなという感じです。体が伸ばせて疲れを鎮められたのは良いですが、この近辺に 300 円で入れる木賊温泉共同浴場と 300 円で 4 湯入れて雰囲気も良い湯の花温泉があるのでそれらと比較してしまうと……。毒沢鉱泉は 1,000 円でも良かったのですがね。列車まで時間があったのでんびりしてしまい風呂を出たのは 16:09 のことでした。出走しようとした所、チェックインして外出した後宿に戻って行くたまさんとすれ違いました。こんにちは、今度こそさようなら。

16:16 尾瀬檜枝岐山旅案内所



ふと標高を見てみると 950m で驚きました。体感 500m ぐらいだったのですが、これは稻も育たないな。
5 月に食べさせてもらったそば屋を通り過ぎて道の駅尾瀬檜枝岐へやってきました。観光案内所だけチラッと見て気になるパンフレットを取りましたが、道の駅はスルーしてしまいました。温泉でダラダラしたせいであまり時間の余裕がないのです。山に登ってきたという女性が興味深そうに自転車を見ており、少し今日の旅を共有しました。

檜枝岐～只見駅



星印が現在位置であり、只見駅まではずっと下り基調で 60km 540m DOWN という道のりです。道中には温泉が少しはあるぐらいであまり面白味はないかもしれません。5月にもここを通ったのですが、先述した JR 東日本の方が運転する車で楽をして、しかも車内で寝ていましたからほとんど記憶がありません(この話は Ex2 で書きます)。

現在時刻は 16 時過ぎで列車は 20:03 であることから、下り基調であることを加味してパンクが無ければ間に合うよう思えます。しかし、日の入り時刻が 16:43 と早いので明るいうちに距離を少しでも削りたい所です。2 時間半で走ったとしたら只見駅着が 19 時頃、トラブルが無ければ只見で晩飯が食べられるでしょう。

16:34 屏風岩



16:58 国道 352 号の右折地点、国道 401 号へ



17:25 遠かった……、魚沼以来のコンビニ！！！



檜枝岐から下る道はシェッド(覆道)とトンネル続きで暗いので路面に気をつけて走らねばパンクしかねません。屏風岩で一瞬写真を撮って再出発、明るいうちにできるだけ距離を稼ぎます。

これまで魚沼から走ってきた国道 352 号は残り 43km 地点で右に折れ、そこからは国道 401 号を走ることになります。5 月に入った古町温泉赤岩荘を通り過ぎて国道 289 号分岐地点に着くと魚沼以来のコンビニ(ハローショップこはまというローカルコンビニ)です。セブンイレブンに行きたければ国道 289 号を更に 25km ほど会津田島まで行く必要があります。

この時点で残り 32km ですが山奥は暗くなるのも早いものでもう真っ暗になってしまいました。

.....。

足が痛い。

左膝が痛む。

.....。

17:50 シェッドやめてくれ！



18:10 ヤマザキショップ



明るいうちに距離を削りたかったのに加えて檜枝岐付近に多くあると思われるシェッドをできるだけ処理して(通り過ぎて)しまおうと思っていましたが、結構走ってもシェッドが現れます。怖いからもう出てこないで。

喉が渴いたので道中いくつかあるヤマザキショップに寄ることにしました。でも走っていると眠気が襲い掛かり、意識朦朧としながら走っていると一度ふらついてしまい危険だと感じたので停止します。記録のために書いておくと ENEOS 只見 SS の地点、菊池商店の横側。自転車を停めてピーナッツを齧り、ふと空を見上げます。そこには満天の星に「天の川」が見えるではありませんか！(写真はありません。) 辺りは真っ暗で月がまだ出ていませんが、ここまで見えるのかと驚きました。まあこれより一段上の星空：冬の糠平、-18°Cの五の沢から眺める空を知っていますが。埼玉夫婦が見たと言う枝折峠からの星空がいっそう見たくなりました。

眠気も覚めたので少し走って残り 18km 地点、ヤマザキショップ只見川原田商店へ到着。甘いジュースとグミを食べました。コンビニ前の椅子に座って休憩していたのですが、その間に地元の車が何台か入って買い物をしていました。思い返せば普通のコンビニよりは品揃えが良い気がして、スーパーの代わりとして地元の方に利用されているのでしょうか。

残り 18km で約 45 分なのでトラブルが無ければ只見で晩飯を食べる時間を残して駅に到着しそうです。余裕はあるほど良いので只見駅到着 19 時前、正確には駅付近にある「お菓子の店三石屋」の閉まる 19 時に間に合わせてお店に入ることを目標にスピードを上げます。

左膝が曲げ伸ばしをすると痛い……。鶴ヶ島 100km ウォークで壊した左膝はやはり完治していなかったか……。左膝では強く踏めないのでアンバランスに右足を中心として踏みますが、やはり左が痛みます。何とかパンクを起こさずに只見駅周辺までやってきました。最後の最後に暗いシェッドを抜けて見覚えのある只見湖から流れる只見川を渡ると安心感で溢れます。ギリギリお菓子屋さんに行けそうで進行方向左に注意して駅方面へ走ります。工事で舗装が剥がされておりタイムロスをするなどしましたが……、只見駅に着いただと……？実はお菓子の三石は進行方向右手にあったのですが左しか見ていなかったので駅まで行ってしまいました。とりあえず 18:58 只見駅に到着！

18:58 只見駅到着！



楳枝岐からの 60km はコンビニ停止を除けばグロス 24 で走ったようです。列車は 20:03 なので 1 時間を残して只見駅に到着したことになり、晩飯を食べることができます。Google Maps で調べた結果駅近の定食屋に行くことにしました。走りだそうとしますが左膝が痛くて慎重に、足を労わるように体を動かし、入ったのは和食レストランまほろば（後で知ったのが、三石はこの隣の店でした）です。口コミで見たソース煮込みかつ重を注文、再度言いますが食レポは不得手なので普通に美味かったとだけ言っておきます。

19:20 ソース煮込みかつ重←うまい



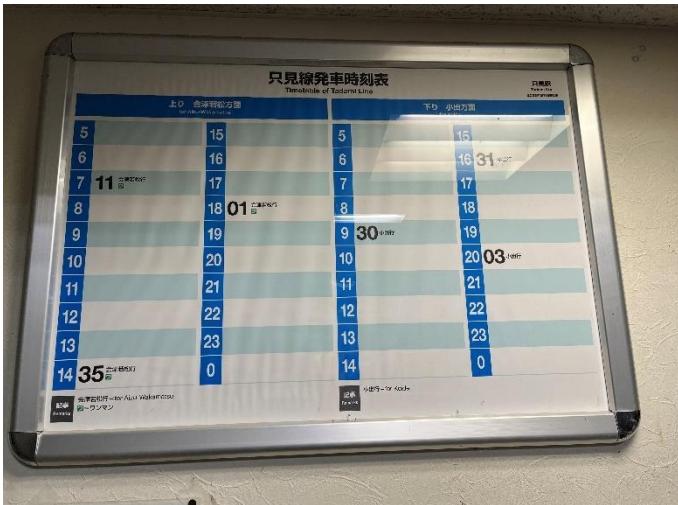
ようやく落ち着くことができたのでかつ重を食べながら今後について考えを巡らせます。既に今日出発した長岡駅前のビジネスホテルを予約しており、只見線最終只見駅 20 時 3 分発で小出駅 21 時 26 分着、50 分待ちで上越線に乗り換えて長岡駅 22 時 52 分到着というのが予定でした。ここで翌日のことを考えると、長岡駅から再び只見駅まで輪行して会津若松方面へ行けるところまで行くという計画でした。

朝の只見線がネックになり小出駅発 5 時 36 分の次は 9 時丁度発ですが、只見線始発に乗るには今朝と同じことをして長岡朝 3 時発で小出まで走らねばならず現実的ではありません。取れる選択肢は只見駅 9 時発で只見駅に再び 10 時 29 分に戻ってくる筋のみです。まあそれでも良いかな、明日は雨が降るみたいだけど嫌になったら本数が少ないけれど只見線に乗れば良いし。それで只見線最終から磐越西線に接続して最終の東北新幹線で帰ろうか。方針が定まりました。

19:38 退店

今日で只見駅は 2022/10/1 の運転再開から 398 日だそうです。急ぎ目で輪行をして 19:55 完了。

19:56 過疎すぎるダイヤ：1日3本



20:02 発車 1分前



20:01 ボックス席確保



⌚ 今日 1:06・長岡市, 新潟県

奥只見、狂気の紅葉

2001
2003只見線最終で長岡へ退避



結局小出→長岡の切符は所持しているものの只見→小出の切符は購入していなかったので、念のため運転手さんに「切符持っていないんですけど」と確認したら発車してから車内で購入できるそうです。只見一大白川は時間がかかるから切符を売る時間もあるでしょう。

2両で走る只見線最終小出行きの座席占有率は50%と言った所でしょうか。ガラガラではないけれど沢山乗っているわけでもありませんでした。

列車に乗ったのでここでStrava計測ストップ。午前1時から午後8時、走行距離はログ飛びがあるので200km丁度ぐらいでしょう。獲得標高は3,357mと結構上りました。そう言えば朝の10時頃にすれ違った六十里越峠を越えて只見まで行くと言っていた自転車の方はもうゴールしているかな。

20:35 大白川駅交換待ち



在来線駅間距離最長は北海道の上川一白滝 37.3km であり、只見一大白川は20.8km。駅間徒步をするならこの距離が六十里越峠を含めた32.9kmへと化けるので駅間徒步最難関は只見一大白川だと思います。

ちなみに飯田線の小和田一大嵐も歩いたことがあるけれど山道は楽しいし舗装路は基本下り基調で距離も30kmに比べれば短いのでそんなにしんどくはありません。只見一大白川はトンネルばかりで旧田子倉駅付近は視界が開けるけれど大したものは見えません。まして夜では何も。大白川駅のホームから眺めたこの先の線路の暗さが凄いですね、何という所を走っているのだ。小出方面からやってきた列車は何と「大白川行」!?只見まで行くものだと思っていたのですが……。というかこれに乗って只見から大白川に行ってしまうと帰れなくなるの面白すぎる。あ一分かった。小出駅の只見線終電は19時59分小出発大白川行き 20時43分大白川着ですが、ここで只見駅始発会津若松行きを見てみると只見駅7時11分発です。その間は10時間48分で駅間は32.9km、3.046km/h……、やはりJR東日本は大白川から六十里越峠を夜に越えて只見へ抜ける人を想定していた……?RTAか何かでは使えそう、これがフラグにならないように祈っておきます(やろうと思えばできるので)。もう1つ因みに、北海道4,000kmという同人ゲームのRTAでは土幌線の糠平一十勝三股20kmを夏の夜に歩きますが、私は冬(2月と3月)の夜に歩くのを2回やっています。この話を含めて今年冬の北海道記事も書きたいけれどコンテンツがありにも多いから時間的に無理。私の記憶の中に眠るのみです。

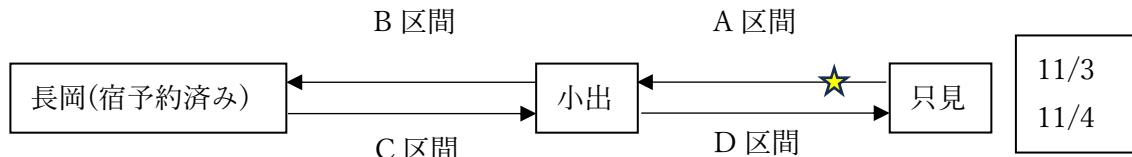
切符の発券

現在所持している切符

1. 飯田線の某駅→久喜(飯田線・川岸・東北・高崎線・上越・只見線・磐西・郡山・新幹線・小山・東北)
2. 小出→長岡(上越・信越)、有効 11/3~11/4、往復行き
3. 長岡→小出(上越・信越)、有効 11/3~11/4、往復帰り
4. 久喜から帰る切符

欲しい切符

1. 只見→小出



前提: B、C、D 区間は発券済みで A 区間の発券が必要

選択肢 1: 長岡の宿から小出の C 区間を明日の朝自走して D 区間は始発只見線で輪行

- この場合切符 3 (C 区間)が余る
- 切符 3 を区間変更して A 区間に、つまり「長岡→小出」を「只見→小出」にする
- 切符 3 キャンセル料 220 円 + A 区間 990 円 - B 区間返金 590 円 = 620 円支払い

選択肢 2: C 区間も輪行して 2 本目の只見線で D 区間輪行

- この場合切符は余らない
- A 区間 990 円支払い

冷静に考えれば上の通りなのですが、只見一大白川で車掌さんが回ってきた際に「小出→長岡」を「只見→小出」へと変更しようとしていたみたいです。でも車掌さんが往復乗車券をこのように変更できるのかを把握しておらず、結局 A 区間「只見一小出」の 990 円を追加で支払う選択肢 2 を取りました。

睡眠不足と疲れからか大白川を過ぎると小出まで寝てきました。21:25 小出駅に戻ってきました。

気付かなかつたけれどこの写真はおかしい



小出で只見線→上越線の乗り換えをしますが朝 3 時に訪れた駅の待合所に腰を下ろしてダイヤを眺めると、待ち時間が 50 分もあることに気付きます。

21:29

21:32 「小出 44 分待ち」

おっ？

第 3 の選択肢

選択肢 3: 長岡の宿をキャンセルして小出駅で寝れば良いやん！

なぜ駅で寝るという選択を旅行の計画段階から排除していたのか不思議でなりません。7月に行こうとして頓挫した自転車旅では峠駅で駅寝しようと色々調べていたというのに。

さて、この場合は B 区間と C 区間の切符が余り、始発只見線に乗るのが圧倒的に容易になるこの上なく合理的な選択肢でしょう。宿は快活 CLUB に変更することも視野に入れてキャンセル料がいらない所を予約していたので 21:51 宿をキャンセルしました。気温はそんなに高くないけれど午前 3 時の時点で駅に入れることは確認しているので死にはしないと思われます。

乗るはずだった最終 22:16 逆方向の最終 23:02

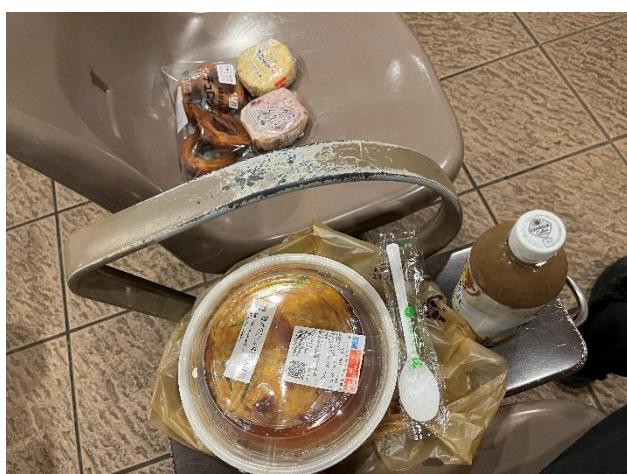
23:58 面白い 1 日でした



翌朝の始発只見線会津若松行きが出発する 5:36 まで 8 時間ほど時間ができたので携帯を弄ったり待合室から乗るはずだった列車と本当の最終を見送ったりしました。小出駅の窓口は 17 時に閉まるのでそれ以降少なくとも目立つところは無人です。終電が行ってからも暖房の効いた待合室が閉鎖されずひとまず安堵します。お腹が空いたのとやましいことはありませんが警察に声をかけられると面倒なので、上手くかわせないかなと自転車を組み立てて 0 時頃にはコンビニへ行き駅を離れておきます。

11/4(2 日目)

0:22 セブンイレブンから戻ってきました



1:00 再び輪行



正確には覚えていませんが外気温は 10°C 台前半と寒かったのでコンビニで買ってきた温かい天津飯が体に染みて美味しかったです。この待合室が使えなかったらどうしたのでしょうかね、まずはホームの小さい待合室へ、それもダメだったら……。跨線橋は風がある程度凌げるけれど気温が低くてここで寝るのは無理だと悟りました。再び只見線で輸行するので早いうちに輸行を済ませておきました。

終電後の駅というもの

思い返せば終電後の駅を体験したのは去年の大晦日にマイナス 4°C の中高山本線某駅で駅寝をした時のみです。別に終電を逃して家に帰れなくなつたという経験もありませんし。ああ、バス停なら 3 月に北海道の雄冬岬バス停で 12m の暴風が吹き荒れる中、小屋で寝た経験があるけれど。

終電後の駅の 1 つの側面として鉄道設備のメンテナンスや工事を行う時間というものがあります。客がいる間は列車が走っていますから保線などの作業は基本的に終電から初電までの短い時間で行う必要があります。極端な例として熱海らへんのある駅では貨物の関係もあり数十分しか時間がないということもあるそうです。私の居る小出駅でも只見線ホームの更に向こうで作業員の方が夜を徹して何か作業をされていました。また、貨物列車は昼夜問わず走っており羽越本線経由かな？ 貨物列車が通過していました。そう言えば 24 時間前に長岡から小出へ自転車で走っている時にも見かけました。

0:42 終電後でも列車接近の警告放送が流れました



今度は駅の中ではなく駅の外に注目しましょう。駅前にはタクシーが 2 台停まっており私が待合室で過ごす中出たり戻ってきたりを繰り返していました。この時間でもタクシーを使う人がいるのですね。

1:03 新聞？



只見線と上越線の交点という地方のターミナル駅でも、駅前は案外終電後も騒がしいもの。タクシーにトラックにバイクに、騒ぐ若者に、人が絶えません。携帯を弄っているとついに駅入り口の自動ドアを開けて中に入ってくる人が現れます。なに？ 怒られる？ その人物はドサッと何かを置いて出て行きました。どうやら新聞のようで、「小出駅卸 須原線 魚沼北 YC 殿 10 部」と書かれていました。おそらく個々の家に新聞配達をす

のと同じで始発列車で輸送するのだと考えられます(駅員さんがこれを列車に積むのですね)。小出駅卸はそのままの意味、須原線とは何なのでしょうか。只見線の駅を書き出すと下の通りです。

1 小出—2 薮神—3 越後広瀬—4 魚沼田中—5 越後須原—6 上条—7 入広瀬—8 大白川—9 只見—
越後須原駅で下ろすのかは分かりませんが只見線に新聞を積むようですね。なるほどそういうことか。
ある駅まで運んでそこからはまた別の配送屋さんがバトンを繋ぐということです。物流~~~~~！！

晩飯を食べたりしていたら持ち時間が減って始発まで 4 時間半となってしまいました。流石に数時間は寝ないとこの後の行程に響くなと思って寝場所を探しますが……。

1:08 嫌がらせやろ



1:11 ここ可能性ある



待合室の椅子の形状について、駅寝者からすると椅子と椅子を仕切る手すりのせいで寝る難易度が上がるのです。これ意図的にやってるでしょ、駅寝なんて普通するものじゃないし文句を言う筋合いはないのだけれど。体の姿勢を探索しますが椅子を使った上手い寝方が見つかりません。ふと待合室の隅を見ると平場があることに気付き息を吹いてから寝転んでみますが、窓の近くということで寒いし何より微妙に体がはみ出して落下してしまいました。痛いぜ。



2:07 寝る気が失せたので再び座りにくい椅子にかけてゲームをします。難しい難易度を試行錯誤してクリアできました。ランの最中にゲームができないから上手く時間を作れて結果的には良かったです。

2:09

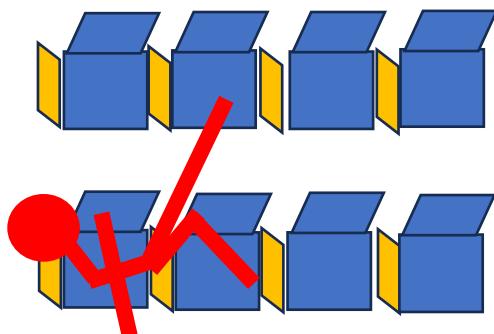


ゲームをしている最中の午前 2 時になんと待合室の電気が消えました。これで少し本当に少し快適に寝られます。

うーん、なんか暖房弱まってない？ 寒いんだけど。

後はどこでどういう姿勢で寝るかなんですよね～。

姿勢の探索でもっともマシな姿勢だと思ったのがこちら。



なんとなく分かるとは思いますが青が座席でオレンジは手すりを表しています。そんな環境の中、「こう」寝ます。終わってるわ。上体が曲がっているのと首を支えるものがきつい。輪行状態の自転車を使うのも考えたけれど壊したくないからやめておきました。

面倒くさいので結局床にそのまま寝ることにしました。枝折峠の寒さを想定してウルトラライトダウンを持っていたので持っていない場合からは大分違ったでしょうが、それでも肌寒いです。まあそれ以上に眠たいから落ちることができたはずです(記憶が……)。輪行袋があればそれに包まって寝られたのですが生憎輪行状態なので不可。

私は慎重で注意深いので盗難のリスクはもちろん想定しており荷物の配置は多少考えていました。もう1つ注意していたのは寝坊のリスク、まあ寒いから大丈夫だとは思いましたが。

3:45 寒くて起きたのでしょうか



4:51 寒くて起きたのでしょうか



秋冬は寝袋がないだけで野宿は過酷になるでしょう。10°Cの雄冬岬バス停では4回以上寒さで起きたし-4°Cの高山本線の駅では寒すぎて起き、再度寝るのを断念しました。

睡眠時間は最大2時間42分、2時間半しか寝ていないみたいですね。現地では記憶が曖昧でどれぐらい寝たのか分かりませんでしたがタイムスタンプを残しているので推定することができます。11/17 現在思うけれどよくこんな行程をやったな。記事を書いている 17°Cの室内でも十分寒いよ。

始発の只見線がどれほど混むのかは読めませんでしたが、とりあえず旅行をしていそうなおじさんが一人只見線ホームに向かうのが見えたので負けじと自転車を担いで追隨します。

5:14 もう少しドアが開く



朝5時の小出駅只見線ホームに私とおじさんと消灯した2両の列車。彼は東京から鉄道旅行で来ており小出駅前のホテルに泊まっていたそう。ホテルもコンビニもない~という話をしていました。運転手さんが来ますがまだ(扉は)開かないとのこと。戻るのも面倒なのでおじさんと二人で話していました。しばらくするとそんなに多くありませんが続々と始発列車に乗る人がやってきました。

5:26 比較的暖かい車内へ避難



5:22 ようやくドアが開き座席を確保します。景色の点では進行方向右側に座るのが大白川～只見を楽しめて良いでしょう。おじさんは右手の二人席へ、私は自転車を置くため左手のボックス席へ。座席の占有率は昨日の終電よりは高く 80%といった所でした。みんな旅行客みたいです。

5:36 只見線始発会津若松行発車

注意しなければならないのは、この列車は只見止まりではなく会津若松まで行くこと。まあ着くのは 5 時間後ですがちゃんと只見で降りなければ行けません。おじさんに只見で降りるとは言っているから仮に寝ていても起こしてくれるかも。小出を出てすぐは辺りが真っ暗なのですが、6 時前になると次第に空が白み始め紅葉が再びその色を現すようになります。おにぎりを食べて大白川まで睡眠。

6:21 大白川で列車交換(左が話していた方)



6:56 また霧！！



切符は車掌さんが少し戸惑っていたけれど 2 日前に小出で途中下車した扱いになっている長距離片道切符を提示しました。「ここです、只見線。」と経路を指示しました。

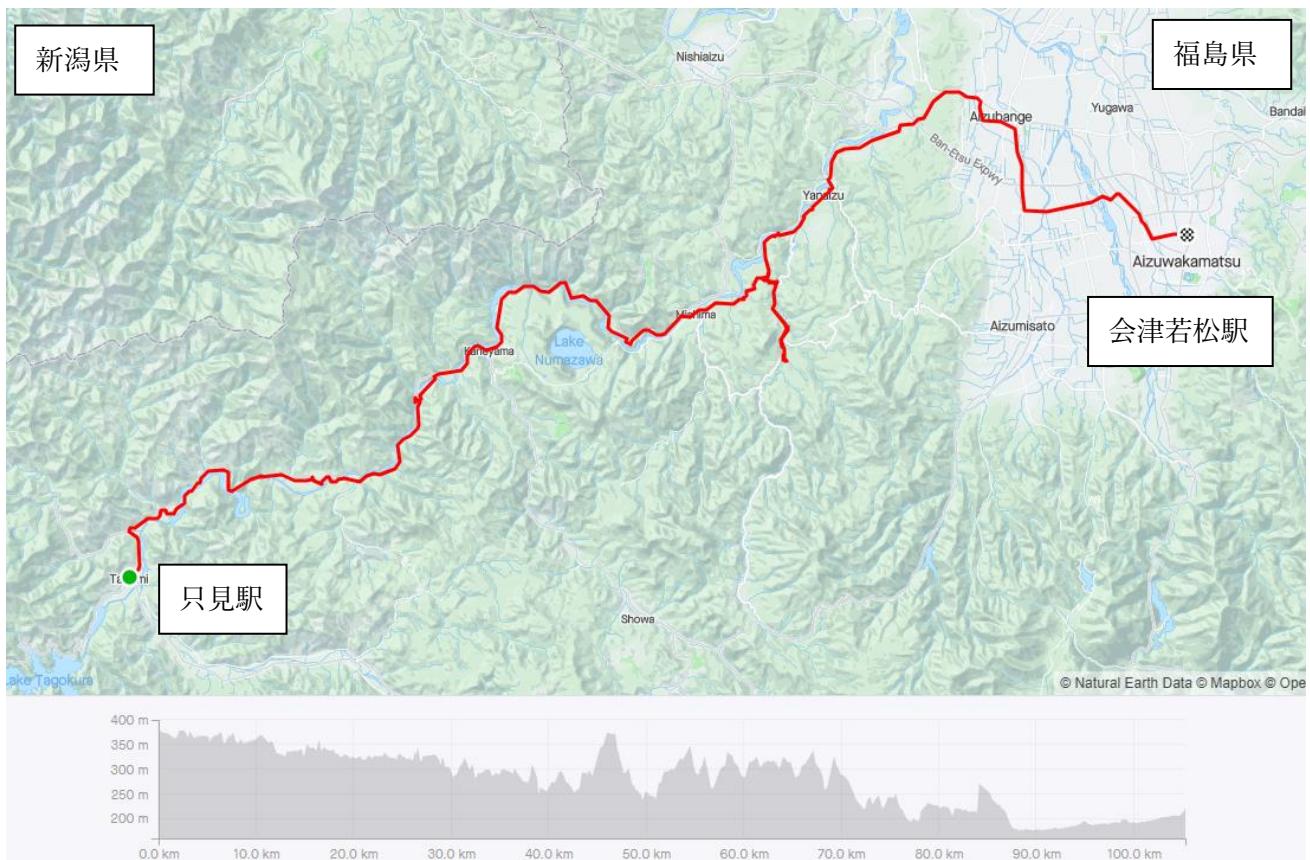
大白川からはやはり景色が良く、5 月に走った道を眺めながら紅葉を楽しみました。新潟福島県境、六十里越峠の下をトンネルで通過して旧田子倉駅付近の一瞬だけ暗闇からは抜けるのですが、その一瞬に飛び込んできたのが「霧に覆われる田子倉湖」です。朝の時間帯に六十里越峠を走るのも面白そう。またトンネルを通過したのち霧に覆われた只見の町へ到着です(7:01)。



「気を付けて。」

「ありがとうございます。楽しんで。」

11/4 の走行ルートはこんな感じ。



本数が少ないとはいっても鉄道沿いを走るので昨日よりはかなり気楽に走れます。只見駅は標高 371m で会津若松まで緩い下りが続くと見せかけてアップダウンを伴った道です。只見線は只見駅以東に乗ったことがありませんし、並走する国道も走ったことがなく初めてのエリアです。この日私が目的としていたのは「温泉」(特に炭酸泉)であり、次に只見線の橋梁を見ることでした。インスタグラムなんかを見ていたら只見線の橋梁と列車を撮った写真が不定期に流れています。ところでこういう写真を撮る人たちは果たして只見線に乗ったことがあるのでしょうか。まあそれを言うなら都市部で買った青春18きっぷを使って只見線に乗っても只見線の売り上げにはなりませんけど。だから真に売り上げ貢献をしたと言えるのは昨日買った「只見→小出」の990円だけなんですね……。車社会だから仕方ないよな~。

7:23 霧×只見駅



愚痴は置いておいてさっさと輪行を済ませます。先述した通り今日は午後が雨予報なので午前中でできるだけ前へ進みつつ嫌になつたら輪行して帰るというスタンスで行くことにします。

そういうえば只見駅まではさほど混んでいなかったのですが只見駅で結構な数が乗車してきました。午前7時の列車なら早起きせず無理なく乗れますね。逆に降りた人は私ともう一人自転車を担いだ人と、あと2人(不明)ぐらいいたかな?

9 只見～10 会津蒲生～11 会津塩沢～12 会津大塙

青看板曰く会津若松までは 84km と思っていた以上に遠いです。

7:32 格好良すぎる山



7:36 思わず立ち止まる



今日走るのは国道 252 号、昨日の 352 号から番号が 100 小さくなりました。入りたい温泉がいくつかあったのであまり立ち止まらず行こうと思っていましたが、上の景色を見て立ち止まり中々出すのが億劫なカメラまで使って撮影しました(右)。国道 289 号の不通区間八十里越への分岐を過ぎて暫く走ると。

7:45 会津蒲生駅の裏にそびえる、会津のマッターホルンこと蒲生岳



格好良すぎますね……、これで山頂の標高は 828m あるそうで時間があれば登ってみたかったなあ。会津のマッターホルンという呼称は Google Maps に蒲生岳(会津のマッターホルン)として登録されていたので真似しました。

この辺りからです。足がおかしくなったのは。

またまた左膝が痛い！

奥只見では何ともなかった足は檜枝岐から只見まで走る間に 100km ウォークで壊れた左膝の痛みを発症し、今日も走り始めて間もないのに痛んでいます。これは痛みで輪行ルートか～？

安静にしていたら良いのですが、たとえ歩行でも曲げ伸ばしをしだすと常に痛いんですよ。そしてたまに条件は分かりませんが声を漏らしてしまうほどの痛みが膝ヘピンポイントに走ります。後者の痛みが発生するとその後数秒は痛くてとても動かせません。その後は膝の曲げ伸ばしを気持ち抑えて後者の痛みが発生しないように祈りながら走るのです。それでも強い痛みは走りますが。下り坂は重力と慣性に任せて足をあまり回さずに進みます。

7:51 第八只見川橋梁



7:58 視界の果てまで続く塩沢スノーシェッド



初めて会津エリアを道路に注目して旅したのは今年5月のことですが、覆道(ロックシェッドとスノーシェッド)の多さに驚きました。北海道の国道229号はその地形の陥しさから落石対策としてロックシェッドが多く設置されていますが、会津地方を始めとした豪雪地帯はスノーシェッドが数多く設置されています。

8:05



こんな洞内分岐とは違うけれど覆道とトンネルが分岐しているような景色が当たり前のようにあります。覆道は本州にはあまり設置されていないと思っていました。ちなみに右が国道252号で左は滝発電所へ通ずる道です。

これから会津平野まで隣を走る只見川にはダムがいくつか設置されているので、上流から見て行きましょう。まず田子倉湖の水は昨日走った奥只見湖から来ています。この接続されている

川沿いに林道でも良いから道があれば楽しいんですけどねえ。奥只見湖には奥只見ダム、田子倉湖との間に大鳥ダム、田子倉ダム、金山町の滝ダム、本名ダム、上田ダム、三島町の宮下ダム、柳津町の柳津ダム、会津坂下町の片門ダムがあります。ダムカード収集が大変そうですね。

炭酸の町

会津塩沢駅を通り過ぎてしばらく行くと只見町を抜けて金山町に入ります。金山町には炭酸が湧くということで炭酸井戸や炭酸泉の温泉があり、Google Maps で見つけて以来ここに行きたいなと思っていました。

8:08 楽しみにしていた野良炭酸水！



8:09 国道から逸れて徒步で下って行きます



8:11 えっ……、これ飲むんかよ……



痛む足に顔を歪めつつ国道沿いに停車。炭酸水を汲むことを想定して只見駅で買っておいたペットボトルを携えて徒步で沢へ下って行きます(すぐそこ)。そこにチョロチョロとパイプを通して炭酸水らしき水が流れていたのが左の写真です。Google Maps では星 3.3 であり口コミ曰く、「水は流れでおらず淀んでおり猿がいた」、「藻が育っている」、「ミミズが入浴中」とのことでのどんなゲテモノが出るのかとビクビクしていたのですが、まず一見して虫は浮いていなそうで良かったです。でも口コミ通り藻が逞しく育っています。取り敢えず手持ちのペットボトルに汲んでみると濁ってるし！まあ少なくとも口に含んで炭酸が含まれるか確認はせねばならないので、意を決して泥水を口に含みました。強いわけではありませんが確かに口の中をシュワッと刺激する感覚は確かに炭酸だ！流石に飲むのは抵抗があって炭酸を楽しんでから吐き出しました。うう……、口を濯ぎたいな。

湧き水は全国に腐るほどありますが、炭酸水が湧いている場所なんてここ以外には知りません。自然って凄いなマジで。炭酸水って湧くものなんだ……。調べてみると日本で天然炭酸水が湧く場所は殆どないようです。2023 年の G7 広島サミットで金山の炭酸水が卓上水として並んだんだって。凄いね！

せっかく天然炭酸水という珍しいものが湧いているのだから滝沢天然炭酸水もしっかり整備してくれれば良いのにと現地では思ったのですが、自然に任せるとという意味で1つぐらい自然の中にひっそりと湧いているものがあっても良いのではないかと今では思います。なんでもかんでも整備するのは好きではないのです。似たような話で今日11/17の北海道新聞で糠平湖全体に電波が入るようになったとありました。あそこは不便さと歩いている時の絶望感・孤独感を感じていたかったから電波は入らないままが良かったです。超少数派の意見でしょうが。

会津大塩駅に近付いて足の痛さから早く大塩温泉で休みたかったのですが、我慢して先にもう一か所の天然炭酸水を飲みに行きます。大塩天然炭酸場へやってきました。

8:24 大塩天然炭酸場の炭酸井戸



8:28



先ほどの野良炭酸水と違って大塩天然炭酸場はきちんと整備されており誰でも炭酸井戸を使用することができます。前にいた女性2人組は車で来たそうで2Lペットボトルを何本も用意して炭酸水を井戸から汲み上げていました。何でも炭酸水でお米を炊いてみたいそうです。炭酸井戸の奥にある手水のような所でもチョロチョロと炭酸水が流れたりその場にあるコップで飲むことができます。先ほどの泥水と違って今度は味わうことができました。スーパーなどに売っている強い炭酸水と違って炭酸は弱めだけれど優しい口当たり、普通の水よりは好きです。前の2人が汲み終わったので井戸へ。小窓を開けて井戸を覗いてみると「ボコボコボッコボコ」激しく湧いていて見ているだけで楽しいです。温泉が湧くのもこんな感じなのかな。今思えば井戸を使ったのはこれが初めての気がします。小窓から紐のついたやかんを井戸に降ろして汲み上げますが、スマホ片手に動画を撮りながらは無理でした。汲み上げたやかんから手持ちのペットボトルに移し替えてボトルホルダーへ。後ろのバイクのお兄さん、お待たせしました。ここは会津大塩駅から歩いて行ける距離なのでぜひ行って見てください。



8:37 大塩温泉共同浴場

炭酸井戸を楽しんだらすぐ近くにある大塩温泉へ。まだ20kmも走っていないけれど膝がしんどくてここらで休憩を入れたい。金山町は炭酸の町、炭酸水が湧くぐらいですから温泉も炭酸泉であって、入ると体中を炭酸に刺激される感覚を味わいたいなと期待していました。

9:26 内部



この日は温泉に何湯か入ったので 10 点満点で点数をつけると 2 点です(別に不快だったという訳ではありませんし 9 点や 10 点などまず付けません)。入浴料(協力金)は 300 円と標準的、浴槽は内湯 1 つと只見川を眺められる露天が 1 つありました。朝早めに行つたつもりですが地元の方と旅行客で結構混んでいました(浴槽がさほど大きくないものもある)。湯は鉄を含む赤褐色。問題は期待していたほど炭酸を感じられなかったという点で、内湯は全く、露天は微妙に泡が腕に付着するかなという感じで肌の刺激は全くありませんでした。熱

いというほどではありませんでしたが、どちらも温度が高く炭酸が抜けているのだと思います。確かに炭酸泉であるけれど、この時自分が求めていたものがなかったという点でこの点数を付けます。もちろん、痛む膝と体を休める場としては良かったです。同じく炭酸泉でこの前入った島根県の三瓶温泉某旅館の湯なら 8 点は固く 9 点を付けても良いかな。

眠気が……！

激しい運動をしておきながら睡眠時間は快活 CLUB ブースの 5 時間半→駅寝の 2 時間半と来ていますから流石に眠く、温泉で体が温められて風が心地よい露天風呂で寝落ちしました。温泉を流さずに服を汚してしまったこともあるので一応シャワーで流して服を着ますが、着るもの多いこと！

右左靴下、右左足サポーター、パンツ、クッション付きの履くやつ、インナー黒、インナー螢光緑、ウルトラライトダウン、アウター、ズボン、右左手袋と着るものが多く数えてしまったよ(13)。

最近、旅で温泉に入る際にタオルを持っていくのですが体を拭くのに殆ど使わないんですよね。脱衣所に行く前に風呂内で十分に水気を切っておけば少し突っ立っているだけでも乾くし扇風機なんかがあれば余裕です。髪の毛は最低限風呂で湯を落としているからドライヤーがあれば乾かしたついでに体にも送風したら体も乾きます。函館の谷地頭温泉のように、たまにドライヤーが有料だったりすると夜風で頭を搔き回しながら乾かしたりします。何湯も入る時はタオル 1 枚だと濡れが蓄積するし、そもそも濡れたものを持ちたくないです。当たり前だけど脱衣場を濡らすなんてことはしていませんし、タオルを使わないからこそ人より周りに気を遣っています。

今後の行程を確認するために携帯を開き休憩所の長椅子に座り込みます。地図を開き次の目的地を確認していよいよ出発しますが、なんと椅子に今まで触っていた携帯を置いて出て行こうとしました。すぐに周りの人に教えてもらいましたが、普段こんなこと絶対にやらないのに……。まあただの眠気によるものでしょうが。

温泉の近くに第七只見川橋梁がありますがスルー。今日は全てを拾うつもりはありません、とは言ってみたけれど実際は昨日の行程ほどは調べておらず存在を知らなかっただけ。

9:38 出発

12 会津大塩～13 会津横川～14 会津越川～15 本名～16 会津川口

只見線の橋梁と豪雨被害について

2011 年の豪雨による只見線の被災状況は下記リンク先の PDF に書いています。先ほど通った第八橋梁は橋脚洗掘、第七、第六、第五橋梁は桁が流出してしまうという大きな被害を受けましたし、盛土崩壊や軌道変状などを入れるとキリがなかったでしょう。

https://www.jreast.co.jp/railway/pdf/20130522_tadami.pdf

2010 年のデータ(上記 PDF より)ですがランキングにしてみると只見線の経営の厳しさが伝わってきますね……。最下位の岩泉線は 2014 年に廃止されていますし米坂線は災害で不通が続いている(この前 JR 側が復旧させと言つて驚きました)。誰が只見線にお金を出しているのかなどこの辺の経緯を調べてみると面白いかも。

JR 東日本路線別の状況 (2010年度・在来線全67線区) (人/日)		
1位	山手線	1, 060, 497
2位	埼京線	700, 801
3位	東海道本線	335, 552
4位	横浜線	221, 110
5位	総武本線	201, 534
↓		
63位	米坂線	424
64位	北上線	387
65位	山田線	377
66位	只見線	370
67位	岩泉線	29

9:50 痛い 痛い 痛い



10:01 温泉に到着 あれは廃橋



10:08 湯倉温泉共同浴場



次の温泉までは 9km。先ほどの大塩温泉で膝の痛みをごまかし、走り始めた時には激しい痛みが現れなかったのですが暫く走るとまた発症。自分はどこまで行けるのだろうと不安に思いながら 15 本名駅付近の湯倉温泉共同浴場に到着しました。共同浴場の隣にある旅館鶴亀荘へ知人が最近泊まって炭酸泉を絶賛していたので、ここはかなり期待していました。湯屋から川へ流れる温泉が斜面を黄土色に染め上げており成分も豊富そうです！

(注)この日中、足の痛みが頭の中を占めているので下調べはあまり行っていませんし、感情も「痛い」が先に来て純粋でないものになっています。

10:15 内湯が1つのみ



10:39 浴室からの眺め 紅葉+只見川+温泉



4点。

旅行客と思われる先客が2人いて、1人は私が入って間もなく去りもう1人の方と少しお話しました。いつもより記憶の質が悪く細部は覚えていませんが、自転車で来たとか新潟から奥只見を通って来たというのには驚かれていました。この後行こうと思っていた温泉について伺いましたが情報は得られず。さて、温泉についてです。入浴料は300円で標準的、内湯が1つのみで浴槽は小さいですが人が少なくてのんびりできました(一人になって貸し切りでした)。シンプルな造りでシャンプーなどは置いておらず雰囲気を大事にする私的にはその方が高評価です。湯は平均よりは高めで泉温は分かりませんがとにかく熱め、まあ飯坂温泉ほどではありません。湯もみをするか浴槽の隅から注がれる58.6°Cの源泉の注ぎ口を塞ぐことで熱い湯の供給を断って湯を冷ましましょう。湯が熱いということは炭酸を感じることが大塩温泉よりできず……。良かったのは浴室からの眺めで、窓を開けて椅子に座りボーッとして冷えてきたら湯に浸かってを繰り返し色々良い時間を過ごしました。油断しているとあっという間に時間がなくなるので休憩所では長居せず再出発(10:54)。

というか成分表すら撮ってないって……。湯も口に含んでいないし痛みと眠氣で頭が一杯だったのね。

僅かな坂も避けられるのなら避けたかったので旧橋を渡り、気になっていたR252の廃道へ。スノーシェッドの廃道は初めての体験で楽しかった。

10:59 左の橋の旧橋



11:01 R252 スノーシェッドの廃道



本名ダム堤体より、第六只見川橋梁



第五只見川橋梁



(いきなりダムの堤体に出てびっくりしたよ……。)

本名駅の隣は只見線の中でも大きい方の駅である会津川口駅です。ここらで昼飯にするかということで、食べログを見る。定食屋「おふくろ」かラーメン「不二家食堂」で迷ったけれど前者は有名店らしくツーリングマップルにも載っているそうなので、おふくろへ入ることにしました。店の前にチャリを停めて入店するとお昼時ということもあってそこそこ混んでいる。幸い席が空いていたので腰を下ろして休憩。店内には著名な人の色紙がたくさん飾ってあり、メニューを見るに看板メニューがあるらしくそれを注文。



注文したのは名物のカツカレーミックスラーメン 1,100 円。この料理、なんとカツ on カレー on 醤油ラーメン on ライスという食欲という食欲を詰め込んだ一品です。「初めてですか？」と女将さんに聞かれ食べ方を説明されたのを書くと、まずはカツを 1 口そして混ぜずに食べる（勝手に混ざるから？）らしい。それでは実食。カレーが辛めか……？

うーん、微妙だな。もちろん不味くはないのですが、本来混ざらないカレーとラーメンを混ぜたことでそれぞれの主張が中途半端になっているようを感じました。発想としては（ネタとしては）面白いけれどこの値段だったらバラで食べた方が量も味も満足できるかなと思います。リピートはなし、それより他のメニューが気になります。



やはり有名店らしく私が食べている間に次々と客がやってきて店の外で待つ人も出てきました。ちょうど良い時間に来れたみたい。

11:46 退店

天気も含めて今の所微妙な一日だなー。

取り敢えず駅が近いので向かおうか。

16 会津川口～17 会津中川～18 会津水沼～19 早戸～20 会津宮下

只見から数駅来ましたが国道沿いに駅がなく微妙に奥に入らないといけないものしかなかったので駅前にくるのは只見駅以来です。さて、この日に入ることにした温泉は全部で3つであり既に大塩温泉と湯倉温泉に入りどちらも微妙だったので残す最後の温泉はどうか素晴らしい体験であってくれと願います。その温泉は会津の中でも辺鄙な場所にあって車か自転車でないと行きづらく、更に私がターゲットにしている旅館はやっているかすらよく分からず、電話で確認をするのが推奨されていました。ただ、まだ温泉まで距離があって会津川口時点で電話をかけても足の都合もあって何時に着くか読めないということで先送りにします。次のチェックポイントと捉えていた会津宮下までは17km少々。

11:54 会津川口駅付近の線路



12:21 早戸駅と霧幻峡



会津川口からも只見川に沿った道が続き平坦もしくは下り基調かと思えばチラリもある上っては下る道が続き、足が痛めつけられます。意外と上っている時は痛まなかったのですが(場合による)ちょっと休んで再出発したら痛みだす扱いが難しい足です。「なんで上るんだよ！もっと上手く道作れや」なんて文句を垂れながら走りました。加えて薄暗いスノーシェッドも連発して怖いし。第四只見川橋梁は写真すら撮らずチラリと見てスルー。

早戸駅周辺には霧幻峡という観光スポットがあります。かつて国道から只見川を挟んだ対岸に存在した集落では生活の一部として手漕ぎの渡し船が利用されており、廃集落になった現在渡し船が復活して観光資源となっています。今朝には田子倉湖や只見の町に霧がかかっているのを見ましたが、これは川霧と言って名前の通り川やその周辺に発生する霧のことです。只見川は夏になると川霧が発生することで知られており、雪解け水が流れ込むことによる空気と水の温度差から川霧が発生しやすく、特に6月から8月の朝晩や雨の日に見られることが多いとのこと。当然11月のお昼の霧幻峡には何も出ておらず、夏の時期に訪れるのが良さそう。もしかして今朝始発只見線で霧が見られたのはラッキーだった？

(<https://okuaizu-suiryokukan.jp/wp/?p=2365>)

霧幻峡を少し覗いていこうかと思ったのですが坂を下る必要があるので写真も撮らずにスルー。それよりトンネル脇の廃道を覗いていました。チャリを停めて入ろうと思ったけれど足が濡れる可能性があったのでこれまたスルー。

金山町から三島町へ。

12:45 宮下発電所(宮下ダム)



可愛らしい絵に考え直しわざわざ上り返して撮影



猿



タヌキ

会津宮下直前のチカ峠はどういうわけか下りの方がより膝が痛みました。

先述の通り私は駅メモを遊んでおり只見から1駅ずつ取得してきたのですが無料枠の12駅を使い果たしてしまったので長野からの帰りに取りに行った1日駅取り放題になるアイテムを使用しました。残りの駅はそんなに多くないのでこのアイテムを使うのは勿体なさすぎるけれども(だってレーダーもルートビューンもほぼ0でデイリーのがチャを回しても当たらなかったもん)。



12:55 宮下アーチ3兄弟到着

Google Mapsで大分前に見つけたやつ。観光地化されており結構人が集まっていました。橋で群れているバイクが立ち退いて写真撮影。そうこうしていたらクソうるさいバイクがこっちに来るし本当迷惑。見たいものは見れたと立ち去ろうとして案内を見るともうすぐ列車が通過するらしい！10mぐらいですが踵を返して今度はカメラを出します。

13:01 只見線会津若松行



只見線沿線を旅するなら自分がどの位置で只見線の列車と出会うのかは考えておくべきです。第 N 只見川橋梁(N は 1 から 8)を始めとして列車が映えるポイントは多いですからね。今回私は只見線のダイヤすら調べておらず、普通の第 N 橋梁ではなく宮下アーチ 3 兄弟で列車通過を見られたのはただの偶然です。足は痛くてやる気がなくても運は良いんですね。宮下アーチ 3 兄弟について簡単に解説すると以下の通り。

長男：只見線大谷川橋梁、昭和 14 年供用開始、真ん中

次男：県道小栗山宮下線宮下橋、昭和 32 年供用開始、手前

三男：国道 252 号新宮下橋、平成元年供用、奥

それぞれ 1939 年、1957 年、1989 年供用開始ですから 2023 年で 84 歳、66 歳、34 歳とかなりの年の差ですが……。長男次男三男の年の差ではありませんね。

20 会津宮下～21 会津西方～22 会津桧原

目指す温泉は会津桧原駅の辺りで国道から逸れるのでまずは分岐地点まで 5km ぐらい。その前に温泉への到着時刻が残り距離の減少により読めるようになったので行きたい旅館に電話をかけますが(13:00)、通話中になっていたので時間を置いてかけることにしました。旅館のおばあちゃんは畠にいて出かけていることもあるそうなのですが、通話中ということは外には出ていないということかな。時間を置いてかけ直そう。道中の道の駅尾瀬街道みしま宿で一息つくついでに再度電話(13:11)。しかし、またもや通話中の表示が出ます。もう知らね。とりあえず行ってみるけどどうにでもなれ。

道の駅のすぐそばから第一只見川橋梁を見られるらしいので展望台まで痛む足を引きずります。

13:25 紅葉の第一只見川橋梁



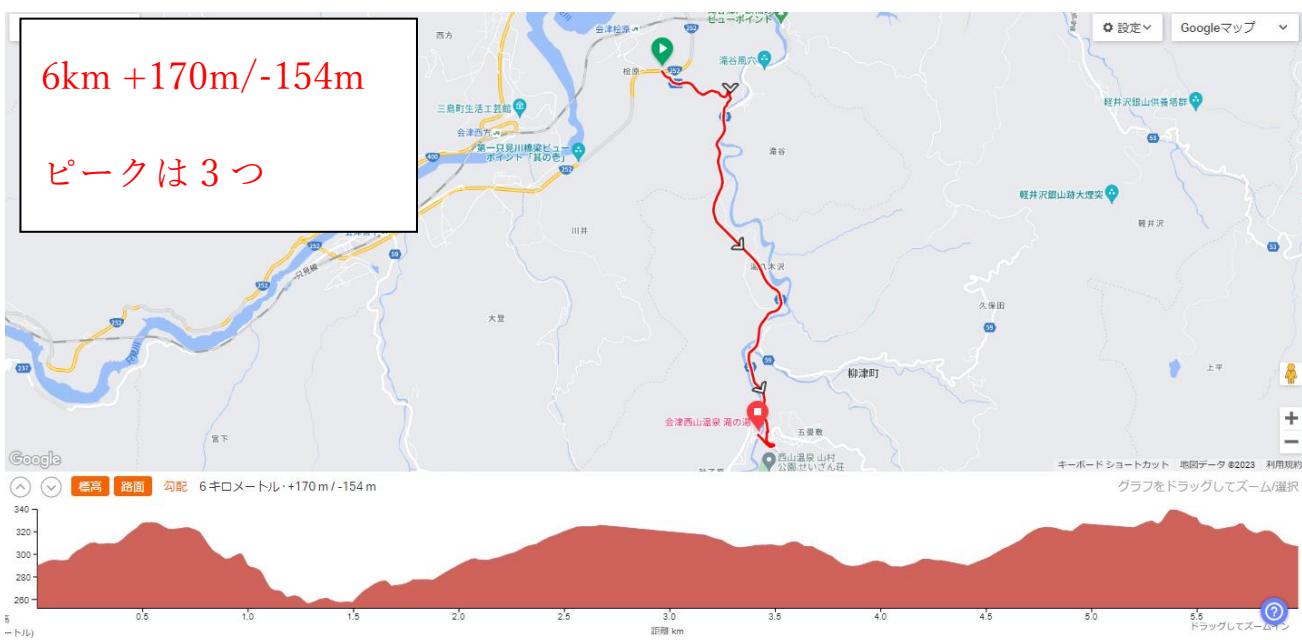
只見線で最も有名な景色でポスターなんかにも使われている第一只見川橋梁。展望台は2つあってビューポイント「其の壱」と「其の弐」があり、其の壱は国道から階段を少し上れば着き其の弐はもう少し上にあります。この左膝では階段昇降が辛くて一段に両足を置かないと歩けなかった……。



この橋梁、只見川の水面へ反射して周りの木々も秋を感じさせ良い景色なのは間違いありませんが感情を揺さぶられるほどのものではありませんでした(まあ99%以上がそのようなものであり、残りの1%未満を探すのが、私が旅に出る理由です)。ビューポイントから人間の目で見る橋とSNSにアップされている橋の画像の違いに、まあこんなものかと冷めてしまいました。あるあるだけど、これだけ望遠していたんだなあ。望遠レンズを持っておきながら最近それを使うことに納得できなくなってきた。

ここから、僅か6kmなのに奥只見旅でいちばん辛かった。

この辛さを記録として文章で残しておきたい。万全な体ならこんな区間屁でもないんだけどね。



13:34 R252 から一旦離れて K366 へ



目的としていた最後の温泉は「西山温泉」です。会津桧原で国道252号からは一時的に逸れて、只見川から離れる方向に山の方へ県道366号、県道32号、県道59号と「6.0km」の上り基調でした。膝痛かったよ、でもあと6.0km行けば温泉で休めるし帰りは下り基調だから雨降っても何とかなるでしょ。

- まず1つ、ずっと上り基調だと思っていたんですよ。
- 辛かったのでしょうか、道中の写真は1枚もありません。

もう一度言うけれど普段ならこの程度難なく走れますし、皆さんもし行かれるとしてもこの道に苦労することはないでしょう。

(注)下調べをしていませんでしたし走っている時には何メートルアップかも斜度も、距離以外何も知りませんでした。

走り始めると道路は鬱蒼とした木々の中へ入り典型的な山中の峠道になりました。最初勾配は緩く走り始めボーナスもありすんなり行きましたが、走り始めて400mで勾配がきつくなり膝が痛んだので停止。8.7%の勾配が126mに渡って続く12mUPの区間が始まります(笑)。膝よ、痛まないでくれとケイデンスを下げて最も軽いギアに、何とか足つき1回で上りきると今度は下りが始まります。この下りがいつまで立っても終わらず、38m上ったのに70mも下ってしまいます。おかしいでしょ、温泉は川の上流だから標高は上がるはずなのに。下りきった残り4.5km地点でシェッドがあり、1.1km67mUPの平均約5%の上り坂が始まります。これはよくある平均詐欺で下りもあるし8%とかは普通に混じっているはず。ここもまた足つき1、2回で上り切りましたがずっと上りだと思っていたのに70m下って70m上るっていったい何なの?アホなの?まあそんなことを言っても仕方がないのですが、行き場のないライラを頭の中で呟いて消化します。残り3.3kmとなり下り1.5%程度のスノーケルター(トンネルだと思っていた)を抜けると次の700mで平坦区間も含みながら30m下ります。なんでまた下るの?なあ!平坦区間で更に1回足つき。この時点で3kmほどしか来ていないですが肉体的精神的に追い込まれ随分遠くに来たように感じられ、「西山温泉は凄いな。これは秘境だな。」なんて思いました。残り1.6km地点から360m区間は8%ほどで30mぐらい上り、常に痛んでいますがゆっくりでも確実に進みます。西山スノーケルターに差し掛かるとゴールが近いことを察しますが、シェッドを抜けてから今度は左折、いい加減にしろ!遠すぎるんだよ!!!!残り800mで左折してからは250m上るとあとは下りなのですが……。左折後また上りが始まったことでもう感情が爆発しました。

「二度と来るか。」

だから今日で温泉を満喫して、もう二度と来ない。帰りまた上らねばならないという絶望感がありますが、痛い痛い痛いと呟きながら何とか到着。

13:58 右へ行けば西山温泉郷



13:59 え、良い……!



27分で6km、グロス13.3ぐらいでした。やはり体感のみならず経過時間もそこそこありました。

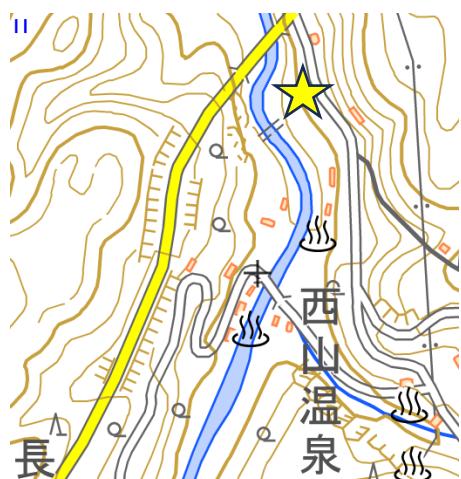
西山温泉郷



西山温泉で検索するとトップに山梨県の西山温泉が出てくるかと思います。山梨の西山温泉は西暦 705 年からの歴史を持つ世界最古の宿としてギネスブックに載っている慶雲館で有名です。そのため福島の西山温泉はしばしば会津西山温泉と呼ばれます。以後、西山温泉は会津西山温泉のことを指します。西山温泉では 8 つの源泉が湧いており最初の神の湯が発見されたのは山梨の方と同じ時代の 717 年と云われています。2023 年 11 月 4 日、温泉郷到着時に入浴ができる「可能性があった」のは以下。

1. 下の湯
2. 滝の湯
3. 中の湯
4. 老沢温泉旅館
5. 新湯
6. せいざん荘

そして私が目的としていたのは 1 番の下の湯です。ここは早くに入らないと本当にヤバい(無くなる)と思ったからです。



吊り橋が見え、これを渡った先にひっそりと佇むのが下の湯です。

下の湯は最も見つけ辛い場所に位置しており、滝の湯裏に 1 車線の道があり車でも入れるのですが Google Maps にも Apple Maps にも地理院地図にも記載されていないので注意されたし。Apple Maps では下の湯が川を挟んでポツンと孤立していて面白い。滝の湯の裏を回り込むように狭い道を進むと

14:03 ここまで辛かったから達成感があります



14:05 吊り橋を渡らなければいけない温泉



ここまで辿り着いたのは良いのですが電話を 2 回かけても出て頂けなかつたのでそもそも下の湯に入れるかは分かりません。ダメなら他の湯を端から当たろう。

私が着いて自転車を停めると吊り橋を渡った先に男女 1 組が歩いていくのが見えました。これは先に行かれると、全然待つのは良いけれど、と思いながら吊り橋を渡って急ぎ追いかけます。渡った先には一軒の(部分的に)木造家屋があり、先行していた男女らは建物の玄関を開けて何やら話しているみたいです。旅館のおばあちゃん、下の湯に入ろうと車で来たご夫婦、そして後ろから私が集まりました。

奥さん「入浴ですか？」

私「ええ、そうです。」

ご夫婦が建物から出てきて 2 人の話を聞くに、今は他のお客さんが入っておりおばあちゃんが他の客との混浴を認めて下さらない、そして湯が溜まり切っておらず少なく湯温も低いとのことだそう。後者の湯量は全く気にしませんがね。3 人で道を引き返す途中浴室の窓を旦那さんが外から開けて既に入っているお客様に湯加減を聞くと、「良いですよ」とのこと。(3 人で結構話したから記憶から落ちているものが多いです。) 3 人で吊り橋を渡り返して自転車と車の置いてあるところへ戻り、これまでの旅を共有します。先に下の湯に着いたのは彼らなのだから、私が自転車で来て苦労しているのだからと優しさにつけこむわけではありませんが順番を譲るように誘導することは絶対にしたくありませんでした。でも、本当に辛かった、上ったと思ったら下るし、などと辛かった体験を伝えました(珍しく本当に辛かったので)。お 2 人は車で温泉を巡っている途中らしく、話を聞いていると分かったのが「この人達めっちゃ温泉に詳しい！」ということ。私など比較にもならず今まで会った中ではいちばん詳しい方たちでした。

「どこから来たの？」

「東京、上野らへんです。」

「なら藝大か！」

「いえ、東大です。」

私と同じ年で社会人 1 年目の娘さんがいるそうで話が盛り上がりました。文系で理系の多い職場に入つてしんどいそう。会ったことはないけれど頑張れ！

お 2 人は大宮から来られており旦那さんは硫化水素など強烈な温泉好き、奥さんは鄙びた温泉や旅館好き。「あー！ 申し訳ない僕はこっち側ですね！」と奥さんの方へ 1 歩。

「僕も今日 2 つ入って来たんですよ～」

「えーと、会津大塩の大塩温泉、なんだっけ？ああ湯倉温泉。でも湯音が高くて炭酸が微妙だったんですよ。ぬる湯好きなんですけど。」

知識量の差がありましたが温泉トークで盛り上がりいくつかおすすめを教えて貰いました。と言っても熱量が凄くて半分も拾いきれませんでした。やはり連絡先を交換すべきだったなあ。

・玉梨温泉共同浴場

・八町温泉共同浴場亀の湯

外観はトイレみたいらしい。これは湯倉温泉もそうでした。

・木賊温泉

・湯の花温泉の 4 湯

この 2 つは 5 月に行きました！記事でもこの後 Ex2 にて写真を貼ろうと思っています。

「○○湯がいちばん熱かった。」

「いや、日によって違うんですよ。」(私)

湯の花繫がりでは木賊温泉の奥に埼玉県の作った自然の家という施設があるそうで奥さんは昔々に学校か何かの行事で行ったことがあったそう。

あと草津に行く途中の吾妻線沿いにボロ屋の温泉があるらしい。これは今地図を見てもどれのことか分からぬないなー。

そんな感じで立ち話をして盛り上がっていると先に入っていた男性客が湯から上がり吊り橋を渡ってきます。彼は地元の常連のように見えましたが予想に反して来るのは初めてだそう。電話も出てくれたみたいです。

只見線終電までは余裕があるし 1 時間ぐらい待つことに抵抗はなかったのですが……。

「絶対入るべきだよ。」

体も心も疲弊していましたが何気ないこの言葉は頭の中に強く残りました。

立ち話で大体どういう人なのかは分かったので、冗談 3 割真面目 7 割私を子供ということにして 3 人で混浴したら皆が入れるじゃないかと提案しましたが、「入ってきな」と言っていただきました。

ありがとう。伝わらないだろうけれど、改めてこの場でお礼を申し上げます。

3 人を残して貴重品だけ持って再び吊り橋を渡り下の湯へ。ガラガラと引き戸を開けてすみませんと呼びかけますが目の前にいるおばあちゃんに声が届いていないみたい。角度を変えて再度、すみません。

「ああ、さっきの。」

他のお客様の予約状況がよく分からなかったのですがなぜか入っても良いことになりました。14 時半頃のことでのことで、15 時ぐらい目途で出れば良いかな？ギシギシと床を鳴らしながら建物の奥へ。



西山温泉下の湯旅館

2023/11/4 14:46

6点。

一組ずつの貸し切り利用であり、浴槽は2つ。左の浴槽に源泉が直接注がれており湯温は高め(湯倉温泉と同じぐらい)、右の浴槽には注がれておらず熱くも冷たくも感じないぬる湯が楽しめます。湯が少ないとは聞いていたけれど先ほどのお客様が入っていた時間よりも増えていて何も問題はありません。かなり熱い源泉を手に掬って飲むと硫黄の風味を伴う卵スープのような感じ。実際、下の湯の泉質は含硫黄—ナトリウム—塩化物泉であり味の通りでした。分析書によると源泉は昭和57年で66.0°C、平成5年には69.6°Cと記載されていましたが、確かに熱いものの手で触れるあたり源泉温度が下がっているのは確かなようです。これだと屈斜路湖の野湯の方が全然熱かったな。浴槽の底には消しカスのような白い湯の花(温泉の不溶成分が析出、沈殿したもの)が散らばっており湯に浸かると巻き上げられ見ているだけで楽しいです。この湯が左膝を始め全身に染み、「ああ……」と気持ちよさのため息をつきます。しばらく熱い湯に浸かってぬる湯で体を休めてというのを繰り返して楽しみました。浴室の雰囲気は木の浴槽に石畳、天井には煙突のように四角く穴が開いており近代的な換気設備は着いていなくてGood、石の壁は年季を感じさせ、平成生まれの私が想像する昭和の銭湯そのものでした。

それでも只見駅を出てすぐに痛んだ膝を大塩温泉で騙し、また痛んで湯倉温泉で騙し、また痛んで西山温泉の道中は肉体精神共に辛かったですが来てよかったです。まだ西山温泉で膝を騙して走り続けることができそうです。

升に溜まる湯の花



十分満足して文句はないのですが、2点残念な点がありました。10年前の記事を読むと浴槽に溜まる湯の花の量が半端ではなくかき混ぜると湯が真っ白に濁るほどだったそう。これは文句を言っても仕方ないですがね。もう1点は「記録者」としての本能が出てしまったこと。本来なら浴室にスマホなど持ち込みたくないのですが、この旅館に次来ることができない可能性が高いと思ったから写真撮影に勤しんでしまい湯と真に向かい合えたのかよく分からなくなってしまったのです。終いには、スマホを壁に立てかけて記録として自分の入浴動画なんて撮ってしまいました(こんなこと初めてしました)。

ところで「次来ることができない」と書きましたが、これすなわち積極的に来る気がないということだと思います。本当にその場所を気に入ったのならいくら距離が遠かったとしてももう一度行くでしょう。

2022年9月11日、満月の夜に北海道根室市落石で得た気付きです。



15:09 浴室→玄関の通路

今度はせっかく使おうと思っていたのにタオルを自転車のリアバッグに忘れるという失敗をして、ドライヤーも扇風機もないため入念に水気を切って玄関へ戻ります。サポートは面倒なので履かない。

「ありがとうございました！」そのまま出ようと思ったら「400円ね」と言われ驚きましたが、普通先払いだから失念していました。少し話してから下の湯を去りました。

電話に出て頂けなかつたのは離れて違う場所にいたからだそう。今度来るならその日の早いうちからかけることにしよう。昔は旅館営業もやっていたそうですが現在立ち寄り湯のみ、ただ跡継ぎがいないようで立ち寄り湯もどうなることやら。雷電温泉郷と同じ道を辿らないようにと願うのみです。外へ出て振り返ると3色に色づいた葉が生活感のある旧旅館を彩っていました。

西山温泉下の湯 2023/11/4 15:16 くもり



おばあちゃんが畠に出ていて電話に出られないと書きましたが、畠は建物のすぐ隣にありました。吊り橋を渡るとそこにご夫婦の車はありませんでした。

15:19 吊り橋に木の板？



吊り橋の柱に木の札がかけられており掠れた文字を読むと、なんと「休みです」と書かれていました。そう言えば先ほどのご夫婦が言っていたな。電話の応答がなかったので木の札に気付いており、かつご夫婦がいなかつたら引き返してしまっていたかもな。

せっかく来ただから他の湯も覗いて行こうか。仮に帰り雨に打たれるとしても温泉に入る方が大事です。下の湯のおばあちゃん曰く滝の湯に行くと良いらしく、老沢温泉は工事をしていて入れないそう。まずは下の湯に行く道中にあった秘湯を守る会のちょうちんが垂れ下がる滝の湯に行きますが今立ち寄り湯はやっていないとの掲示があつて退散。今思えばもう少し踏み込んでも良かったかも。続いて中の湯に自転車を押していくと旅館から出てくる宿泊客とすれ違うところでした。そしてもう一人、猫車を押すおじさんは旅館の人で、立ち寄り湯ができるか伺ったところ宿泊客がいるからダメだそう。他の温泉について教えて貰い、老沢温泉は子供？親戚？が多くて部屋がないからダメとか言っており謎。新湯とせいざん荘のことも教えて貰いましたが名前で判断して新しい(実際に新しいとは言っていない)温泉にはこの時惹かれなかった、というよりむしろ行く気力がなかったのでパス。

15:22 滝の湯



15:26 中の湯



1. 下の湯：入浴済み
2. 滝の湯：現在立ち寄り湯不可の掲示を確認
3. 中の湯：宿泊客のため立ち寄り湯不可
4. 老沢温泉旅館：大宮夫婦「お化けみたいなおばあさんが出てきて、今はやっていないそう。」
中の湯の方「子供？親戚？が多くて部屋がない。」
下の湯のおばあちゃん「今工事をやっていて入れない。」

5. 新湯：調べると 2023 年 9 月時点で立ち寄り湯不可？

6. せいざん荘：入浴可

悪い意味ではないけれど、もうむちゃくちゃやな(笑)

老沢温泉は気になっているんだけどな～。



15:33 坂を上り返し、最後に西山温泉郷を俯瞰

たった 6km だけど随分遠くまでやって来たような気がします。
行きには本気で二度と来るかと思いましたが、機会があればまた来たいと思います。

15:51 国道 252 号に復帰

温泉で膝を騙した直後なので帰りは 20 分ほどで走れました。

22 会津桧原～23 滝谷～24 郷戸～25 会津柳津

只見線沿線に復帰しましたが会津桧原から会津柳津まで国道を走ると只見線は殆ど見えず、もちろん駅も見えません。只見線で帰るなら終電の会津桧原駅 19 時 43 分発がありますが、足が痛むとしても流石に会津若松まで走りたいと思います。ただ会津若松駅まで只見線沿線を行くと 40km 以上あって嫌になるので 2 つ 3 つ先の駅までの距離を調べてその距離を消化したら再び距離を調べるという手法で精神を保ちました。駅メモをやっていたら圏外の区間があって貴重なアイテムを使わされるし散々だよ。

16:15 道の駅会津柳津



16:18 謎のラッキーと赤いやつ



そいいえば炭酸水の金山町から霧幻峡の辺りで三島町に入り、会津桧原を過ぎたところで柳津町に突入しています。休憩で寄ったのが道の駅会津柳津で、17 時を回っていなかったので建物の中に入り何があるのかな、何を食べようかなと視線を巡らせます。結局ソフトクリームを食べて甘いジュースを飲むか葛藤しましたが何もせず退店し、自販機でオロナミン C を飲みながら Slack の返信をするのみでした。道の駅前には公園がありなぜかポケモンのラッキー(ポケモン GO では強かった)と赤ベこのオブジェが置いてあり子供たちが遊んでいました。赤ベことは会津若松市の郷土玩具らしく西山温泉を始めとして色々なところでそのイラストを見ました。

25 会津柳津～26 会津坂本～27 塔寺～28 会津坂下～29 若宮～30 新鶴

16:42 塔寺駅付近



会津坂下までの道については特に言うことがありません。時間と残り距離的にナイトランになりそうで、暗くなるまでにどれだけ距離を削れるかという昨日(旅が濃すぎて昨日だというのに驚いている)の檜枝岐一只見と同じことをやっています。小出駅で寝ている時にフロントライトの充電をしなかったのを悔いていました。一度もバッテリーの充電をしていないけれど電気は十分にあったのに。
「ナイトランは嫌だ！」



峡谷区間を抜けて会津平野に出てきましたが只見線は真っすぐ会津若松へ向かってくれず、一旦南へ行き東へ、最後に北の会津若松に向かうというルートを取っています。駅メモでは現在地点から最も直線距離の小さい駅にチェックインする仕組みなので真っすぐ国道49号を行くとかなりの駅が取れないので。しかし愚直に線路沿いを行くといつライトが切れるか分からないナイトランを強いられるし、左膝が暴れ出す可能性もあったので中間の案として左の走行ログのように新鶴駅までは走りそこからは最短で会津若松に向かい残りの駅にはアイテムを使うことにしました。

30 新鶴～31 根岸～32 会津高田～33 会津本郷～34 西若松～35 七日町～36 会津若松

17:09 いや補正しすぎ、実際はもっと暗いです



17:25 国道252号に復帰



新鶴駅に着きましたがここから最短で行っても会津若松まで 10km あるということに結構メンタルを抉られていきました。新鶴駅で曲がり入った道には会津パールラインの愛称があるそうですが路面があまり良くなく街灯がほぼないので道への文句を垂れ流しながら痛む足を回します。遂に国道252号に復帰して残りは 5km、いつも通りパンクしないでくれと願う時間が始まりました。旅の最後に空港や駅まで残り 3~4km ぐらいになつたら最悪徒歩で行けるなといつも安心感が湧いてきます。残り 2km 地点で更なるショートカットのため入った住宅街の道が段差マシマシで酷いこと。選挙カーうるさいよ、西山温泉でも佐藤さんの選挙カーがいたけどここでも佐藤さん、別人？



17:46 会津若松駅到着

ただただ膝が痛かった。普段はコスパが悪いため買わないポンジュースの小さなペットボトルを買ってみた。とても染まる。

丁度良い時間の磐越西線郡山行きがあったのでコンビニ前で輪行を済ませ、何か食べたかったので再びコンビニに入りホームへ。

(磐越西線)会津若松 18:19—郡山 19:34

18:14 磐越西線ホームにて



郡山までは所要時間 75 分、乗車が遅かったので辛うじて空いていた車椅子スペースに自転車を置いて立ち乗車です。まあ近くの 2 人席の片方が空いていましたが自転車服の人が 1 時間以上隣にいるのは嫌でしようから気を遣って立っていました(しんどかった)。東京までの電車を調べるとギリギリ普通列車で池袋まで出られるみたい。まあ翌日もやることがあったので郡山から新幹線輪行をすることに。

20:05 座席裏に入れられました



えきねっとで確認した上で、窓口では自転車を置きたいので車両最後部、進行方向左(ABC 席)で席をお願いしますと伝えて無事に乗車できました。



距離	105.28 km	獲得標高	1,508 m
移動時間	5:26:50	平均パワー	100 W
平均速度	19.3 km/時	カロリー	2,197 kcal

切符のキャンセル



左がこの日の走行ログです。珍しく 24 時間全てが面白かった 1 日と比べてしまうと膝の痛みや期待外れなものもあり見劣りしてしまいます。ですが、出会う全てが満足いくものであることは稀で、食事で入った店を「ああこの店は失敗したな」と笑って流すのもまた旅です。ただ、事前調査をすることでその日良いものに出会う確率は上げられると考えています。去年の轍記事で書きましたが、ネットで知れる程度の浅い所にある知識をほぼ全て調べて頭に入れた上で、つまり前提知識を持った上で地元の人と近い高さで話せるようにし、深い所に存在する知識を探すというのが去年時点での私の理想的な旅のスタンス。次のページで少し話すとしますか。

そう言えば小出駅で駅寝したことで使わなかった切符「小出→長岡」と「長岡→小出」があるのでした。有効期間は本日 11/4 まで返金ができるので窓口の列に自転車を携えて並びます。しばらく並び、腕時計を見ると 11/5 となっており……、「あれ？ 期間過ぎてるから返金できないじゃん。」とぼやけた私の脳は判断して、少し違和感を持ちつつも列から抜けて家まで帰ってしまいました。

～22 時過ぎに帰宅～

旅に出たい

感動

そもそも私が旅をする目的は、正の感情であれ負の感情であれ「心に強く響くものに出会う」こと。だから記事という名の行動ログの中でも感情を大切にしているのです。少なくとも旅において自分は他人より感情の発火点、また感情の閾値が高いと考えており、その一因として何かをするために何十キロも歩いたり、自転車をこいだり、何かの前にかなり苦労することに慣れっこになってしまっているというのがあると思います。旅に限らず今まで 23 年生きてきて記憶の範囲で心が動いた景色ではなく「体験」を順位付けすると以下のようになります(何とは言わないけれど可哀そうな人とか言わないでね)。

1. 2021/8 の下調べと 2021/9/1~2021/9/8 の旅が存在した前提での 2021/9/9、北海道函館市某山
 2. 2020~2021/8 に抱き続けた憧れを前提とした 2021/9/5、北海道岩内町樺桟内覆道
 3. 2023/2/12 北海道旭川市 3 年ぶりの旭川冬まつりで見た花火
 4. 2019/5/21~2022/7/7 のゲーム体験を前提とした Arcaea のターミナルソング、2022/7/14 「Last」
 5. 2017~2019/2/26 を前提とした 2019/3/10 大学の合格発表
 6. とあるブログを読んだ上で 2022/9/8 十勝三股
- その他、2022/9/11 あやめヶ原、同夜 根室市落石カジカの宿、2023/1/22 Re Aoharu (4th PV)
2023/3/12 雄冬岬のバス停野宿、2023/3/6 夜中の糠平→十勝三股徒歩→雪原での昼寝

現地では 4 番目に入れた枝折峠の雲海と 100km ウォークを完歩したことは残念ながら入れられるほどではありませんでした。旅の最中である 1 位の体験はしば抜けて感情を揺れ動かし景色を見ただけで心臓がドキドキしました。ただ、この 1 位の体験であっても前日までの長い旅と困難がなければ何も感じていなかつたのではないかと思います。共通するのは感動には過程が必要であるということ。その点では 2022 年 9 月の北海道自転車旅は全体的にかなり良かったけれどその記事を書き出すと 300 ページでは済まないでしょう。

正の感情に限って話をすると、旅で感動するには何が必要なのでしょうか。1 つ確実に必要なものが私のこれまでの体験から言えます：「お腹が満たされていること」です。私の場合これは本当で、お腹が空いていると意識が空腹に向かい感動するための何かしらのリソースが減ります。実際に挙げたランキングで空腹と眠気を感じていた時はありませんし、2 位の雷電トンネル迂回において後半はお腹が空いており楽しむ余裕がありませんでした。すぐに思いつく感動するために必要なもの：予想外なもの、感動する前にある程度の期間苦労していることぐらいでしょうか。1 位、3 位とその他のあやめヶ原、カジカの宿のみ前者の予想外なものという要素が絡んでおり、後者の苦労あるいは時間経過は 3 位を除く全てに共通しています。3 位の体験だけその場にポンと置かれて涙するような異色なものとなっています。

予想外は狙って引き起こすことはできないけれど確率は上げられるかもしれません。2022 年 9 月の北海道旅行では沢山の人と話すことを意識して 12 日の間で 60 人ほどと最低でも言葉を交わしました。上川のラーメン屋さんで麺を無料で増やしてもらい、その後会話が弾んで粗品として 2 階にあったタオルを貰ったりしたなあ。巷では人気のタウシュベツ川橋梁は夏、冬、冬の夜と見たけれど感情は平坦なままでした。もちろん良い空間なのは間違いないのですが。

写真

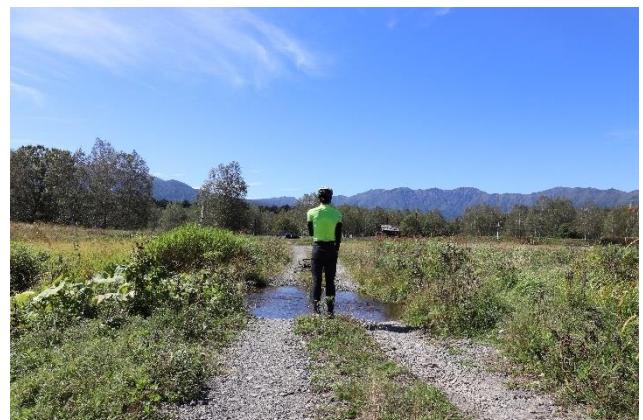
ごめんなさい、愚痴が始まります。

記事の大事な場所では景色という言葉を安易に使わないようにして空間や体験と書いています。例えば枝折峠の雲海は景色という平面的な写真をイメージさせるようなものではなく、少なくとも 3 次元の空間に存在しています。そして人間には視覚だけしかないのか？他の感覚器官もあるでしょと思うのです。枝折峠の 3°C という寒さ、昇って来た太陽により僅かに暖かくなる体、シャッター音と歩行音以外はしんと静まり返る空間、そして視覚が合わさっているから体験という言葉を選んで使っています。私は体験重視だと言いましたが視覚だけで勝負する写真家やフォトグラファーとはスタンスが違うし、それを SNS で映えるように自分の願望通り写真をこねくり回すのは、理解はしても決してやろうとは思いません。明らかにおかしい彩度の写真などがよく流れてきますが、これって目で見えないでしょ？といつも思っています。ついでにこの場で常々写真に対して思うことをもう 3 つ書きます。まず 1 点、クロスフィルターを使う時点でその写真はアートなのだと思います（当たり前だけどアートを否定するわけじゃない、私がしないだけ）。あんな点光源にバツ印を入れるものなんて目に見えないものの極端な例でしょう。もう 1 点は星空写真について、「見えねえよ、そんな空は」。あなたは本当に綺麗な星空を知らないんだと言われるかもしれませんし実際その可能性は十分にあります。今まで見た中で抜けて綺麗だったのは 2023 年 2 月の全く雲がないある日、北海道上士幌町の糠平から数キロ北に車を走らせた完全無人地帯、そして凍結した糠平湖から見る氷点下 18°C の空でした。あれは自分の価値観が変わったけれど、例えば山などで見る星空もマックスこの程度でしょ？と思います。星は気温が低いほど綺麗に見えると聞きますが、仮に山に登ったとして氷点下 18°C で撮影する人がどれだけいるか。また脱線、糠平湖には 2 人で行ったけれど記憶に残すことを重視した私は敢えてカメラを持って行かないことを選択しました。結果として撮影しようとしていた連れてきてくださった方と違い糠平湖で仰向けになった私は流れ星を 3 つも見ることができました。最後は、写真は写真だけで存在しないで欲しいということ。ある意味では「写真にはメッセージがあって欲しい」、別の意味では「写真には記憶が結びついていることを忘れない」という解釈を自分の言葉でありながら私はします。まず前者の解釈について例を出しましょう。左の写真は役目を終えて打ち棄てられた道路が人知れず荒波に侵されて少しづつ壊されていく様を捉えたものです。こんな可哀そうな道路が存在することを伝えたかった、そして自然の猛威を伝えたかった。右は最盛期に 1,500 人が住んだものの今では 2 世帯が暮らすのみである地で撮った写真です。（続く）

2022/9/6 12:45



2022/9/8 12:25



ここには学校があった、鉄道の終着駅だった、こんなにも昔から比べて変わってしまったのだというただの事実を伝えたかった、虚飾の観光地より手つかずの自然が美しいことを伝えたかった。

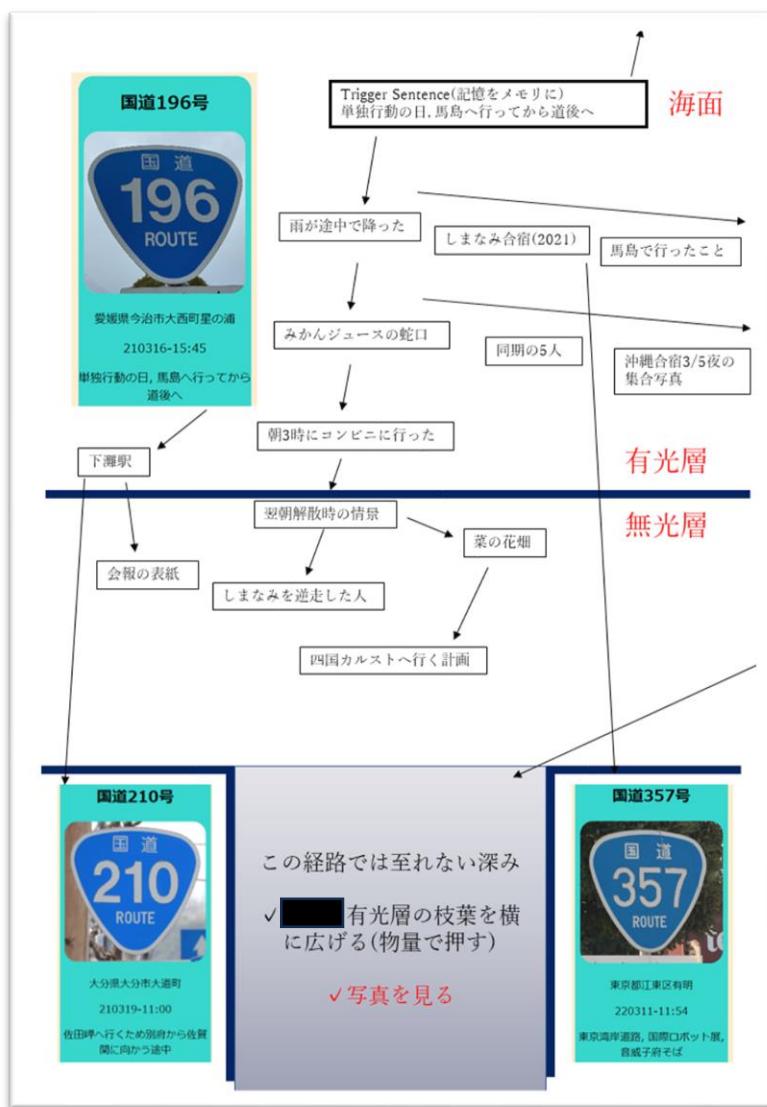
記憶と記録

先ほどの話の続きで、前者についてはこのぐらいで説明は十分でしょう。それではメッセージがない場合に撮る写真を私はどう捉えているか。それは「記録」であり、なぜ写真を撮るのかという問い合わせが絡んできます。北海道が好きで毎年行っているのですが、2021年9月の旅では5,000枚、2022年9月にも4,000枚、2023年2月～3月には9,000枚を、大部分は記録のため撮影しました。写真を撮ることで目の前に見えているものを記録する他、撮影時刻と位置情報を記録することも目的としています。今時HDDなどもありますし静止画に限るなら個人が撮る量に容量的な制約はなく無限に撮れると思います。スマホで撮ったJPG写真が1枚3MBだとすると千枚撮れば3GB、百万枚撮っても3TBで個人でもギリギリ管理できる量でしょう。

記録することできるようになることもあります。以下は科学的根拠に基づく話ではなく私の想像の中の話です。私は人間の記憶というものに対して海底から海面そして空までを含めた「記憶=海」のイメージを持っています。例えば今日の晩御飯に自炊してカレーを作ったとして食べ終わった直後には晩御飯が何だったのか覚えているでしょう。ここで今日の晩御飯という記憶が形成され、海面に漂っています。今日は眠って明日の晩には昨日の晩御飯に何を食べたのか覚えている人が多いでしょうが思い出せない人もいます。果たして3日後に3日前の晩御飯を覚えているのでしょうか？私のイメージでは記憶という小さな箱が海の中で浮力より大きな重力に従って遍く沈むものだとすると、時間経過と共にカレーを食べたという記憶の箱は海の底へと沈んで行きます。1週間も経つと海面からは光が届かないところまで沈んでしまい、これが思い出せない=海面に引き上げられないという状態だと考えています。一記憶は単独で存在しているのではなく人間が睡眠をしている間に整理されているとは聞きますが、新たに海へ投下された記憶の箱が沈んで行く中、既に海中にある過去の記憶と結び付けられて記憶間にパスが形成され複雑なグラフ構造を取っていると想像しています。海の底へと記憶は沈んで行きますがある所で沈下が止まるでしょう。何気ない晩御飯の記憶はかなり深いところまで沈みますが、北海道で旅行したとして最後にジンギスカンを食べたのだとしたらその記憶は1年ぐらい経っても覚えているはずで、海面から取り出しやすい比較的浅い位置に漂っているでしょう。記憶の海には数々の一記憶がそれぞれ異なった深さを漂い、お互いは決して独立せず紐のようなもので複雑に接続されているのです。ある記憶を思い出すと同時に別の記憶が思い出されることがあります、紐で繋がっていたためだと考えれば分かりやすいでしょう。辛いものであれ楽しいものであれ決して忘れないような記憶は逆に空を星となって漂っているというイメージを持っています。さて、本題の写真により記録することの意味です。容易に想像することができるものは、記憶がどのような位置に沈んでいたとしてもその記憶を写真として残していくのなら即座に思い出す=海面へ持ってくることができることで手を離すとまたある位置、前より少し浅い位置へと沈んで行きます。また、先述の通り記憶は紐で繋がっている別の記憶をも呼び起こすることができます。記憶と記憶を繋ぐ紐の太さにも違いがあり、関連の強い記憶からそうでないものまであります。私は他人より記憶容量、記憶を書き込む速度、記憶を取り出せる速度と深さ、特殊能力に優れないと自覚しています。特殊能力について例を話すと、友人たちと旅行に行った時○○駅に居たのが12時

40分頃だと何も考えずとも話題になると頭の中に浮かんでくるのですよね。覚えようと思って覚える記憶の他に、対象は選択できないものの意識せずに覚えて勝手に現れる記憶もあります。他にも友達が別の友達と出かけた日が去年の12月16日だとぼんやり頭に浮かぶこともありました。このように昔から記憶について考える機会があり記憶することに対しては少し思うところがあります。記録をしなければ目の前の事象(晩御飯であれ何であれ)が今後脳内に浮かぶことは未来永劫ないのだと考えるといついつい写真を撮ってしまうのですよ。写真だけを格納するならHDD容量は無制限みたいなものなのだし。例えば、少なくともこの2年口にしたものは99%以上写真に収めていると思います。私は今後も記録手であり続けるでしょう。

また別の話として、私は国道標識(逆三角形の青いやつ)を撮影することを趣味としており、2023年11月現在では国道459本中203本の標識を撮影しています。撮る理由は2つで、片方は単純にデザインとフォントが好きだし番号が付いていて無謀とは思えない数だから集めたくなるというものです。もう1つは記憶と記憶の繋がり(パス)を増やしてくれるからです。下の図は1年前に47ページ33,000語書いて



頓挫している北海道記事から引き抜いたものです。ある記憶はトリガーがあって思い出すということを言いたいのです。国道標識をHPのHTMLに埋め込む際、写真と一緒に何か1文添えるようにしています。これをTrigger Sentenceと呼称すると、この文がある時間が経つてから読むことで思い出す記憶があるので。例として乱数で決めた国道196号で話をすると、図に示す通り最初の文から記憶の箱へとパスを伝って芋づる式に記憶が掘り起こされます。有光層とは海中で太陽光が届く範囲という意味の語ですがこの場合は何もしなくても今思い出すことができる層という意味です。有光層の深いところにアクセスすることで場合によっては無光層(今現在写真などの補助なしに思い出せない記憶)へと手が届くかもしれません。国道196号を四国で撮った後は船で九州に渡り国道210号を撮影しました。国道は別の国道と関連し、別の国道のTrigger Sentenceを起点として新たな記憶が掘り起こされます。

次の2ページでは頓挫した北海道記事の1、2ページ目をそのまま引っ張ってきて供養します。

「Last」

2022/9/3~2022/9/13

9/8 十勝三股



記憶と記録

「こういうとけずに残った雪を　　って言う。古い雪がとけずに残ってどんどん上に積み重なっていくんだ。」（9/11 根室市落石）

記憶が消えていく……、否。

情景が記憶の海の中、深いところに沈んでいく。

もはや海の底から引き上げることのできない記憶があれば、適切なトリガーを元に浮かび上がってくる記憶もあり、星となって空を漂っている輝く記憶もある。

2022年10月11日0時10分



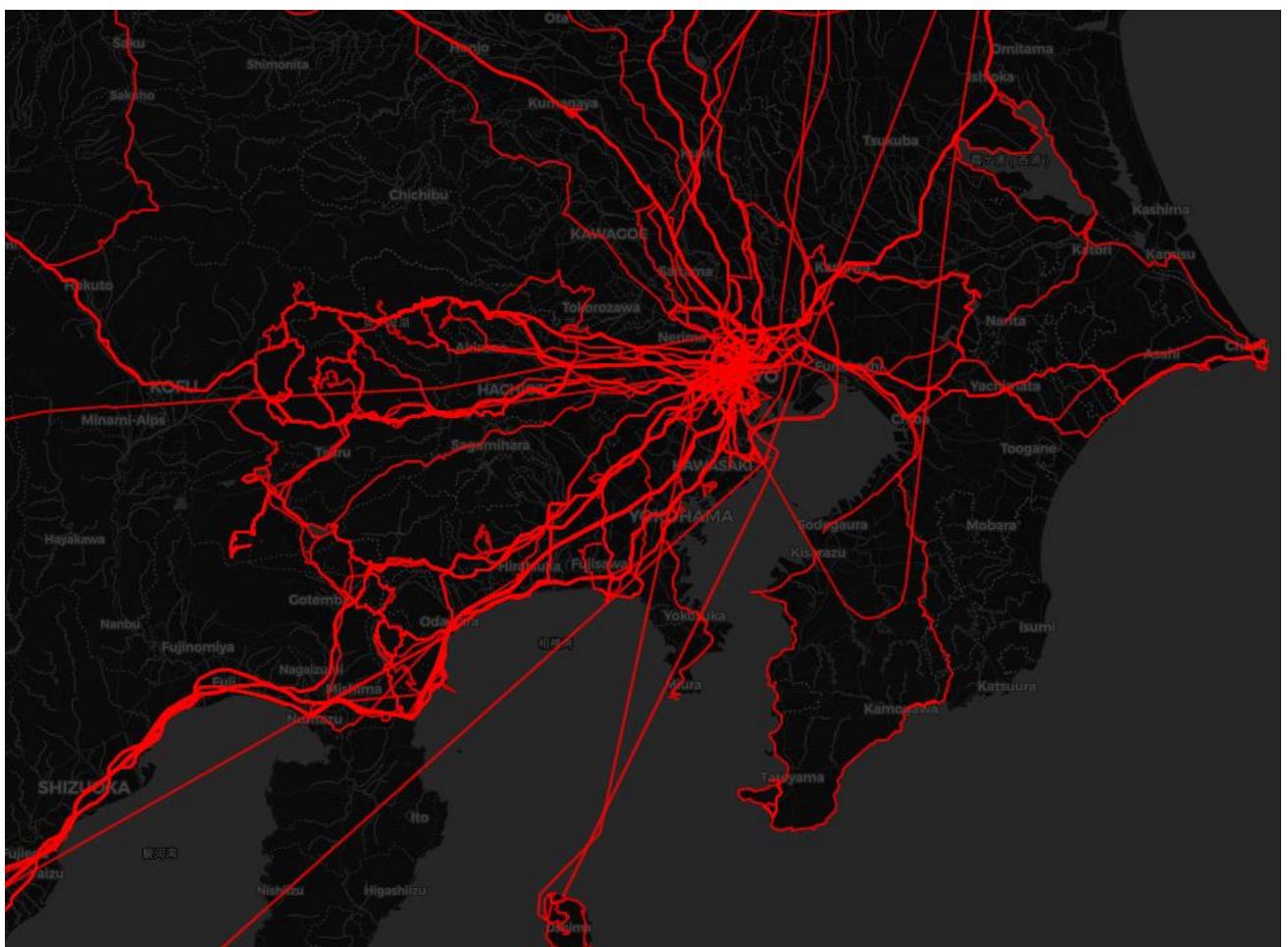
今回の記事について

今回の記事は 50 ページになると想定していたところ現時点で 100 ページとなっています。従来から余白も削ったのになんで！？もっと簡潔に書きたかったのですが、今回私が記事を通して記録したかったのは「10月 28 日～11月 4 日」という 1 週間の忙しさ、ハードさでした。それを記録するために背景から何から何まで記述することになりページ数が膨れ上がってしまいました。まあ私のする旅がコンテンツに溢れているというのも一因でしょう。この先 Ex1 や Ex2 では長くなりすぎないように注意して書いてみます。（こんなに細かく書いていたらいくら時間があっても足りねーよ！！2021 年 9 月の北海道記事は 610 ページの 18 万語超になってしまったし。）

旅の交通手段

記事の冒頭において旅の交通手段って色々ありますよね？という文言を書きました。この記事では徒歩、自転車、鉄道、車の 4 つの交通手段を使った旅について記述しました(Ex1 明神祭と Ex2 只見も含めて)。下のは自分の言葉なのですが気に入っています。

車で行けば 2 点が描かれる。自転車なら 2 点を結ぶ線になる。徒歩なら太線で描かれる。



その土地の本当を知りたければ自転車でもスピードが速すぎるので。結局のところ徒歩でないとしっかりその土地を見られないし、会話も生まれにくいのです。

話を奥只見編へ戻して……

切符の返金を諦めた私は輪行解除して家へ帰ったのでした。今日輪行と輪行解除しすぎじゃない？

2023/11/5 1:51 就寝

時計が……？

気付いてしまいました。時計おかしくない？？



現在 11 月 5 日の 16 時 41 分であるはずなのに時計は 1 日進んだ 11 月 6 日 16 時 41 分を示しています。つまり昨日駅の窓口で見ていた時計は 1 日進んでいたわけで返金できたやんか！スマホの時計を見たら気付いたのかもしれないけれど、いや自分の性格的に 5 分のズレぐらいなら気付けるけれどここまで派手にズレていたら逆に気付かないわ！人間が悪いにせよ 1 日ズレうる時計ってそれどうなのよ(責任転嫁)。

過去の写真を見てみると 11/4 の朝に始発只見線で撮った時計はズれている、11/3 の夜に小出駅まで輪行してきた時点でもズれている、山手線を一周した 10/19 時点ではズれていない。私ほど頻繁に記録しているとここまで分かるのですよ(たまにこういう形で写真が役に立つ、忘れ物など)。

遊んではばかりいられず帰って来た翌日は研究室へ。

化学実験



濃いグレープサイダーという名の毒沢鉱泉で汲んできたイオンたっぷりの透明な水が冷蔵庫で冷えていたのでネットで読んだ実験をすることにしました。

1. お茶 + 毒沢鉱泉

なんと黒色になりました。飲んでみるとレモン水を水で薄めたような感じ。化学に関しては素人なのですが、お茶に含まれるタンニンと源泉に含まれる鉄(II)イオンが酸性条件下(pH2)で反応してタンニン鉄を作ったと考えます。



2. 三ツ矢サイダー + 毒沢鉱泉

写真はありませんが透明と透明を混ぜると黄色になりました。三ツ矢サイダーのクエン酸と鉄(II)イオンが反応してクエン酸鉄を作ったみたい。クエン酸は3価の弱酸(カルボキシ基が3つらしいけどどういう反応機構なのでしょう。よく分からぬけれど水素が発生していたりする……?)

次で最後。Next : 国道 352 号とかいう化け物みたいなスペックを持った道路

国道 352 号とかいう化け物みたいなスペックを持った道路

この区間を自転車で走りたい貴方に(経験豊富な人向けではありません)。

正確には国道 352 号の小出～檜枝岐は素晴らしい道でした。緑の季節を映しているストリートビューで道を軽く辿ってみましたが惹かれる要素は特にありませんでした。まあ樹海ラインという名前を感じられるのと季節によっては洗い越しの水が増えていて楽しいかも？ここでは秋が一番心に響くと思うので秋に走るという前提を置きます。紅葉というのは年によって異なる色づき度合い(自然の機嫌)、光の当たり方、訪れるタイミング(色づき始めか真ん中か晩秋か)によって目での見え方が異なるものです。そしてこの道路の難しいのは、標高 200m から 1,530m という大きな標高差を上ったり下りたりするのでどの標高に焦点を当てるかという問題があります。まあここまで考える人はあまりいないかも？実際どこに行っても紅葉が残っている場所も散っている場所もありましたし、自然を読むというのは難しいことですから。まあ、色々書いたけれど天気とタイミングだけ選んで適当に走るだけで十分綺麗なものを見られると思います。天気は雨でなければ良いと思う。個人的にタイミングは晩秋がおすすめ(それしか行っていませんが)。一面緋色に染まる東ノ城と「凄い所」の壁面には圧倒されるでしょう。色づき具合は Twitter を見れば大体毎日誰かは行っているだろうから分かります。小出と檜枝岐のどちらから走るかですが、これまた個人的には小出から走る事を勧めます。新潟一福島県境から檜枝岐までの道は眺望もあまり開けず魅力を感じなかったのでいつ走っても良い、極端な話夜走っても良い(嫌だけど)。素晴らしい空間は県境以西に詰まっていると考えており、これは私が書いてきた記事を読めば多少なりとも伝わるでしょう。東側の区間も悪くはないのだけど奥多摩で見るような景色とあまり変わらない気がしました(相手が西側というのが悪い)。小出から走ることで枝折峠終盤には対岸に朝日に当たり綺麗に紅葉が見られるし、枝折峠を朝通ることで運が良ければ雲海と滝雲が見られます。ついでに雲海へ自転車で突っ込むこともでき銀山平まで+しばらくは幻想的な雲の中を走行できるでしょう。運が良ければ気温が上がってきても数分前まで視界を覆っていた雲が気持ち良いぐらい綺麗さっぱり無くなり紅葉を楽しむ時間が始まります。更に牛ノクソ沢と「凄い所」を午前に通過することで対岸へ正面から光が当たり綺麗です。うん、丸っこり私の体験だけど今回上手く行き過ぎたわ！小出駅周辺に宿は少ないので早めに予約するのと、檜枝岐には宿をとっておくことを強く勧めます。駅のある只見まで 60km もあるという理由もあるけれど、何より檜枝岐に泊まるのが楽しそうだから。そばに郷土の珍味に温泉に紅葉に、私も本当は泊まりたかったです。時間があるのなら Ex2 で紹介する近くの温泉たちも堪能して欲しい。

その他推奨事項について。別に偉そうに語るつもりはないのですが私のように単独で行くのならそれなりの自転車・旅(自転車旅ではない)経験を有しているべきでしょう。最近サークルランで上のやつが無く心配なので書きますが小出から檜枝岐まで山岳区間で 100km があるので多少のヒルクライム経験(速度はいらない)は必要ですしぱんぐ修理ぐらいてきて当然(タイヤの内側を指で触って確認すること)ですが、個人的には走力より判断力や先の見通しを持つこと、計画性の方が大事だと思います。万一補給ポイントが最初から最後まで無いとしてその補給で足りるのか、トイレはあるのか、道半ばで走行できなくなった時のリカバリーなど。あまり関係ないかもしれないけれど宿のチェックインに遅れる時に連絡を入れるのは論外です。色々と楽ではありませんが、ぜひ奥只見に行ってください。

第3部 奥只見編 完結

2023/11/19 22:18 11/20 4:29 奥只見書き終わった————！！！！！！！！

11/12: 2023 明神祭 (自転車 90km 2,300mUP)

10/28～10/29：鶴ヶ島 100km ウォーク

10/31～11/1：諏訪、伊那

11/2～11/4：奥只見

と来まして

11/8～11/9：出張@福島

11/12：明神祭

11/13：研究発表

なんでこんなことになってるの？11/5～11/7 は研究をやって 11/8～11/9 と福島に出張に行き、11/10～11/11 は研究をやり時刻は 11/11 の 15 時半になりました。

正直研究の進みが悪く 11/13 の研究発表に向けて準備時間を少しでも取りたい、しかし明神祭もまた年に一度普段会えない人と会えるイベントです。参加申し込みフォームには真っ先に記入したものの、参加するか否か悩んでいました。でも RI さんと IMSR さんが珍しくいるから行くことにしました。後ることは後の自分が何とかしてくれるでしょう……。

4 時間半睡眠で早朝に起床しました。明神祭について面白いエピソードが 1 つ、今回で明神祭に参加するのは 4 回目なのですが、集合場所の熱海までの行き方は以下の通りでした(ついでに今年のも)。

2019 明神祭 216.5km 4,502mUP

Route : 湯河原—椿ライン—箱根—箱根旧道—箱根湯本—箱根新道—乙女峠—明神・三国峠—山中湖

集合 : 湯河原まで 100km 自走、AM3:02 出走

2020 明神祭 勉強が忙しく不参加

2021 明神祭 208.5km 3,724mUP

Route : 热海—热海峠—箱根—仙石原—金時峠—足柄峠—骏河小山—明神・三国峠—山中湖

集合 : 热海まで 115km 自走、PM11:59 出走

2022 明神祭 313.2km 4,257mUP

Route : 热海—热海峠—箱根—仙石原—金時峠—足柄峠—骏河小山—明神・三国峠—山中湖—橋本一本郷

集合 : 热海まで 125km 自走、PM11:57 出走

2023 明神祭 91.8km 2,351mUP

Route : 热海—热海峠—箱根—仙石原—長尾峠—骏河小山—明神・三国峠—骏河小山

集合 : 輪行、AM8:27 出走

今回初めて熱海まで輪行をしたのですが、これまで明神祭で行きに輪行することを考えたことすらなかったようで「最寄りから始発で行っても熱海の集合に間に合わない」ことが判明しました。自転車に空気を入れて油をさし間に合う所まで走りました。朝ごはんに車内でおにぎりを 3 つ食べてあとは睡眠確保のため寝ていました。

8:26 热海駅集合



今回はOB6名現役1名と高齢化を感じましたね(現役で他に2人ほど申し込みを貰っていたそうですが、体調が悪かったり忙しかったりしたそう)。駅前で結構話してダラダラしてしまいましたが8:27出走。今回は早く家に帰りましたので場合によっては一人で先に行くことも視野に入れていきました。コースとしては明神・三国峠を越えて山中湖に降りてから籠坂峠を上って御殿場まで下るというのを考えていました。籠坂は山中湖側からだと100mUPで済みますし富士山駅、大月駅は遠いし高いので。

9:02 イノシシが死んでいる



熱海峠を上っている最中道路脇にイノシシが死んでいました。気付かなかった方も意外といったみたい。ログで見るだけの存在だったIMSRさんは序盤で皆を抜いて見えなくなつて凄いなと感心しました。私はというと……。

「左膝が痛い」(何回目やねん)

奥只見から日は開いていたので治ったものだと思い込んでいました。ただ、まだ常時発生するレベルの痛みだったので大丈夫かと自分のペースで進みました。実際、例年より良いペースで上れて前半の急勾配区間もイノシシの地

点を除いて足つきなし、後半も痛みを抱えながら十国峠レストハウスに到着しました。當時発生の軽い痛みなら良かったものの、途中での「悶絶する痛み」が発生し、これは終わったな、完走は無理だなど悟りました。9:36 十国峠レストハウス

熱海峠から箱根峠はダラダラ上り坂が続いて好きではありません。既に時たま襲い掛かる激しい方の膝の痛みが発生している以上左足はあまり使えません。以後、右足で踏んで左足には極力力をかけない右足スタイルで平地も上りも走りました。10:21 箱根峠

10:48 いつもの芦ノ湖セブン 膝が！痛い！ストレッチをしてみますが全く効果はなく……。心配して頂きましたがここで停まるわけには行かずどこかしらの駅に行かねばなりません。もうこの足で足柄峠は絶対上れないなど理解していたので迂回ルートとして上りがまだマシそうな長尾峠へ行き長尾祭を開催しようと主張していました。それでもダメだったら乙女峠越えの乙女祭を開催しようと。だって足柄峠はかなり斜度きついし上っている途中に眺望が全くなく単純に面白くないし飽きたという理由もありました。補給でおでんを食べている人が2名ほどいて面白かったです。



12:27 仙石原 痛くて悶絶することも

何とか仙石原までは辿り着きましたが道中とても前には着いて行けず、痛い痛いとボソボソ呟きながら自分のペースで走りました。やっぱり足柄峠は絶対に無理だし普通に行きたくない。それよりはここで足を致命的に壊すことを避けたら明神・三国峠に上れる可能性があるのでないかと考えました。ここまで来たらやはり上りたい。

12:50 長尾峠と乙女峠の分岐

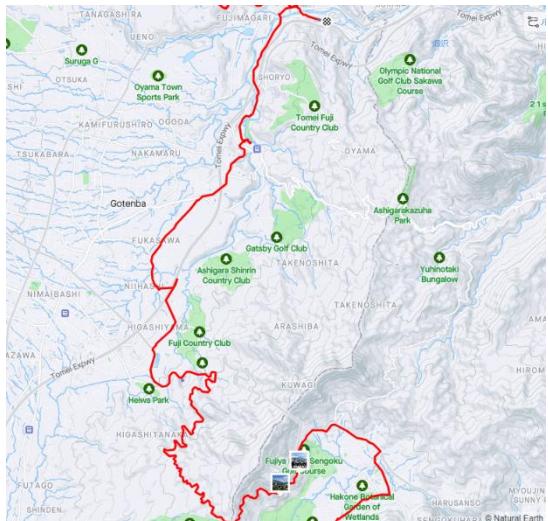


金時峠(箱根金太郎ライン)方面へと曲がる本体から離れて体力的に厳しかった私と RI さんは長尾峠へ行くことにしました。2019 年後閑杯で集合の際に通ろうと思ったのですが通行止めになつており乙女峠を通つたので今回が初めてです。そして、この長尾峠という選択は大正解でした。上つているのか分からぬような緩い斜度が続き、急斜面だからか視界を遮る木もなく景色もとても良いものでした。



これには RI さんもご満悦。仙石原を上から眺められるとは知らなかつたし、仙石原、大涌谷、芦ノ湖が同時に見渡せる場所があるとは驚きです。それにゴルフ場を上から眺めると面白いことを知りました(木の植えられ方が面白く北海道と言われても信じるかも、美瑛にありそうな景色)。天気予報では曇りだったのですが、丁度この長尾峠にいる時だけ雲が晴ってくれたのも良かったです。これには膝の痛みも吹っ飛ぶわけないだろうが。視点を高くしようと法面に上るも植物の棘に阻まれ撤退、痛いよ。

頂上の眺望は視界が藪に阻まれて微妙です。10分ほど登山すれば展望スポットらしきものがあったようですが、階段を数段上ってこの足じゃ無理だと理解したので引き返し、長尾隧道を通ってダウンヒルしました。駿河小山側にも展望スポットがありましたが富士山は完全に雲に覆われてしまい何も見えませんでした。



長尾峠は明神祭の迂回コースとして優秀

本来設定されているコースを外れるのは明神祭の趣旨(いっぱい上ること?)に反する気もしますが、迂回コースは持っていて損はないでしょう。長尾峠の箱根側はほとんど上らず景色が良いという幸せなコースであり、金時峠分岐から長尾峠を通って駿河小山のセブンまでは 26km ありますが峠以降はずっと下りまたは平坦となっています。例えば足がしんどいけれど明神には行きたいという人がいれば長尾峠に行けば良いのです。今回痛みで走るのが遅い私であっても足柄峠組との到着時間差は 3 分程度でした。



← 民度が低い(笑)

去年は7人中3人しか山中湖に着けませんでしたが今年は7人中7人がこの時点で生き残っており私が脱落最有力候補でした。まあここまで来たのだから致命的に体を壊さない+迷惑をかけない範囲でチャレンジはするけれどヤバくなったらいつでも下って駿河小山から輸行しようと考えていました。

セブンから明神入り口までは 5.7km の 200mUP と平均すれば 3.5% ですが半分ぐらいは平坦なので、いや 7% やん。痛みを最小限に抑えるためここでも右足で上ります。

15:16 明神峠入口～ちょっと待ってくれ！～



15:55 年に一度はこれを見なきやね！



ひたすらに自分のペース。ひたすらに自分との戦い。ひたすらに左膝のご機嫌取り。

早々に単独走行になりましたが、無理のないペースを守ると 10%超えの斜度でも上れるみたい。ある高さにあると思われる閾値を越えない範囲で左足の出力を調整すると激しい痛みは発生しないような気がしました。当然普段通りに左右均等に出力すればそれは閾値オーバーで自転車を降りることになったでしょう。いつも通り残り距離が 1km 減る時間が長くて辛いですが我慢我慢。10%、14%、16%を連発されながら何とかドーナツ坂まで辿り着きました。ドーナツを抜けば一瞬勾配が緩む(といっても 8%ぐらいはある?)ので足つきなしで頑張りましたが、蛇行したとしても出力を絞って上れる坂じゃなかった。最後は歩いていつも通り 18%に標識と自転車を撮影します。ドーナツを越えたとて残り距離は 3.2km と半分以上残っています。まあ神奈川県境からはしばらく平坦(本当?)で無いようなものだから半分は切っているか。



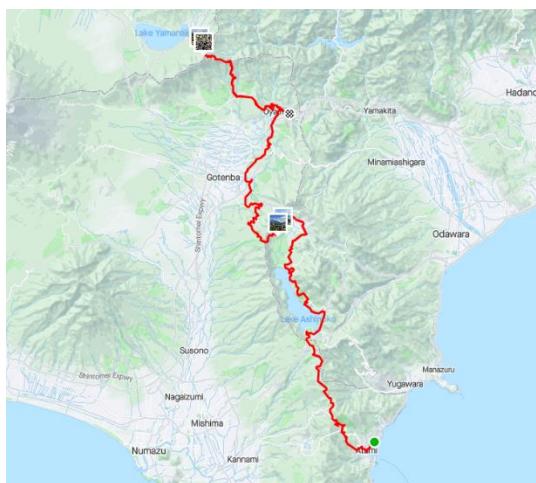
16:31 三国峠到着！！

熱海駅時点で三国峠へ辿り着けないと悟ってしまった中、ほぼ右足だけでここまで来れたので「やったー！！！」などと叫んでしまいました。嬉しかった。神奈川県境手前なんか斜度が厳しすぎて右足を踏んで力をかけない左足を動かし右足が再度上に来るまでに速度が 0 になるというのを繰り返しながら上っていてしんどかったです。

17:01 これでシーズンオフにできるってもんです



頂上はとても寒くて寒さに弱い私はウルトラライトダウンが無ければ我慢できずに一人で下っていたかもしれません。今気温を見たら三国峠氷点下 3°Cだし、この時でも 10°Cぐらいだったかな。風も吹くから体感気温はもう少し低かっただろうね。橋本までの完走は去年行っているし、個人的にはパノラマ台の景色さえ見られれば完走で良いと思っているのでさっさと最寄りの駅まで行きます。結局、籠坂へ行く足は残っていないし一刻も早く列車で温まりたかったからパノラマ台から三国峠へ上り返して駿河小山まで来た道を引き返すことにしました。明神のダウンヒルはこれが初めてでしたが、かなり怖かったです。例年より 1 週間以上開催の遅い明神祭でかつパノラマ台到着時刻も遅めだったので真っ暗だったし斜度はあまりにきつい。ドーナツ坂の 18%は他の区間より明らかに急に感じて前転しないように体を後ろ目にしていました。上りでは前輪が何度も浮いて後転しそうになるし下りでは前転しそうになるとんでもないドーナツ坂でした。私は慎重なので本気で左右から鹿が飛び出してくる可能性を考慮してスピードは抑えめで走りました。何とか無事に下れてゲータッチ。



走行ログは左図の通りでした。明神祭は 1 年に 1 度珍しい人と会える素敵なイベントだと思うのですが、4 回も参加するとコースの方に飽きが来てしまう……、なんてことはなく不思議と何回走っても良いなと思うのは山梨県に踏み入れた時と山中湖パノラマ台に立った時の達成感からでしょうか。都合が合うなら今後も参加したいと思いますが、開催されるであろう文化の日付近は奥只見に行きたい……。あの朽ちかけもしくは朽ちる直前の輝きを見てしまうとね……。今回初めて行ったけれど雲海に急に晴れる雲に日の当たり方にタイミングにかなり運が良かったのではないか。

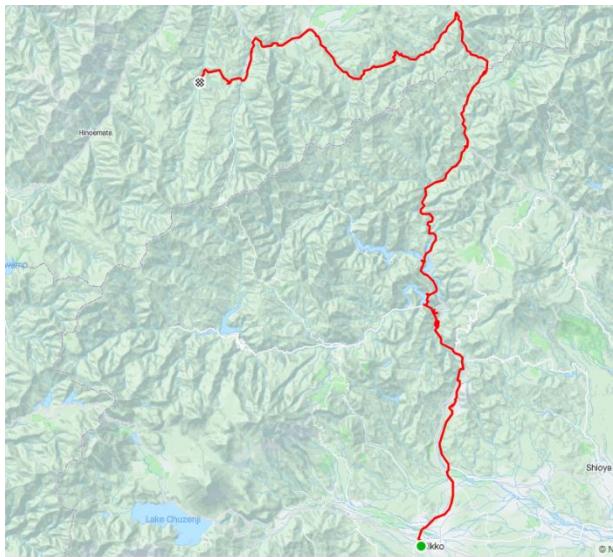
場所余っちゃったので檜枝岐の紅葉



ここからは説明少なめでお送りします。早く終わらせて寝たい。

5/12: 南会津の温泉（自転車 245km 3,948mUP, 車 130km）

時は 2023 年 5 月、福島県と新潟県でチャリ旅をして来ました。この旅行の目的は「温泉」でした。この旅をしようと思った最初の理由は秘境「檜枝岐村」に行ってみたいと思ったことです。檜枝岐の付近には渋い温泉がいくつかあることが分かったので温泉をコンセプトとした旅を作ることとしました。



移動手段によって旅を 3 パートに分けられるのですが、最初のパートは自転車で、日光周辺から北上し鬼怒川温泉を通り過ぎる国道 121 号を通り、会津高原尾瀬口駅の辺りで進路を西にとり奥只見でお世話になった国道 352 号で木賊温泉まで行きます。日光は何回か行っていても日光以北は自転車で行ったことがありませんでした。

夜なんだけどね。

最近やりがちな始発輪行では時間が遅い故の終電輪行を行い夜通し走るという計画でした。おかげでこの後苦しむ羽目に……。

5/11 22:49 終電で今市駅まで輪行



23:41 鬼怒川温泉 温泉は入れないけれど



日光以北の国道 121 号沿いは鬼怒川温泉を過ぎると完全に山中の道になり鹿が飛び出してくれるようなどもあります。今回のコースではラストコンビニが鬼怒川のローソンであり会津高原尾瀬口まで行ってもコンビニは現れず 60km 先のヤマザキショップ南会津館岩店でようやくコンビニが現れます。

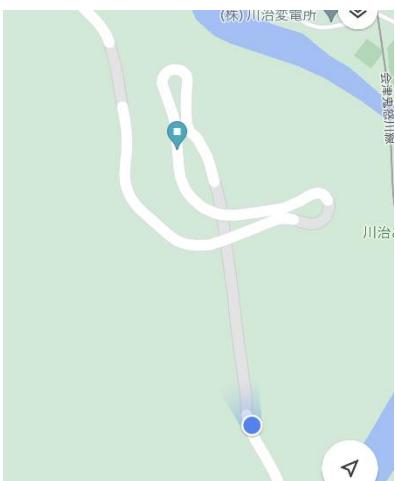
この旅における最大の失敗は気温を読み違え、「[手袋を間違えたこと](#)」でした。後述しますが、5 月に寒いというイメージが無かったためまあ良いかと指ぬきグローブを持ってきてしまったのです。

鬼怒川温泉に入りたかったけれど午前 0 時の真夜中に入れる湯などないのでスルー。廃墟群があるのは知っていて暗闇に目を凝らしてけれどよく分かりませんでした。泊まったことのある星の屋という旅館があった位置も探したけど、こちらもまた分かりませんでした。この日は「8湯」に入ろうと思っていましたが果たして何湯入れるのか！

0:42 真夜中の小網ダムは下が何も見えず怖いです

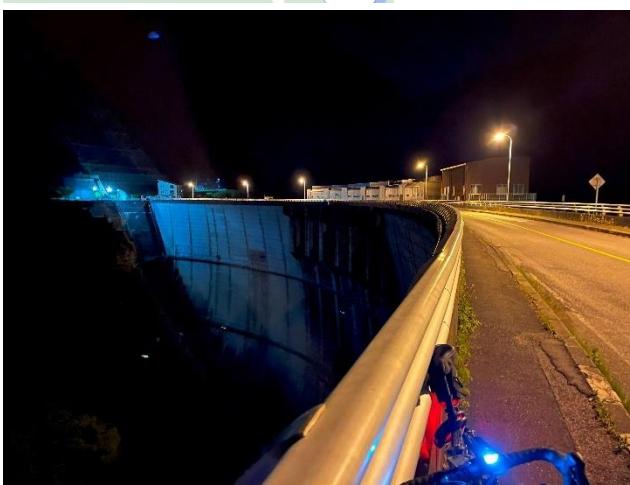


0:55 急カーブの川治第二トンネル

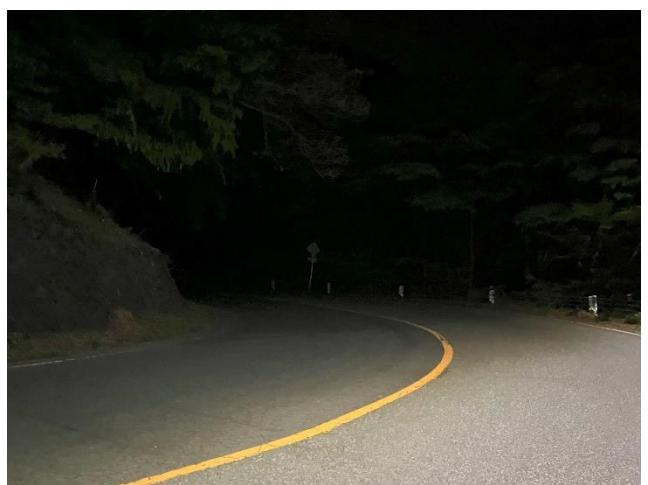


鬼怒川温泉を過ぎると街灯も減っていよいよ山の中へ、本当に道が暗いですが交通量がほとんどないのが嬉しいです。鬼怒川、新藤原と過ぎて川治温泉に着きましたが、寄り道で真夜中の川治ダムへ行くことにしました。左図は道中に撮ったスクショですが、九十九折の変則版みたいな凄い線形ですね。国道でもないから道は更に暗いです。川治第一、第二、第三トンネルを通りますが、奇妙なことに一般的に暗いイメージのあるトンネルの方が道路より明るいのです。何か不思議な感じがする。

1:04 川治ダム



1:08 事件が発生



川治ダムから過ぎた場所のことです。左側にダム湖を見て走っていると右側の斜面上方からガサガサと音がします。姿の見えない野生生物に恐怖していたら次の瞬間、道路に石が落ちてきました！！かなり恐怖を感じました。動物は多分鹿で、石には当たらなくて良かったです(面白いヒヤリハット)。

どれぐらい暗いってこれぐらい。下の光は湖面に反射しているだけで、奇妙なことにトンネルの中だけが明るいのです。まあおかげで星はよく見えたけれど。(1:20)



1:29 湯西川温泉駅に到着

本当はここで国道から逸れて湯西川温泉金井旅館薬研の湯という川の横にあって橋から丸見えな湯に浸かりたかった(深夜に出歩いている人はいないでしょう)のですが時間が押していたためスルーして更に北上します。

自転車で夜間に走った者として言いますが、**国道 121 号の日光以北を暗い時間に走るのは本当にやめた方が良い**。自転車の速度なら避けられても車やバイクでは無理でしょう。

国道 121 号で最も鹿が飛び出してくれるのは湯西川温泉駅～中三依温泉～上三依塩原温泉口の 3 駅分の区間だと感じました。街灯のない真っ暗な道を走っていたら右からは鹿に見られて驚いたし、左からは鳴き声が聞こえて停まつたし。Twitter で「国道 121 号鹿」と調べれば他の人の声も出てきます。上三依塩原温泉口で国道 400 号が合流するのですが、ここからは 1 匹の気配も感じませんでした。トラックを主として那須塩原方面からの車で交通量が増えるのが関係しているのかな。



ところで 5 月で 2°C って何ですか、寒いんですけど。

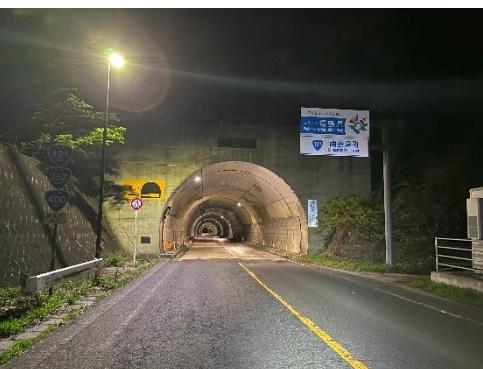
特に指がやばい。

←地味に星が写っている



2:29 R121—R352—R400 の三連おにぎり

全国でも数少ない三連おにぎりで記念撮影、本当は標識のバックに星が沢山浮かんでいるのですが撮れませんでした。



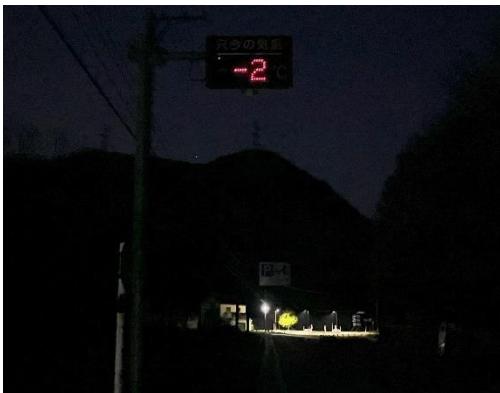
2:59 栃木一福島県境のトンネル
トンネルに書いてあったのですが
この地点が日本列島の分水嶺であり
水が日本海と太平洋に注がれる
そうです。峠というのもあり、標高
832m と結構高いところへやつ
てきました。



3:07 気温氷点下 1°C

流石に 5 月でこれはヤバいって、おかしいやろ。
こちとら指ぬきグローブを着用して素肌(指の先)で風を切っている
といふに。気象庁のページで調べてみるとこれから行く
檜枝岐の平均最低気温は 5/12 で 5.0°C なのに -1°C ってどれだけ
下振れを引いてるんだよ。普通にこいでいるだけでは足の指が
動かず足の方もどんどん冷やされるので意識的に動かします。
ダウンヒルが辛かったですが青看板に初めて檜枝岐と見た時
は一瞬だけワクワクしました。やばい全指が冷たすぎる。

3:20 木賊温泉まで残り 36km



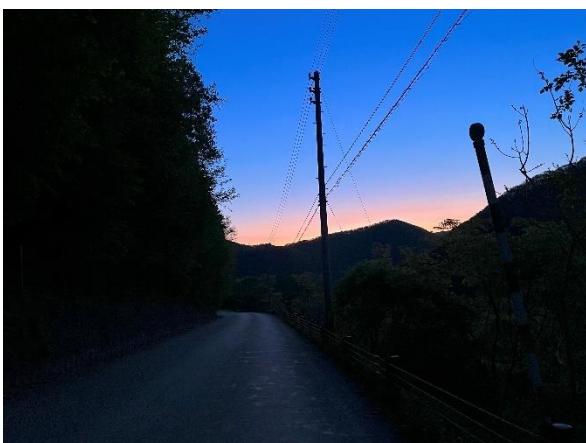
3:37 気温氷点下 2°C

なんで、なんで下がるの。痛いよ……！

国道 352 号に入ると最初に 320mUP を強いられ標高が上がる
し日の出の時刻に近付いているので気温が下がるのは自然な
のですが、そんな理屈はいらない。いたいんだよっ……。
コンビニからも随分と走ってエネルギー不足のため足つきを
しながらも何とか頂上へ着きました。

4:08

4:10 標高 1,000m の中山トンネル



4:35

凍結
-3°C

いたい……
手も足もいだいよ
風がいたいよ



気温(°C)	体感温度(°C)
-3	-23

奥只見の膝みたいに「痛い痛い痛い！」ではなく噛みしめるように「いたい……、いだいよ……」と震えながら弱音を吐いていました。近くのデータから湿度を93%としてダウンヒルでは時速30kmで下っていたので秒速8.33m/sとすると体感気温は-23°Cらしい。本当か？と言われるだろうけど、-20°Cまで冷え込んだ日の出前のぬかびら源泉郷で手袋を外して末端が冷え込むまでしばらく歩いたことのある私に言わせると、それに匹敵するほど手が痛かったです。風がいたくて平地すら走り出してはすぐに停まってしまう始末。それに手の指だけじゃない。とても風通しの良い靴のせいで風が常に靴の中を冷やしても足の指の感覚もないのです。あまり詳しくないけれど、このままじゃ凍傷になるぞ。

この痛みを表現するには「痛い」ではなく「いたい」なんですよね。呂律が回っていない感じを表現したいのです。

5:04 湯の花温泉入り



5:07 解凍！痛—————い！



とにかく、温泉まで行けば……！

湯の花まで痛さに耐えていたため道中のことは何も覚えていません。雑草に霜が降りていたのは写真に撮りました。通りかかった湯の花温泉弘法の湯で排水から湯気が出ていたのでこれは助かったと手袋を脱いで手を突っ込むと、指全体が痛みます。-3°Cから45°C？50°C？分からなければ急激に温めて膨張しているのかなと思いました。調べてみるとI度の凍傷の症状として発赤、腫脹、加温すると痛みを認めるとだったので軽度だけど凍傷になっていたのかも。温泉を目的地としていて助かったよ。2°Cから-3°Cで5時間指は素手で自転車に乗っていたの今考えるとヤバいな。気温はちゃんと事前に調べます。

想定より到着時刻が遅くもう少しで湯の花温泉が開きそうなのですがジッとしているのを嫌ったので、山を1つ越えて予定通り先に木賊温泉へ行くことにしました。それに手の指は良いとして早く足の指を湯につけて解凍したい。



5:39

結構斜度のきついプチ峠を越えて下り切り、よし温泉まではあと1.3kmだというところで……、何でパンクするんだよ～～！

仕方ないのでその場で修理、6時には終わりました。

木賊温泉

この温泉の名前は初見では読めないでしょう。「きぞく」ではなく「とくさ」温泉と読みます。



6:06 車が1台(後に登場)



6:08 階段を下りて川沿いに湯屋



Google Maps で見て雰囲気が良いなと期待していた温泉です。川が増水したら大変そう……。実際に何度か流されているそうです。入湯料は令和5年4月1日から値上げした300円、その値段なら全然OK。

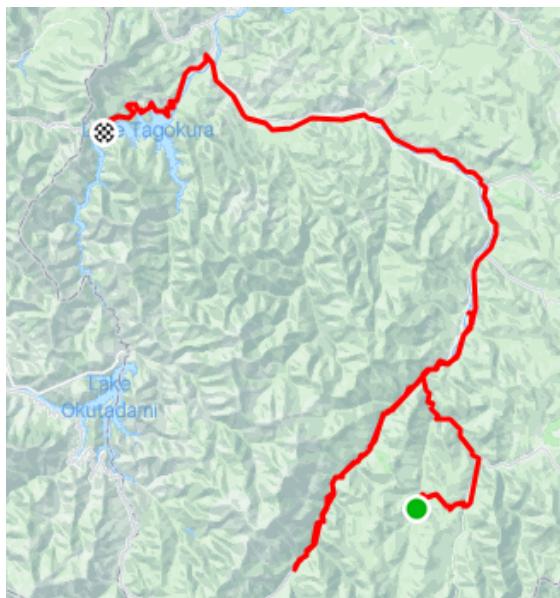


出会い

温泉に入ると先客が1人、どちらからと声を投げると私と同じ東京からだそう。彼はなんとJR東日本で運転手をやっているそうで、数日車で南会津を回っているとのことでした。運転の仕方やどうやって今に至るか、会社のことなど色々なお話を聞かせて頂きました。そしてどういう経緯だったかなー、自転車をばらして車に私と自転車を乗せて頂けることになりました。温泉は湯を楽しむ場でありますが、こうして人との会話を楽しむ場でもあると思っています。

湯についてですが、浴槽は2つあり源泉はなんと足元から湧いていました。湯温は高めで出たり入ったりしながら会話を楽しみました。シンプルな造りが気に入り10点満点中6点。

先ほど旅が移動手段で3パートに分かれると書きましたが、ここからは2パート目の車移動 130km。



温泉で偶然出会った、先ほど見た車の持ち主のかっこいいおじさんを記事の中ではAさんと呼ぶことにします。

7:42 駐車場にて

木賊温泉に着いてから1時間半も経っており相当長話をしたことが伺えます。温泉から上がった私はというと自転車の前後輪を外して車の後ろに積ませて頂きました。只見方面へ行きたいというのと入りたい温泉を伝えると、湯の花温泉へ向かってくれました。彼は南会津に滞在して車中泊をしながら温泉やドライブを楽しんでいるそうで、湯の花温泉はもう入ったそう。車で待っておいてもらえることになったので申し訳なく思いつつ急いで温泉を消化しに行きます。

湯の花温泉

湯の花温泉には共同浴場が4か所あり、石湯・弘法の湯・天神湯・湯端の湯。入浴料はなんと4か所で合わせて値上げされても300円と破格の安さです。入浴券は温泉に掲示されている場所(個人宅なんかも含まれる)で購入できますが、分かりやすいのは民宿「ふじや」さんでの購入だと思います。

石湯

8:01 光が射して自然と心も明るくなりそう



4つの共同浴場のうち湯端の湯だけは数百メートル程度ですが他と離れたところにあったので取り敢えず湯端以外の3湯に入ることにしました。まずは1つだけ川の対岸にある石湯へ。木賊と同じく河原に小屋が立ちます。

岩をくりぬいて造られている浴槽は初めて見るタイプ、採掘場や石切り場のようでとても好きです。木賊温泉と同じくこのシンプルさが良い……、この場所にリンスは似合わない(体を洗いたいなら他のところに行った方が良いよ)。さて湯加減は?と入ってみるとこれがあまりに熱くて入れない。ホースで水を少し入れましたがそれでも入れる温度ではありませんでした(飯坂で入った 47°Cより熱かったと思う)。よく見ると源泉が注がれる浴槽の下流にもう1つ浅いのがあり、こちらなら入れました。4点。

弘法の湯

8:26



続いて凍った私の指を融かしてくれた弘法の湯へ。4湯のうち弘法の湯と湯端の湯だけ男女別になっており残りは混浴です。ここにはシャワーのみ設置されており休憩所もあるので設備が他より充実しています。湯は普通のよりはかなり熱いと感じましたが石湯ほどではなく全身ポカポカになりました。源泉は57.2°Cと書いてありましたが、さっき指を解凍していく時にもしかしてめっちゃ熱いのを触っていた？入れたので5点。

天神湯

8:45



4湯全て無人営業のようですが、弘法の湯では管理している方？がやってきて(温度的に)入れました？と聞かれました。入れたけれど石湯があまりに熱かった。話によると日によって熱さは変わらるのだそう。さて、Aさんの車に寄ってから石湯からすぐ近くの天神湯へ。これまで入った石湯・弘法の湯との泉質の違いは感じられませんでしたが、天神湯はほどよい泉温で、これまた体を芯から温めてくれました。
6点かな。

分析書によると弘法の湯と天神湯の源泉は同じだったので異なるのは浴槽と湯屋、雰囲気ですね。あと1点営業時間について。4湯の営業開始時間は微妙に異なっており、Google Mapsによると石湯・弘法の湯・天神湯は朝6時半から湯端の湯は朝6時からとなっています。湯端の湯は男女別の湯に加えて村民の湯というのがあるらしく、他の3湯から場所も離れており源泉も違うのかなと想像してとても興味がそそられます。湯の花温泉も木賊温泉ももう一度訪れたいと思う温泉です。立ち寄り湯だけではなく風情ある民宿が湯の花にも木賊にもあってぜひ泊まってみたいですし、絶対そばと天ぷらが美味しい。昔の茅葺屋根の集落を見学できる前沢曲家集落にも人気店らしい井桁豆腐店にも行ってみたい！初めて訪れた南会津は再訪したいと思うぐらいには気に入りました。

車に戻るとバイクが1台やってきて3人で話が盛り上がります。ライダーさんは新潟の方から来たと言っていたかもしれない、とにかく道中寒かったそう。うん、私も指千切れるかと思った。今度はAさんに希望を出して、「ここは源泉が全然違う古町温泉ってところに行きましょう」と言い再び車移動。

国道352号を道なりに行けば奥只見記事でも通ったT字路に着きますが、これを檜枝岐と逆方向に国道401号を走ると間もなく古町温泉へ到着します。

古町温泉赤岩荘

2023年11月現在も露天風呂に立った時の感覚を覚えている……！

9:43 ボコボコと激しく湧く湯



10:32 露天風呂



真っ赤な析出物の百枚皿



入湯料は600円と先ほどよりは高いですが湯の花温泉が1湯75円と安すぎるだけです。湯は色のインパクトが強く見るからに鉄分豊富という感じのナトリウム一塩化物泉です。内湯と外湯は繋がっていないので移動する際は一旦服を着る必要があります。内湯も外湯も無加水無加温の100%源泉かけ流しで、湧いて手の加えられない温泉が楽しめます。内湯では不規則に温泉がパイプから湧いており凄い湯量だなと吃驚しました。内湯もほどほどに楽しみにしていた露天風呂へAさんと行くと先客が1人、お茶を持ち込んで湯に浸かっていました。天候が良く赤褐色の湯が太陽光で照らされネットで見た写真のものよりもはるかに鮮やかでした。紅葉と同じで温泉も条件によって見え方は変わるし同じ温泉に二度行ったとしてもその場で感じることは変わりうるのだなと気付きを得ました。浴槽は2つに仕切られており注ぎ口から近い方は熱め、竹をパイプとして使って遠い方の浴槽へ源泉を引き込むという斬新なことをしていました。先客のおじいさんは地元の方で毎日入っているそう。口調まで覚えていないので箇条書き。

- ・○○台風の時は怖くて家を含めて何もかもが流されてしまった
- ・足が大きくて合う靴が地元になかったから若松まで一日かけて行ったが、帰ってきたら町がなかった
- ・学校がボロかったから(台風に乘じてかも)火をつけて燃やしたら再建されて立派なものができた
- ・会津地方で8月に桜が咲く場所があるらしい

私の聞き間違い記憶違いもありうるのであまり真に受けない方が良さそうだけど、とにかく面白いお話を聞かせて頂きました。もう一点、これは本当。

・温泉はしっかり流して上がった方が良い←服もタオルもオレンジに染まってしまいそうなのでね朝の氷点下から気温も上がってきて5月らしい風が心地よく良い時間を過ごせました。おじいさん、私のために竹筒を動かして水道に繋げ湯温を下げてくれてありがとう。

赤岩荘では軽食が食べられますが檜枝岐のそばが食べたかったので A さんと一緒に檜枝岐方面へ行くことになりました。温泉では温泉タオルが売っておりここのは赤褐色のタオルと珍しく買うかどうか迷っていたら A さんが買って私にくれました。ありがとう！今では我が家のお風呂用タオルになっています。

10:39 古町温泉赤岩荘を出発

11:21 裁ちそば まる家



温泉から檜枝岐は結構遠くて 25km もありましたが車の速さに感動していました。自転車だと 1 時間以上かかる距離なのでもはや自転車では成立しない行程になっています。ドライブ中は列車の運転方法などを車と坂道で実演してもらい楽しく時間を過ごしました。

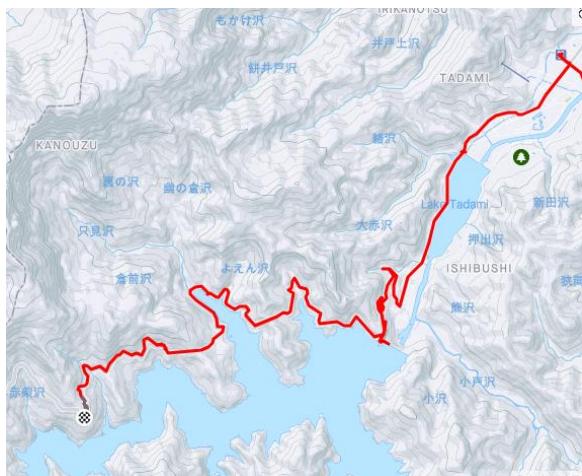
この日の終着点は新潟県まで抜けた先の南魚沼にある五十沢温泉であり 18時までに着く必要がありました。檜枝岐から只見までの 60km に加えて只見から五十沢温泉まで 85km あるので流石に全部自転車是不可能であり可能なら只見まで送って頂こうと考えていました。只見駅出発の最終ラインを 12 時 40 分と考えており車で 60km、行けるか……？という時間ギリギリの状態でした。

結局只見駅まで送って頂き、前半は私の国道標識撮影に付き合ってもらい後半は睡眠不足からか眠ってしまい気付けば只見駅に着いていました。

12:45 只見駅「あそこで列車は停まらないといけないんだ(白黒の標識を指しながら)」



只見～六十里越の移動ログ



12:56 只見ダム 5月で雪が残っているんだ



出発最終ラインの 12:40 を過ぎて 12:50 時点で只見駅に居たので車にもう少し乗せて頂かないと厳しそうです（まあ無理なら無理で気合で間に合わせましたが）。せっかくここまで来たのだからということで只見ダムと田子倉ダムを見に車で峠道を上り始めました。

只見ダムと田子倉ダムは非常に距離が近くダムが 2 つ連続して設置されているという中々見ないタイプで、その落差から道の険しさを感じさせます。

今回は R352 の予行として R252 を走っており R352 への期待が高まっていました。

13:05 道中 R352 と同様に R252 も狭い道です



13:13 田子倉ダムより只見ダムを臨む



私は詳しくない
のだけど、ダム好
きな先輩は只見
川沿線に沢山ダ
ムがあるから楽
しめるんじゃな
いかな。ぜひ行っ
てみて下さい。

ダム堤体にはヘ
ルメットの集団
が。新人研修だろ
うなー。

「その、もし可能でしたら峠の頂上まで送って頂けるとありがたいのですが……。」

「良いよ。」

この余裕が旅してるって感じだなあ。私は行程を 1 つ作ってその場の出会いに応じて作った行程を部分的に壊すというスタイルですが、もうこの完全に気ままに行動している感じが良いですねー。自転車の毎時 20km と違って車のスピードだとこんな余裕が生まれるんですね。結局、ドライブが好きな方だったので快く頂上まで送って頂くことになりました。

田子倉ダムからしばらく上ると一瞬だけ只見線がトンネルから外に出る区間があり、ここに 2013 年に廃止となって田子倉(たごくら)駅があります。マップを見れば伝わるのですが田子倉駅は意味の分からないところに位置しており誰が利用するのだと言いたくなる、いわゆる秘境駅でした。秘境駅と言えば飯田線の小和田駅、あそこは 40 分登山をすれば塩沢集落に出ますし道中にもかつての生活の痕跡があったので駅があるのは分かるのですが、田子倉駅の周りには家などないので。というか国道 252 号が積雪で半年以上封鎖されているから住めない。登山客が使ったのでしょうかね……？

13:34 この真下を只見線が走っています(覆道の天井) 13:35 封鎖された駅舎を垣間見る

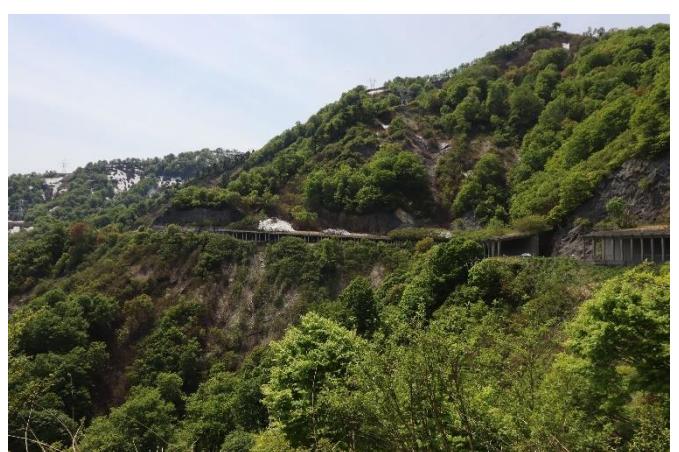


Aさんと段差を上ったり草を分けたりして駅舎を一周してみました。

「何でこんなとこに駅があるんだろう、会社に行ったら聞いてみるか。」

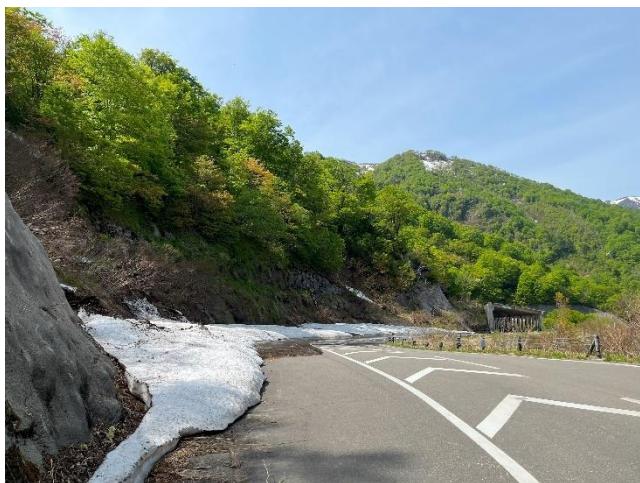
13:40 覆道が凄い区間(語彙力)が続きます

13:43 今まで見たことのないタイプの道

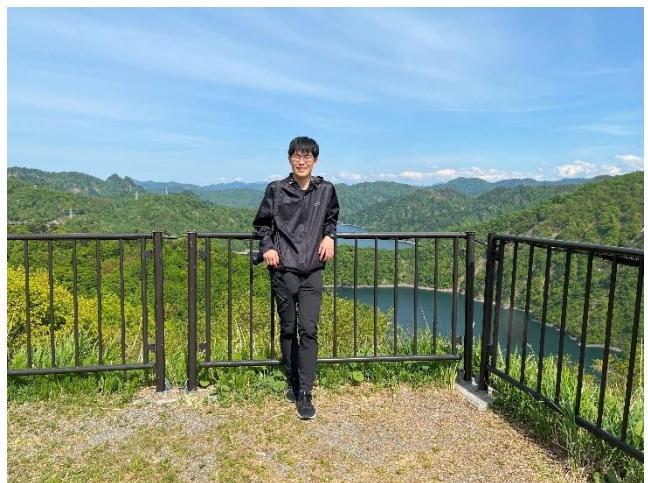


途中アイヨシの滝・あいよしの沢という場所を通ります。ここについて現在の道は山肌に沿う形になっているのですがこれは元々旧道で、橋が流されてしまったそうです。

13:53 頂上が近づくと道路に雪が！

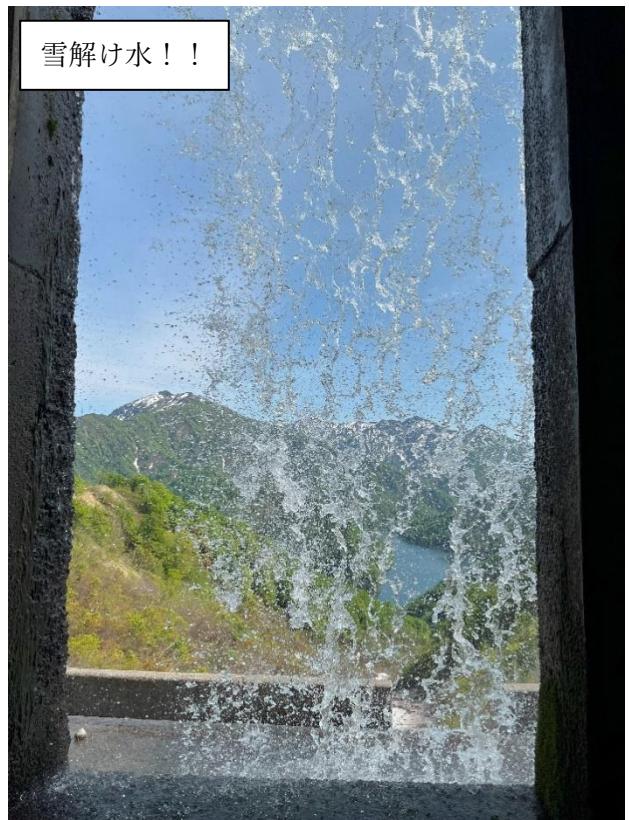


14:00 六十里越峠開通記念碑の展望スポット



六十里越峠開通記念碑の辺りでは山々の中を蛇行する田子倉湖の支流を俯瞰でき撮影スポットと言えるでしょう。頂上ではなんと道端に雪が残っていて桜も咲いているという初めての体験がありました。冬に只見エリアに来たことがないから想像がつかないのですが、只見・檜枝岐・奥只見は相当雪深いのだなということは伝わってきます。開通記念碑が峠手前の最後の駐車スペースなので車を停めて、残りの67kmは自転車で走ることにしました。

14:17 A さんと連絡先を交換して別れました。私は峠を越えて新潟へ、彼は来た道を引き返して福島へ。



14:31 隧道を潜り抜けて新潟県入り



14:35 シェッド 3連の九十九折



六十里越の新潟側はあまり下っていて楽しくはありませんでした。シェッドは福島側で見飽きましたし普通の峠道で目新しい要素はありませんでした。只見線もある程度行かないと現れないし。紅葉の季節には福島側と合わせて走ってみたいかな。個人的な好みですが景色が良い区間は下りではなく上りに持ってきたいんですよね。上りだと速度を出したくても出せず低速で下から上まで景色と向き合い続ける必要がある一方、下りで速度を出していると見落としが発生してしまいます。

眠気で一度こけそうになったのでセブンで休憩。

16:17 1日3本の只見線には小出の1つ隣駅で邂逅



16:48 田植えの季節、青空の下、南魚沼ストレート



どこで会うのかと楽しみにしていた只見線の列車はほぼ末端の小出駅のお隣、敷神駅へ丁度入線してくださいところでした。ふと思ったのですが、○○橋梁など只見線を狙った場所で撮れるのは日本の鉄道運行ダイヤが正確なおかげなのですね。定刻に列車が来るのが当たり前だと思っているから橋梁を何時何分に通過するのか大体算出できるのです。そういう意味でも、Aさんありがとうございます。

17:30 本日の宿、五十沢温泉ゆもとかんに到着

以上、5/12：自転車 164.6km 2,432mUP、車 130.33km でした。

5/13 7:27 翌朝の朝食



五十沢温泉ゆもとかん

温泉は内湯1に混浴露天1、あまり何も考えずに入っていたので多くは語れないのだけど浴槽の配置が好みだったので4点。自分は大きな旅館のお風呂では満足できない傾向にあるな……、せいたく言えば秘湯とか鄙びとかそういう要素が欲しい。

朝飯のバイキングは魚沼ということで米が美味しかったし、米と合わせるものが沢山あって満足でした。

8:52 出走

この日は越後湯沢から鉄道輪行で帰ることは決まっていたので魚沼エリアの近場で面白いものがないか探して行くところを決めました。入りたい鉱泉が1つ、有名な清津峡が近かったので寄って星峠の棚田も有名だから寄るという感じ。午後は雨予報だったので早めの進行を心掛けました(その割に出走は遅い)。

まずは六日町から上越線沿いに 20km ほど南下して石打駅というところまで。



8:55

魚沼と言えばコシヒカリ、丁度今が田植えの時期で植えられたばかりの苗が可愛らしいです。石打駅で大学の前を通っている国道17号からは外れて国道353号の上りが始まります。上り始めて間もなく、目的としていた鉱泉である「上野鉱泉」に到着。2023年5月時点では上野鉱泉に入る宿は3つ：名月荘、中の湯、松寿館でした。泉温が14°C~16°Cということで冷泉好きとしては行くしかありません。ただでさえ冷泉は数が少ないのだから。

9:52 上野鉱泉中の湯



中の湯前のガードレールに自転車を停めて引き戸を開けると人はおらず、右手の部屋から話し声が聞こえてきます。日帰りができるかと聞いたら宿のおばあちゃん曰く「今日はやってないんですよ。ごめんね。」とのこと。潔く諦めて今度は名月荘へ。引き戸を開けて同じように聞きますが、今度はお客様(宿泊客)が午後に来るからまだ貯めていないとのこと。もう1か所宿はありましたが、今回は縁がなかったのだと諦めて一旦コンビニへ。まあ雨も迫っていますし。

上野鉱泉には奥の湯という宿もありましたが続く道は封鎖され廃墟となって立っていました。潔く諦めて清津峡まで 15km の道のりを削っていきます。最初は軽いヒルクライムのような上り基調でシェッドとトンネルが連発、清津峡目当てなのか交通量が結構多く車が怖かったです。

11:00 清津峡に到着

清津峡と言えばトンネルが水面に反射した写真が有名で某 SNS によく流れています。検索して調べていないので、あれがどういう状況なのかよく分からず自分の目で確かめようと思いました。どうせこんなもので感動するわけはないのだからと通り過ぎる案も頭をよぎりましたが、グッと堪えて訪れるに決めました。自分が自転車を停めたところの駐車場は埋まっており、道中も車の列ができて賑わっていました。自転車は私 1 人だけ。

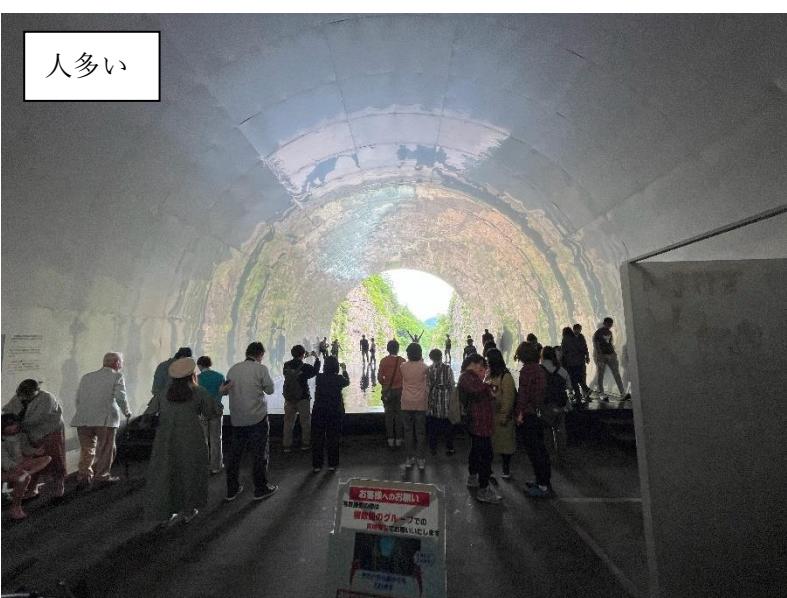
清津峡渓谷トンネル

なるほど。清津峡というのはやはり渓谷であって、これを良い位置で見るためトンネルが掘られたという認識で合っているのかな？えっ、通行料が 1,000 円！？ええ商売してはんな！袋田の滝は 300 円だったのに……。少し高く感じましたが、まあ初回なので大人しく払いましょう。

11:03 柱状節理の装飾を施した坑門



トンネル内の説明文を読むに、昔は渓谷に沿って遊歩道があったものの 1988 年に発生した落石死亡事故のため遊歩道は封鎖され、再び清津峡を見られるようにしようと掘られたのがこのトンネルだそう。これ層雲峡と似たようなパターンだな。現行銀河トンネルの旧道区間こそ本当の層雲峡と言えると思うけれど、この区間にアクセスすることは叶わなくなってしまった層雲峡の魅力の半分が、層雲峡の魅力全体だと普通の人は認識するのです。昔の遊歩道を歩けないかと調べると部分的な歩行記録が 1 つありました。



清津峡渓谷トンネルは坑内分岐や断面変化が多くてトンネル好きとしては見てて楽しいです。換気装置がパツと見て見当たらなかったのが気になったけれど穴だらけだからまあ良いのかな。トンネルには横穴が掘られており川の流れを横から、柱状節理の壁と共に観賞できます。横穴に謎のアートが設置されているけれどこれは謎、どんなコンセプトのアートなのだろう。トンネルの突き当りがある有名な写真の場所であり、清津峡渓谷トンネルの反対側の坑口になっていたということです。地面から一段高い所に非常に浅いプールのように水が溜められておりリフレクションを作り出しているよう。人が多すぎてあの先っちょから人が絶えることはあるんでしょうかね？雨が降ったらすぐ水が入ってくるような靴を履いていたので先っちょまで行くのは躊躇われましたが、流石にここまで来たらということで行くことに。トンネルの真ん中が深くて隅の方なら浅いので何とか濡れずに済みました。



11:18 適当でも良い感じに撮れました

そんなことよりあの遊歩道行きたい行きたい行きたいぞ



帰りは真っすぐ早足で、トンネル内は単色の赤や緑にライトアップされていて普段の隧道潜りと違う体験ができて面白かったです。目の付け所を間違えている気はするけれど、初回の清津峡は低かった期待よりは面白かった。

現トンネル右側の「穴」



旧トンネル 1



旧トンネル 2



穴に入りたくなったので態々歩道に上がって K389 清津公園トンネル旧道へ。

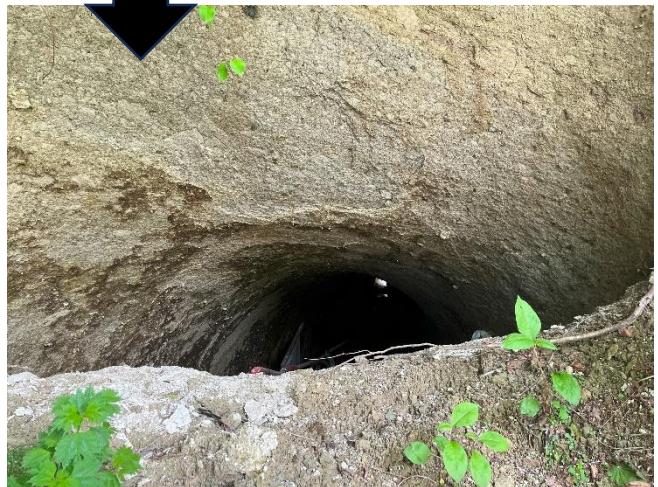
清津峡の次はちょっと「穴」に入りに行きますよ～。

国道 353 号清津峡トンネル旧道

11:49 R353 清津峡トンネル旧道十日町側



旧道・廃道でお馴染み某サイトで R353 のこのトンネルが紹介されており、複数世代の道とトンネルが存在し面白かったので自分の目で見てみることにしました。辺りを見渡すと「 $\sqrt{10}$ m 瀬戸渓谷」と書かれた看板がありました。実はこの地点から現在清津峡と言われ観光客が楽しんでいる区間を通った更に上流までの 12km を瀬戸渓谷と言いかつては遊歩道で通り抜けることができたそう。私たちが清津峡と思って楽しんでいる区間約 1km は 12km の瀬戸渓谷のほんの一部でしかないのです。

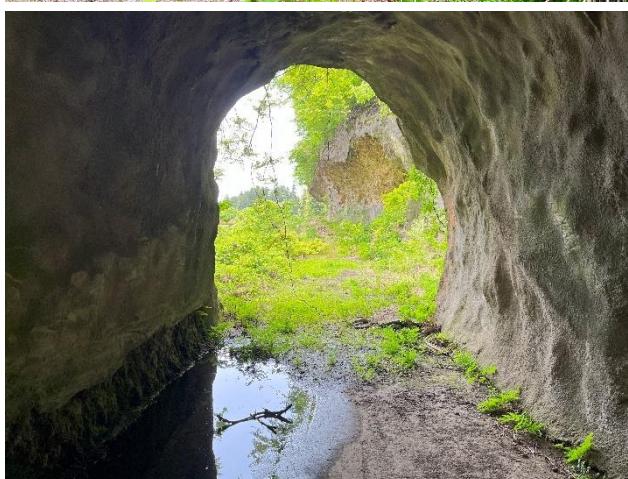


まだ現(役)道(路)にいるけれど色々見えちゃってるねー。左上の写真は現トンネル脇の旧国道、ここで旧国道と現道に挟まれる形で意図的に埋められた穴を見逃しませんでした。右下が謎の穴を拡大した写真で、隧道は貫通しているものの中は部分的に水没していることが確認できました。坑口のサイズを考えて明らかに車用ではないこの隧道は雪中隧道という類のものです。雪中隧道とは豪雪地帯である新潟県の十日町市などを始めとする魚沼地方において見られる隧道であり、冬でも歩行者の通行を確保するために掘られた人道トンネルです。少し脱線して、2004 年の新潟県中越地震で震度 6 強を観測した山古志村という村では各地で地滑りが発生し全集落が孤立、最終的に全村避難に追い込まれました。更に土砂により川がせきとめられ村が水没してしまうという衝撃的な写真が残っています。この山古志村では子供たちが楽に通学できるようにと多くの雪中隧道が掘られたそうです。ただ、簡単

に分かるような場所にはなさそう。他にも山古志には手掘りの道路トンネルとして日本最長の 922m を誇る中山隧道があります。話を瀬戸渓谷に戻して、今ではコウモリの住処になっていそうな目の前の雪中隧道に入る気は起きないので旧国道に足を向けることにしましょう。



特に封鎖は無かったのですが普通の人はこの道を見て入らないでしょう。だって目の前を見たら片洞門が凄いオーバーハングしているし、何より怖いのは吹付けコンクリートが経年で剥離したものがバラバラと路面に堆積していること。この片洞門区間において積雪時も歩行者の通行を確保するため、進行方向左手の地中に雪中隧道が存在するのです。コンクリートその内側にある脆そうな岩に気を付けながら進むと旧国道の隧道が見えてきました。名を瀬戸口隧道と言い全長 134m で 1954 年完成だそう。



(左上)雪中隧道の清津峡側坑口

(右上)旧国道 353 号瀬戸口隧道十日町側坑口

(左下)これが旧国道……、旧国道にしても道として最低限過ぎる気が……。1 車線分の幅しかないし片洞門も危ない。国道 229 号の弁財桟橋区間みたいです。

(右下)瀬戸口隧道を奥まで進んでみるとこの先通行止めの看板がありました。この旧国道は現清津峡トンネルができた後しばらくは瀬戸渓谷遊歩道として使用されたようです。中里村は 2005 年に合併して十日町市になったので通行止めになったのは 2005 年以前、今から 18 年以上前のことだと分かります。



先に右側の写真について。隧道に開いた横穴から身を乗り出して真下を見てみると非常に狭いものの平場が確認でき、某サイトの調べによると明治 43 年から大正元年にかけて工事した道らしい。今から 100 年以上前にこんな急流の縁に道を想い描いた人、工事した人、令和の時代にこれが道であると気付く人、皆に敬意を表します。

瀬戸渓谷と清津峡 / 瀬戸口隧道と清津峡渓谷トンネル

この瀬戸口隧道は隧道にしては珍しく横穴が 3 つも開いているのですが先ほどの 3 つ横穴が開いていた清津峡渓谷トンネルを思い出します。国道→旧国道→遊歩道→旧遊歩道→廃道と辿って来たこの隧道を観光するのは私ただ 1 人、一方で清津峡渓谷トンネルは沢山の人で溢れかえっているという対比にどこか寂しさ、そして悔しさを感じます。この道だって瀬戸渓谷遊歩道というれっきとした観光資源なのにさ、打ち棄てられて、見放されて。観光客は清津峡に集中してトンネルの先端でインスタ映えだの言ってポーズを決めているのです。あの有名な水鏡の写真のどこに清津川が映っているのか、映っているのは人工的に張られた水です。調べるとあの水鏡は途中の横穴に設けられていた謎のアートと同様に 2018 年に設置されたらしい。設計のコンセプトを読んだけれど私の感性では全く理解できないもので、死亡事故により封鎖された遊歩道の代替として何とか清津峡の渓谷美へ手が届くようにしたいとの思いで掘ったトンネル、その思いを上書きする訳の分からない存在に映るのです。そしてカメラを構えて皆同じような写真を水鏡で撮っているけれど、あなたたちは渓谷や柱状節理ではなく何を撮っているの？ 少数派の意見でしょうが、観光客さえ来たら何でも良いのか？ 日本三大峡谷なんて大層なものを謳うなら自然の美しさと真っ向から向き合える環境を残して欲しかった。ずっと手すりに肘をかけて渓谷を眺めていたら他の人が下らない映え写真を撮る邪魔になるし、周りのノイズがうるさいのです。まあ 1,000 円払った価値はありました。

「9/8 最盛期には 1,500 人が住み林業で栄えた山奥の地。鉄道の終着駅だったが、それも廃止されて今では 2 世帯が暮らすのみ。観光地というのは如何に魅力を作るかが大事だと思っていて、まあそういうのも悪くないが中々心が動かされることはない。そもそも景色を目ににするまでの過程があって感動とは生まれるものだが、過程を抜きにしてもこの場所は好きで 1, 2 時間でも風と虫の声を聴いていたい。人間の手が加わっていない自然の方が美しい。心に強く残るものを求めて日本を旅行している。」

結局、私はおそらく立派に飾り付けられた作り物じゃ感動しないのです。

清津峡のような観光客が集中する A 級観光スポットの陰で廃れていく B 級、C 級観光スポット。私は心を大事にして旅行したいし、手の届く範囲なら輝きに依らず如何なるものでも拾い上げたいのです。だから私は写真を数多く撮るので。標識 1 枚取っても見逃したくない。

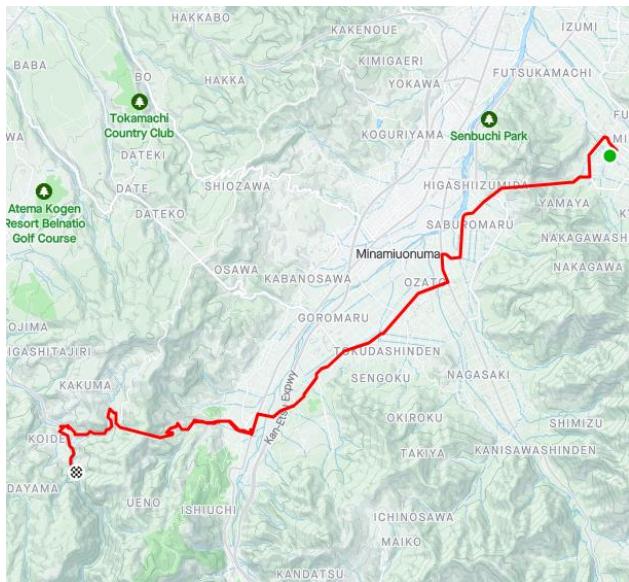
2023/11/21 AM2:39 清津峡は極端な例です。

瀬戸渓谷遊歩道で綺麗な花を見つけました。タニウツギらしい。

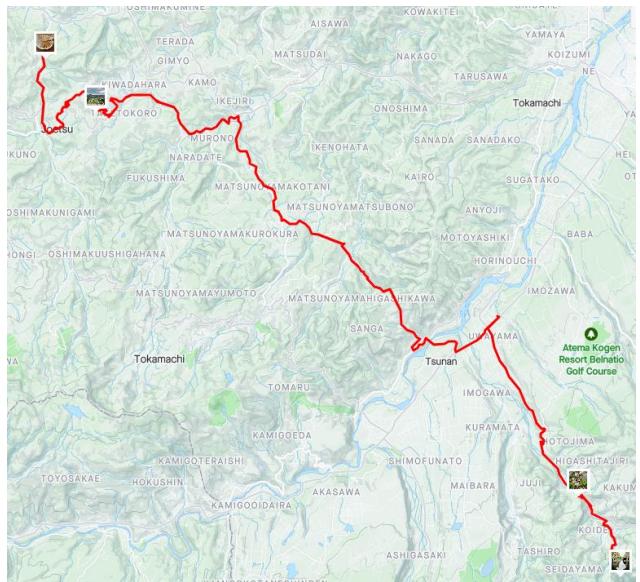


2023/5/13 12:05

清津峡まで 32.23km 643mUP

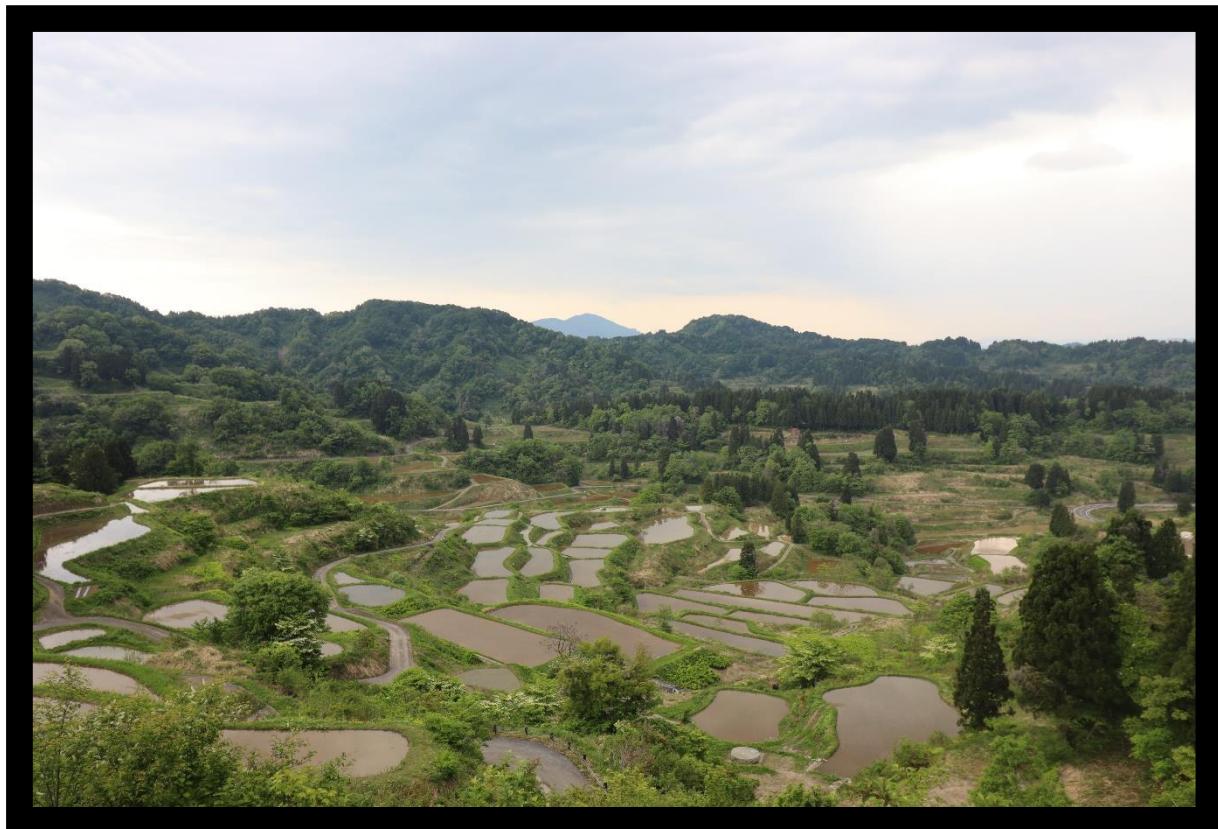


清津峡からほくほく大島 48.18km 873mUP



清津峡トンネルからは再び国道 353 号を走って飯山線を渡って松代へ。松代からは国道 403 号に乗り換えましたが、14 時頃から雨が降り出し 14 時半前まで倉庫に付いた狭い軒下で雨宿りをすることになりました。だらだら走って星峠の棚田へ。松代地域の棚田は 2009 年大河ドラマ天地人の OP にも登場したそう。斜面の土地を有効活用しようという意図の元生まれた棚田ですから田植えは機械が入れなくて手で植えているのでしょうか？

星峠の棚田



14:52 機械植え



14:55 手植え



15:03 国道標識とその土地を絡めた、こういう写真が撮りたい



下の湯温泉前にも停めてあったこの車をシニアカーと言うそうで田舎ではよく見かけます。おばあちゃんが道路右側の外側線外側を走っていて逆走逆走と思ったのですが、調べてみるとシニアカーは道路交通法では歩行者とみなすようで歩道や幅の十分な路側帯がある場合はそこを通り、歩道がない道路では右側を通行することが求められることのこと。ならこれはOKなのかな。

ほくほく大島駅の直前で1つだけ寄る場所があります。「日本一うまいトコロテン」を謳うお店です。

15:12 日本一うまいらしい



15:21 4月下旬～10月中旬の営業



普通に生活していてトコロテンを食べることはあまりないと思います。食べるのいつぶりだろう？ 店名も商品名も「日本一うまいトコロテン」、日本一の味を楽しませてもらおうじゃないか。鯉の泳ぐ池に注ぐ小さな滝を眼前に食べ、清涼感が増します。味だけじゃなくてお店の空間づくりも食事体験には重要なものです。まずそのまま食べると想像通りの食感ですが、調味料が机に置いてあり醤油、酢、しそ醤油を順にかけて味を変えていきます。この中ではしそ醤油が持つて帰りたくなるぐらいに美味しいかったです。暫定日本一！値段は 300 円、箸 1 本で食べるものだとは知りませんでした。

15:41 ほくほく大島駅



再び雨に降られることもなくほくほく大島駅に到着し、輪行をしてエレベーターで高架になっているホームへ上がりました。何気なく撮った左のトンネルは鍋立山トンネルと言うのですが、このトンネルは日本のトンネル工事でも最上位の難工事を極め語り出すと日が暮れてしまいます。1973 年から 1995 年の 22 年をかけて掘られた 9,117m のトンネルであり、最後の 645m を掘るのに 10 年以上かかりました。月進マイナス 100m は絶望やな。

<https://www.nicovideo.jp/watch/sm18513266>

17:19 越後湯沢 寿司



17:28 ここは 2 回目



ほくほく大島から鍋立山トンネルを通り先着列車の都合上六日町で下車し、越後湯沢へ。

最終水上行き普通列車を始めの列車として東京まで鉄道で帰りました。

Ex2. 南会津の温泉 完結

あとがき

最初 50 ページぐらいになるかなと想定しており編集担当にもそのように伝えていたのですが、北海道記事よりページの余白を削ったにもかかわらず 134 ページになってしまったのは旅の要素を 1 つ 1 つ列挙してみると自分が思う以上に色々な体験をしていたからでしょう。これでも地図や地形図はあまり載せずページ削減を試みたつもりなのですがね。

コンテンツの作成日時	2023/11/07 0:12
前回保存日時	2023/11/22 22:10
前回印刷日	2023/11/21 21:18
総編集時間	138:53:00
134/134 ページ 94133 單語	

本記事は 2023 年轍への寄稿記事として書きましたが提出フォームを覗いても 12 ページの記事が 1 つあるのみだったので 1 人で 100 ページ書いてもあまり迷惑にはならないと思っています。コロナを境にサークル記事の提出は激減してしまいました。私が現役 1 年だった 2019 年は轍を始めとして毎月発行の会報にも個人記事がそれなりの数寄せられていたのですが、翌年にコロナが蔓延してサークル活動は停止し(私の怠慢でもありますが)会報発行頻度も低下。2023 年にはサークル活動も既に再開しており定サイの開催報告などは流石に寄せられますが個人記事が殆どありません。先日会報記事云々について軽いショックを受けたのですが、私が書いた 610 ページの北海道記事の存在すら知られていなかったのです。あんな長くて上手とは言えない文章を読まないのは別に良いとしても存在すら知られていないって。同期も会報記事が発行されてもリンクを踏むことすらしていないようです。

言いたいのは私の記事を書くモチベーションがないこと：もう書こうと思わないのです。たまに先輩から「OB の方は結構読まれているらしい」と伺うのですが、書き手からすると感想なり読了報告なりが無ければ読んでいないのと同じなのです。書き手になって「同人誌の感想が欲しい」とはこういうことかと理解しました。例えば 2010 年代前半の会報を見てみると数多くが寄稿されており、「感想寄越せ」と同期の友人に直接言うことは無かったと想像しますが、これだけ寄稿する人がいるのだから誰かは読むだろうなと読者の存在を感じられたと思うのです。今では、ね。

この箇所を何人が読んでいるかは分かりませんが北海道記事と同じくフォームを置いておきますね。

誰でもどうぞ：<https://forms.gle/FAxXSnQ517rrrQS86>

纏めると感想くれたら嬉しいな～ってだけ。記事は長いから「最後だけ読んだよ」でも何でもどうぞ。

書くモチベーションはないけれど書くと言った以上 2022 年 9 月の北海道記事は 1 年半以内にいつか出せたら良いなと思っています。

記事ではビューポイントの情報だけでなく、私の旅の仕方や考えていることなど主張を結構書いたつもりなのですが、所詮は私個人の考えなので気にしないで下さい。本当は北海道記事で書くつもりだったけれど中々着手できなかったのでこの場で思うことを書いてみました。

2023/11/21 15:20 執筆終了

2023/11/21 23:22 305 節所修正

2023/11/22 22:10 再修正